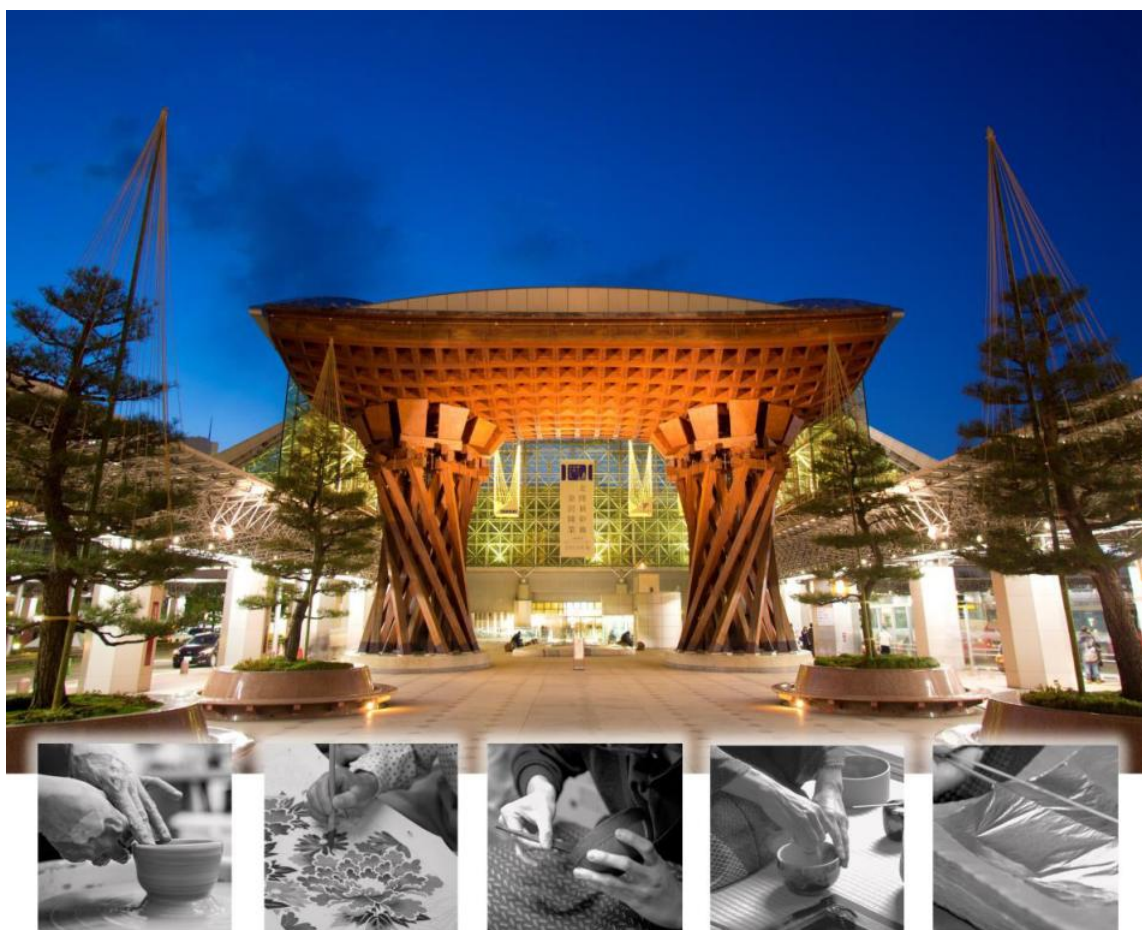


「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」
～伝統工芸と建築～



令和5年7月

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

日本建築士会連合会 女性委員会 ホームページのご案内

日本建築士会連合会女性委員会の活動や
全国女性建築士連絡協議会の動画、魅力
ある和の空間ガイドブックWEB版などを
掲載しています。ぜひご覧ください。



日本建築士会連合会 女性委員会 HP
<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>



目次

1	ごあいさつ	
	公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美	2
	公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 近角 眞一	3
	公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 淡路 孝次	4
	一般社団法人 石川県建築士会 副会長 田尻 純江	5
2	令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会プログラム	6
3	会場案内図・オンライン配信案内	8
4	基調講演	13
	石川らしい文化でおもてなし	
	北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」	
	講師 大場 吉美（おおばよしみ）氏（金沢学院大学名誉教授）	
5	被災地報告	20
	「東北～復興支援道路が全線開通して」	
	東北ブロック会 女性委員会 青森県建築士会 近藤 容子、岩手県建築士会 志田 文子 宮城県建築士会 小林 淑子、福島県建築士会 村越のぞみ	
6	活動報告	27
	「静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み」	
	静岡県くらし・環境部建築安全推進課 建築耐震班長 市川 府元 氏	
7	分科会	32
	A分科会 あつまれ～旅好き建築女子！「魅力ある和の空間ガイドブック」part 5	33
	B分科会 バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー	40
	C分科会 「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～	45
	D分科会 「住まい・まちづくりを考えよう」小中学生の住教育出前講座	50
	E分科会 「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組	54
	F分科会 「灯台が照らした未来への道すじ」	59
8	エクスカーション	64
9	都道府県建築士会女性委員会（部会）活動報告・アンケート集計	66
10	第65回全国大会「しずおか大会」参加のご案内	82
11	お知らせ	88
	・「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」について	
	日本建築士会連合会災害対策委員会	
	・「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」	
	UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）	
12	協賛団体・企業	93

1 ごあいさつ

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）開催にあたって



公益社団法人日本建築士会連合会
女性委員長 本間 恵美

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会石川大会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。また、日頃より公益社団法人日本建築士会連合会女性委員会の活動に、ご支援ご指導を賜り心より御礼申し上げます。

開催地の石川県では、能登地方を震源とする地震が続いています。5月5日には、珠洲市で震度6強を観測しました。地震被害への対応もある中で準備し、開催していただいた石川県建築士会の皆様には深く感謝申し上げます。また、全国各地での地震発生及び、線状降雪帯よる大雪と線状降水帯による大雨の被害も毎年起こり、常に災害に備えた準備が必要となってきました。各地で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年度のテーマは「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」～伝統工芸と建築～です。基調講演では、金沢学院大学名誉教授の大場吉美氏をお迎えし、石川らしい文化でおもてなし、北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」をテーマにご講演いただきます。日本一美しいと言われている金沢駅の美しさの原点は、伝統工芸を大切にしてきた石川県の文化の中にあることなどをお話しいたします。

被災地報告では、東北6県がひとつになり東北ブロック会女性委員会として、東日本大震災後の現状報告をしていただきます。また、活動報告では、全国に先駆けて防災に取り組んでこられた静岡県の活動を、静岡県くらし・環境部建築安全推進課よりご報告していただきます。

分科会では6つのテーマ、あつまれ～旅好き建築女子！「魅力ある和の空間ガイドブック」part 5、バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー、「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～、「住まい・まちづくりを考えよう」小中学生の住教育出前講座、「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組、「灯台が照らしだす未来への道すじ」について、活動報告と意見交換をいたします。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での活動はもうすぐ4年になります。今回の協議会は、昨年に続き全国からの会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催いたします。久しぶりのエクスカッションもあり、少しずつ以前の形に戻りつつあります。各都道府県建築士会の活動も、新型コロナウイルスに対応しながら活動する術を身に付けてきたように思います。今回の協議会を通して学んでいただいたことを、これからの活動に活かしていただけることをお願いしてご挨拶いたします。

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）開催にあたって



公益社団法人日本建築士会連合会
会長 近角 眞一

皆様、今日は。日本建築士会連合会会長の近角です。

本日は第32回全国女性建築士連絡協議会の石川での開催、誠にありがとうございます。今回は～伝統工芸と建築～を副題に、「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」をテーマに開催されるとのこと、基調講演、全国からの報告・被災地からの報告並びにアピールを聞かせていただくことを大変楽しみにしております。全建女と言えば、永年にわたって「魅力ある和の空間」を軸に、毎年、様々な切り口で、現代に生きる建築士の課題を明らかにして、その解決に向けて熱心に取り組まれているグループであると拝察申し上げている訳ですが、昨年は、ずばり「脱炭素」に切り込まれた内容だったので、会長の私が、今、最も力を入れているテーマでしたので、皆様の受け止めの行方を、大変興味深く追跡させていただいている訳です。

今年のテーマを、私は“相続”と受け止めました。魅力ある和の空間を表現しているのは建築だけでなく、建築を支える技術・手仕事があってこそ「和の空間」が生き生きと立ち現れてくるわけで、その技（わざ）を引き継ぐことが出来て初めて「和の空間」を絶やすことなく後世に引き継いでいくことができるわけです。伝統工芸と、わざわざ建築とは区別して書き分けて居られるのは、もっぱら木を扱う大工では無く、建具、家具、表具その他の道具類、そしてそれらの表面を塗り、貼り、飾る、紙、布、箔、漆、金属、土類、その他、諸々の材料で組み上げて仕上げる職人こそが、建築に息を吹き込む、可動の物の世界を操るものこそが「和の空間」の主演であり、住まい手が直接に手を触れる所のものを作り出す人々です

「和の空間」に於いて人の手を介して、光を入れる、閉じる、風を入れる、閉じる、暖を入れる、閉じる。その入りと閉の間に何段階もの微妙な中間があって、日本人の感じる季節の心地よさが受け継がれていきます。私が相続といったのは、技術・手仕事の相続だけではなく、可動の物を手加減で調整して、自分自身の身体の心地よさを作り出す習慣の相続であると感じたからであります。

私が、今年の全建女のテーマが、昨年のテーマを引き継いでいると感じるのは、昨年のいわゆる脱炭素の世界がゼロとイチの2項で成立しているのに対して、今年のテーマが掲げる世界は気候風土に身を置いて、あたかも自然の一部であるかのように身体が自ずと動くことによって、自然エネルギーから心地よさを引き出す次元に踏み出していると感じるからです。グローバルな価値観である昨年のテーマの中に、今年のテーマを取り込むことが出来ないかを皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）開催にあたって

公益社団法人日本建築士会連合会 女性委員会担当副会長
一般社団法人 秋田県建築士会 会長
淡路 孝次



能登地方における最大震度6強という地震により判定業務累計2,700件を超える中、照田会長様並びに石川県建築士会の皆様にご尽力いただき、第32回全国女性建築士連絡協議会大会が当地で開催できますことは、女性委員会担当理事として感謝申し上げますと共に被災に見舞われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

女性委員会ではこれまで様々なテーマに対して、女性の細やかな視点で実践活動を通して提言に取り組んでおります。昨今の気候変動などによる天災にも数年間にわたり取り組んでおり、その成果は全国の被災地復興に寄与しております。そのような意味から、この度の石川大会は意義あることと理解いたしております。

また、地球規模での様々な事象に対してはSDG s 持続可能な開発目標が提唱されておりますが、日本では古来より気候風土と調和を図って開発してきたことを考えると、多くの部分でSDG s に適応している文化と言えるのではないのでしょうか。その中の重要な一つに地域の気候風土に適応させ形作られてきた和風建築が存在していることに異論はないものと思っております。女性委員会では2016年より全国の「和の空間の魅力を探る」活動をしてきておりその集大成として

和の空間の魅力を探る ふぁいなる ～「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」

として全国版や地域版にまとめられ連合会のHPで公開しております。左様に人間生活に密接に関係するテーマに積極的に取り組んでいるのが女性委員会であります。

今大会開催地は、歴代藩主が文化奨励策を推進した加賀藩であり、第二次大戦で空爆を受けない為多くの街並みや多彩な伝統工芸が今も受け継がれている金沢市を主会場に、日本の歴史・伝統を紡ぎ、繋いでいくことが必要と考え、以下を本年の大会テーマとし取り組んでおります。

「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」 ～伝統工芸と建築～

正に開催地の特徴をとらえたテーマでの開催であると思っております。

今大会が全国女性建築士連絡協議会の今後の活動に大きな一歩を記され、委員の皆様の実績を結ばれることを祈念し大会にあたりましての挨拶といたします。

「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」 ～伝統工芸と建築～



一般社団法人石川県建築士会
副会長 田尻 純江

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川大会）は全国の女性建築士の皆様を加賀百万石が育んだ伝統工芸・建築、地域固有の文化を守り育ててきた石川・金沢にお迎えし開催できる事に感謝申し上げます。

平成2年より継続して、女性建築士の情報交換と発信・相互交流を行う場として全国の女性建築士が福祉やまちづくり、災害などのテーマで講演会や各県での実践活動の報告を通じた意見交換、提言等は意義深く更なる各県の活動の発展につながっていると確信しています。

全建女に参加した当時「高齢者住宅改修などのバリアフリー活動」を参考に石川女性委員会は、県・市から依頼を受け住宅改修相談業務を介護士や福祉関係者と合同で高齢者の住宅に出向き改修相談を実施またバリアフリータウンチェック活動を通して「バリアフリータウン石川実現に向けて」を知事へ提言し、全国大会のまちづくり活動の発表でまちづくり大賞グランプリを受賞しました。とても嬉しい出来事で石川の女性委員会活動の励みに繋がったのではないかと考えています。

また最近では自然災害（地震・台風・豪雨）が全国に発生しボランティア活動や行政との連携活動が重要になっています。石川では3年前から能登半島沖で地震が頻発し高齢化社会の中で技術者・生活者としての女性建築士の役割が重要と考えられます。

この度の分科会では「バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー」など6分科会で意見交換されます。是非実り多い石川大会を楽しんでいただくとともに、この機会に石川の歴史や文化、建築、自然・多彩な食文化を堪能していただければ幸いです。

この石川大会が参加される女性建築士の皆様の今後の一層の絆を深め更なるご活躍とご発展となります様お祈り申し上げ歓迎のご挨拶とさせていただきます。

2 令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会プログラム

「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」～伝統工芸と建築～

令和5年7月29日（土）

全国女性委員長（部会長）会議

12：00～13：30 於：金沢市文化ホール 大ホール / ZOOM

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）

[受付] 13：00～14：15 於：金沢市文化ホール ロビー / ZOOM
(12：00～14：00 呈茶 会議棟茶室：閑清庵)

[開会式] 14：15～14：45 於：金沢市文化ホール 大ホール / ZOOM

総合司会 石貫 方子

- ・開会の辞
- ・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 近角 眞一
- ・開催県挨拶 一般社団法人 石川県建築士会 副会長 田尻 純江
- ・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美

[被災地報告] 14：45～15：00（15分）

- ・「東北～復興支援道路が全線開通して」
東北ブロック会 女性委員会 青森県建築士会 近藤容子、岩手県建築士会 志田文子、
宮城県建築士会 小林淑子、福島県建築士会 村越のぞみ

[活動報告] 15：00～15：15（15分）

- ・「静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み」
静岡県くらし・環境部建築安全推進課 建築耐震班長 市川 府元 氏

= 休憩15：15～15：30 =

[基調講演] 15：30～17：00（90分）

- ・石川らしい文化でおもてなし 北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」
講師 金沢学院大学名誉教授 大場 吉美（おおばよしみ）氏

[全国大会案内] 17：00～17：08（8分）

- ・第65回全国大会「しずおか大会」参加のご案内

[お知らせ] 17：08～17：15（7分）

- ・「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」について 日本建築士会連合会災害対策委員会
- ・「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）

= 休憩17：15～17：25 =

[交流会] 17：25～18：00（35分） 於：金沢市文化ホール 大ホール

- ・ワンバイワン（山形県・埼玉県・福井県・滋賀県・島根県・宮崎県）
- ・交流会

令和5年7月30日(日)

2

プログラム

[分科会] 9:00~11:00 (120分) 於: 金沢市文化ホール 会議棟 / ZOOM

- ・ A分科会 あつまれ～旅好き建築女子! 「魅力ある和の空間ガイドブック」 part 5
司会者: 齊藤 裕美 (北海道建築士会)
コメンテーター: 松本 あい子 (群馬建築士会)
コメンテーター: 村上 良枝 (香川県建築士会)
- ・ B分科会 バリアフリーのまちづくり/みんなで考えるバリアフリー
司会者: 鈴木 深雪 (福島県建築士会)
コメンテーター: 佐藤 玲子 (福島県建築士会)
コメンテーター: 佐藤由香利 (福島市観光コンベンション協会)
- ・ C分科会 「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～
司会者: 小貫 弘巳 (茨城県建築士会)
コメンテーター: 篠根 玲子 (茨城県建築士会)
コメンテーター: 轡田 久恵 (茨城県建築士会)
- ・ D分科会 「住まい・まちづくりを考えよう」小中学生の住教育出前講座
司会者: 山本 規子 (奈良県建築士会)
コメンテーター: 竹田 敦子 (大阪府建築士会)
- ・ E分科会 「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組
司会者: 高源真由美 (徳島県建築士会)
コメンテーター: 島田めぐみ (徳島県建築士会)
- ・ F分科会 「灯台が照らした未来への道すじ」
司会者: 高橋 由美 (大分県建築士会)
コメンテーター: 小関 公香 (大分県建築士会)

= 全体会会場へ移動 11:00~11:15 =

[全体会] 11:15~12:00 (45分) 於: 金沢市文化ホール 大ホール / ZOOM

- ・ 分科会報告 (3分×6分科会) 総合司会 石貫 方子
- ・ 全体総評 各分科会司会者
- ・ 令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会アピール 連合会女性副委員長 小林 淑子
- ・ 開催県挨拶 連合会女性副委員長 筒井 裕子
- ・ 閉会の辞 石川県建築士会女性委員長 田中宮土理

※ エクスカーションを申込んでいない方は、ここで解散となります。

= 昼食・休憩 12:00~13:30 =

[エクスカーション] 13:30~17:00 (約3.5時間) 13:30 金沢市文化ホール正面玄関集合

- ・ 1コース 金沢表具体験 (インテリアパネル作成) 於: 金沢職人大学校
- ・ 2コース 加賀水引体験 於: 蒼風庵
- ・ 3コース 加賀友禅体験 於: 茜や
- ・ 4コース 呈茶体験 於: 金沢城公園、玉泉庵など
- ・ 5コース 石川県立図書館 見学ツアー 於: 石川県立図書館

3 会場案内図

7月29日(土)		
12:00~13:30	全国女性委員長(部会長)会議	金沢市文化ホール 大ホール
14:15~17:15	令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会	
17:25~18:00	交流会	

7月30日(日)		
9:00~11:00	分科会	
	A分科会	3階 大会議室
	B分科会	1階 多目的ルーム
	C分科会	2階 大集会室2
	D分科会	2階 大集会室1
	E分科会	3階 第5会議室
11:15~12:00	F分科会	3階 第6会議室
	全体会	金沢市文化ホール 大ホール

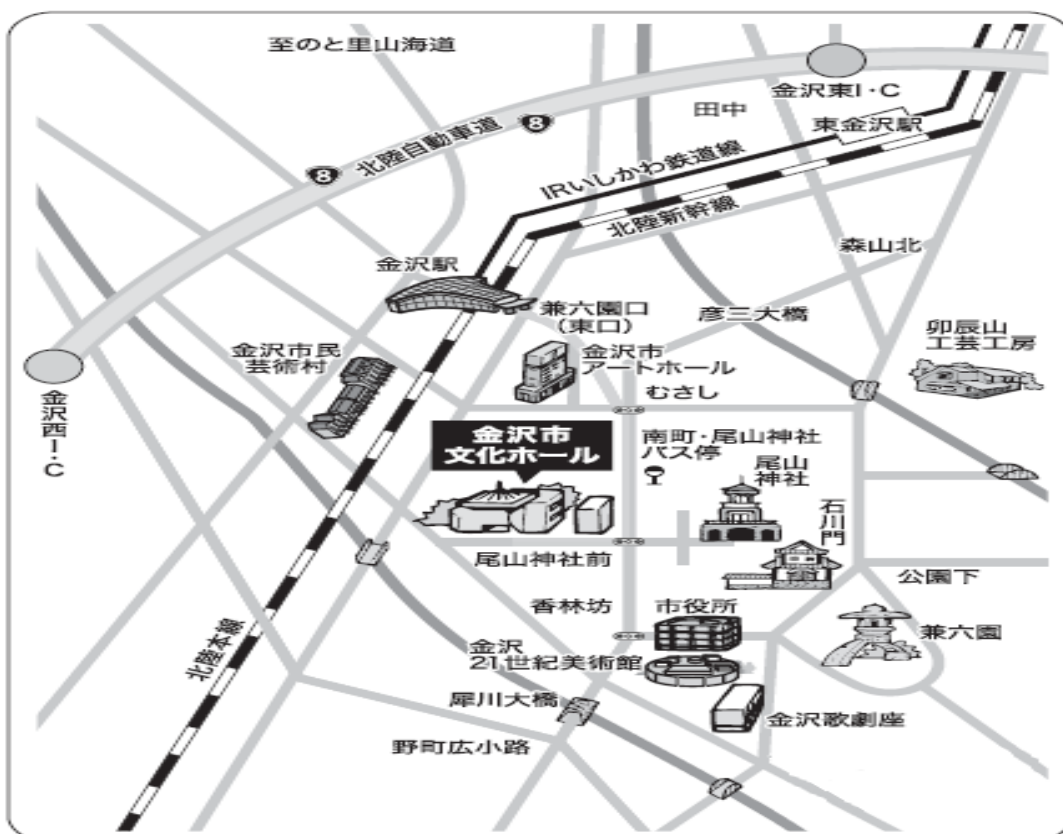
金沢市文化ホール 〒920-0864 石川県金沢市高岡町15-1

●JR金沢駅からのアクセス タクシー約10分、バス約15分

<バス>金沢駅前(東口バスターミナル)8~11番のりば「南町・尾山神社」下車 徒歩約3分

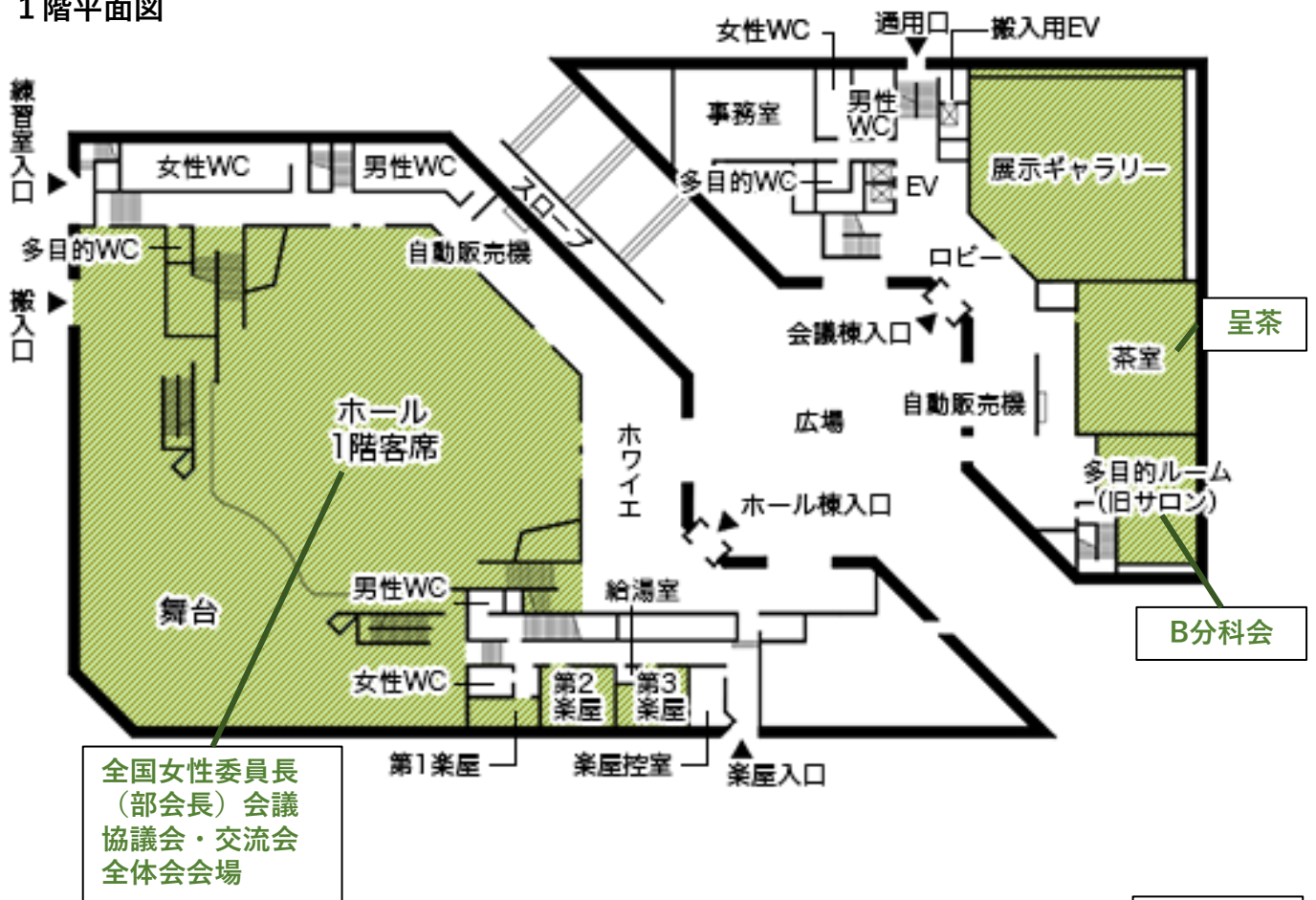
※バスに関する詳細「北鉄バステレホンサービスセンター」TEL:076-237-5115

●小松空港からのアクセス 空港連絡バスで金沢駅まで約40分

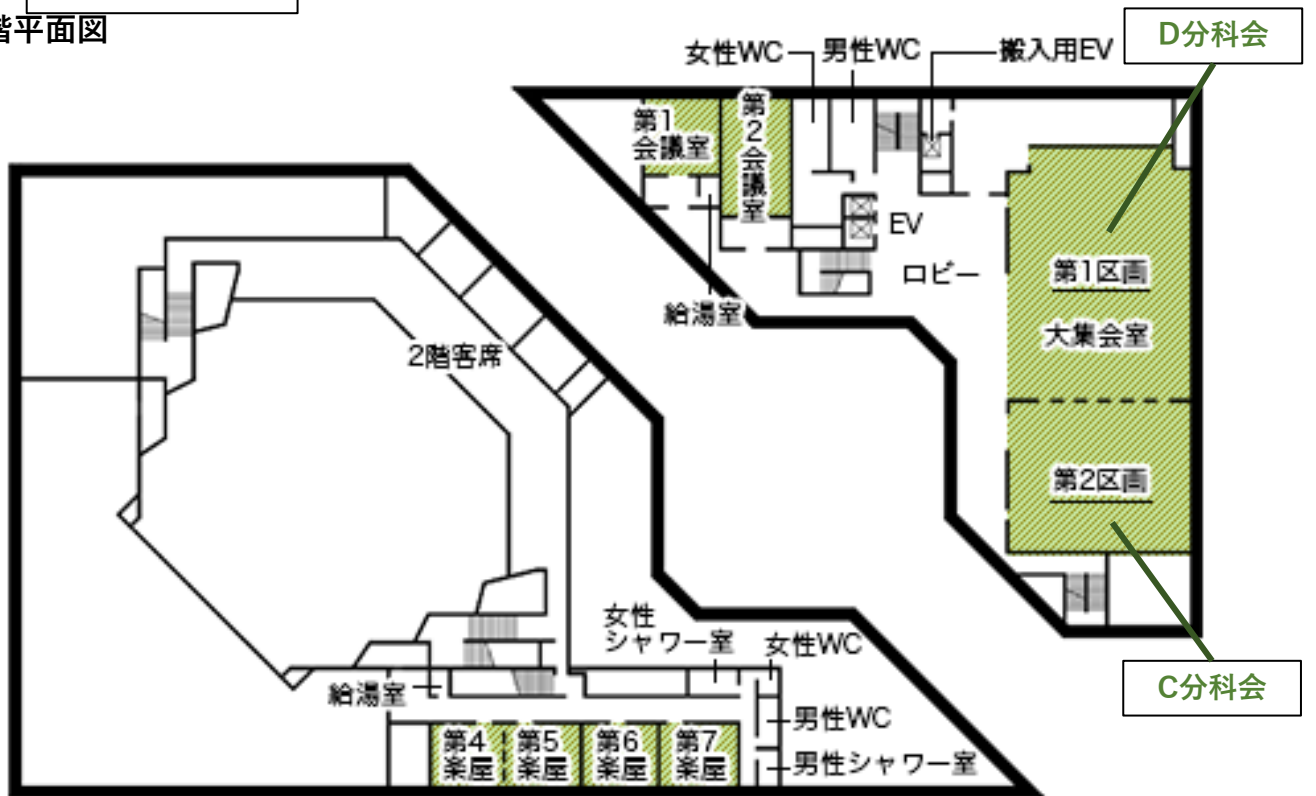


■ 金沢市文化ホール 平面図

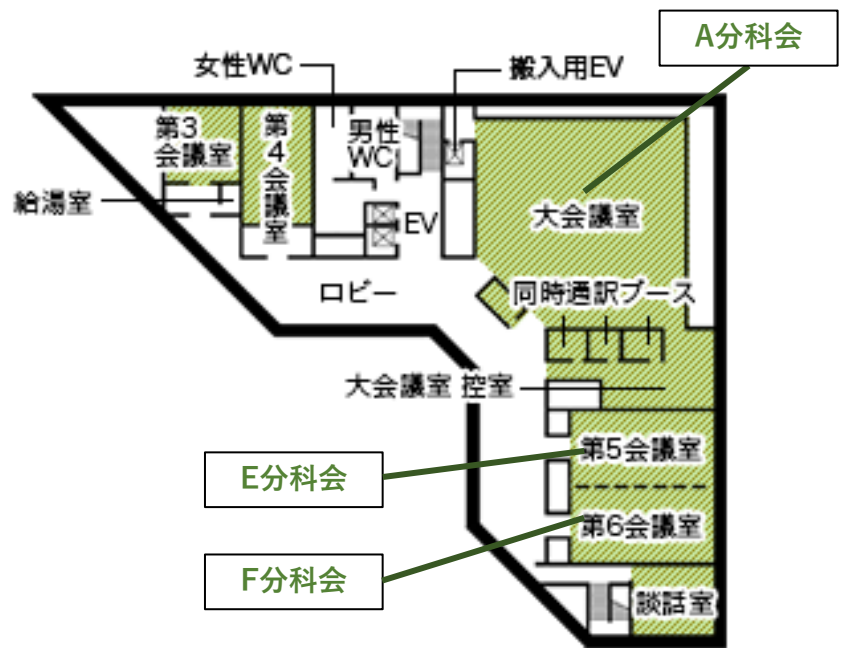
1階平面図



2階平面図



3階平面図



オンライン配信案内

オンラインで参加予定の方は、下記事項をご理解の上参加をお願い致します。

■事前準備（ZOOMのダウンロード）

今回のオンライン配信は、全体会ではWEB会議システムZOOMウェビナーを、分科会ではZOOMミーティングを使用して行います。オンラインで視聴される方は事前に使用する端末へ下記よりZOOM最新版のダウンロード（無料）をお願いします。

<https://zoom.us/download>

ZOOMダウンロードのQRコード⇒



■視聴方法

オンライン配信の視聴URLは、事前にメールで通知する予定ですが、もし3日前（7月26日）までにURLの連絡がない場合は、7月27日中に日本建築士会連合会事務局 竹田までご連絡ください。

日本建築士会連合会事務局03-3456-2061

メールアドレス jigyoi@kenchikushikai.or.jp メールアドレスのQRコード⇒



視聴URLの案内メールは、カレンダーにコピーするなどわかりやすい場所に保存してください。なお、URLを参加者以外の人に教えたり、SNSなどでURLを発信する行為は控えてください。

■名前の表示ルール（参加者の管理を行いますので入力をお願いします）

- ・参加者 **姓名（都道府県名）** 例) 建築花子(東京)
- ・グループで参加の場合 . . . **代表者の姓名（都道府県名）G** 例) 建築花子(東京) G

■全体会 基調講演・活動報告・被災地報告（ZOOMウェビナー） 参加にあたってのお願い

- ・全体会では、参加者（主催者、発表者以外）はカメラやマイクの設定がありません。質問や連絡事項がある場合は、ZOOM画面の「Q&A」ボタンを押して質問内容を入力してください。
- ・基調講演や活動報告・被災地報告では、質問したい相手を最初に入力してから質問内容を入力してください。
- ・質問の最後に、所属士会（無所属の場合は「無所属」）とお名前の記入をお願いします。
- ・当日お答えできなかった質問に関しては、後日ホームページに回答を掲載する予定です。

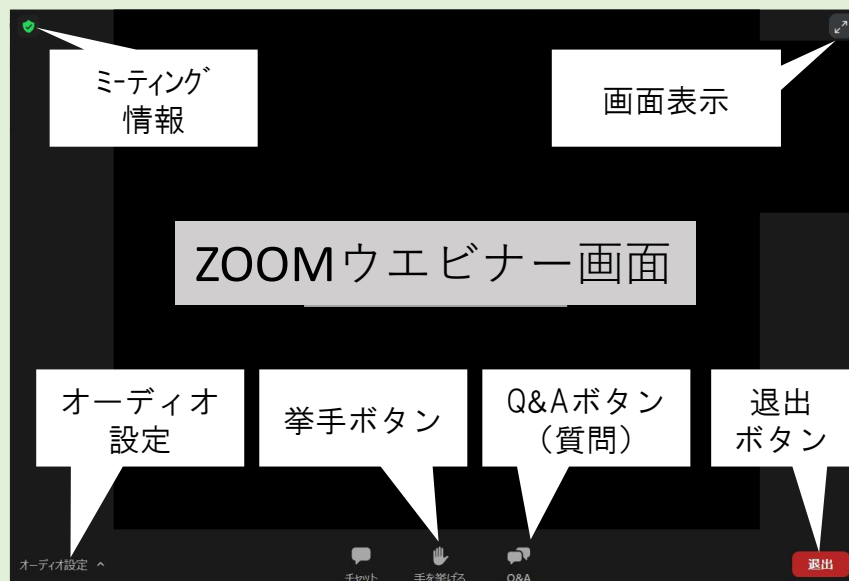
■分科会（ZOOMミーティング）参加にあたってのお願い

- ・分科会では、カメラやマイクの設定については司会者の指示に従ってください。

■視聴終了

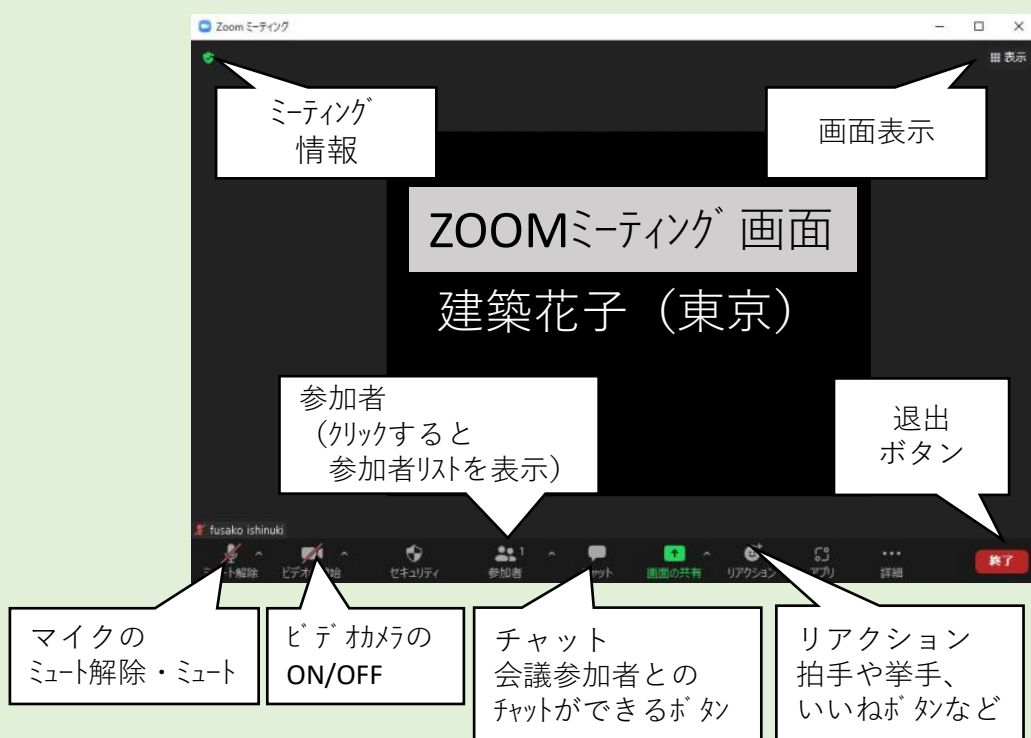
- ・「退出」ボタンを押して、ZOOMから退出してください。

■ ZOOMウェビナー画面の操作ボタン例（全体会 基調講演・活動報告・被災地報告）



※「手を挙げる」挙手ボタンは、司会者からの指示があるまでは押さないでください

■ ZOOMミーティング画面の操作ボタン例（分科会）



※ マイク、カメラのON/OFFについては、分科会開始時にはOFFとし、司会者からの指示に従ってください

※ 挙手ボタン等は、司会者からの指示があるまでは押さないでください

石川らしい文化でおもてなし
北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による

「美術館のような金沢駅」

おおば よしみ
大場 吉美



金沢学院大学名誉教授

プロフィール

1946年金沢生まれ、金沢美術工芸大学・産業デザイン学科卒業後、石川県を中心に、デザイナーとして、平面から空間デザイン、イベント計画演出まで多様な表現活動を展開し、デザインの啓発に尽力。金沢市民芸術村の創設に係わるほか、金沢21世紀美術館の交流アドバイザー担当となる。数多くのプロデュースや企画デザインを実施すると共に、ニューヨーク、エジンバラ、北京などで、石川のグラフィックデザイン展をコーディネートする。金沢学院大学教授として、多年にわたりデザイン教育に携わっている。また洋画家として石川県美術文化協会の理事長の任を受ける。

一 金沢のものづくりの風土醸成は、ずーと繋がっている

江戸期加賀前田藩の工芸の永い奨励の精神は文化風土に根付いています。自ずと明治から令和の今日まで、比較的穏やかな市民気質の地域であり、日々の暮らしの中に、文化風土として受け継がれています。そして時代々の文化は、多様な経済・社会の刺激によって変遷してきました。職人気質の強い土地柄と自然素材による暮らしの道具づくりから、いしかわの美術は、工芸が自ずと代表となります。文化として、人々をお迎えするには、工芸が注目されます。

一 なぜ伝統工芸による、公共空間づくりなのか

石川には36品目の伝統的地場産業品があります。全国的にも多い地域となります。その産地には、多種の職人的分業により産業が形成されています。その中から創造作品へと挑戦し、美術工芸作品へと志向される工芸作家や職人が出現しています。代表的な感性で金沢駅を演出することになります。

一 工芸とは何か、工芸都市構想1999の資料紹介

世界工芸都市会議企画シートを作成し、人間活動とモノづくりと共に、工芸の全貌を構想図に表す。都市戦略として、工芸による個性豊かな魅力づくりに貢献可能を表現した伝統工芸王国石川ルネサンス基本構想を表した。

世界工芸都市会議企画シート1999

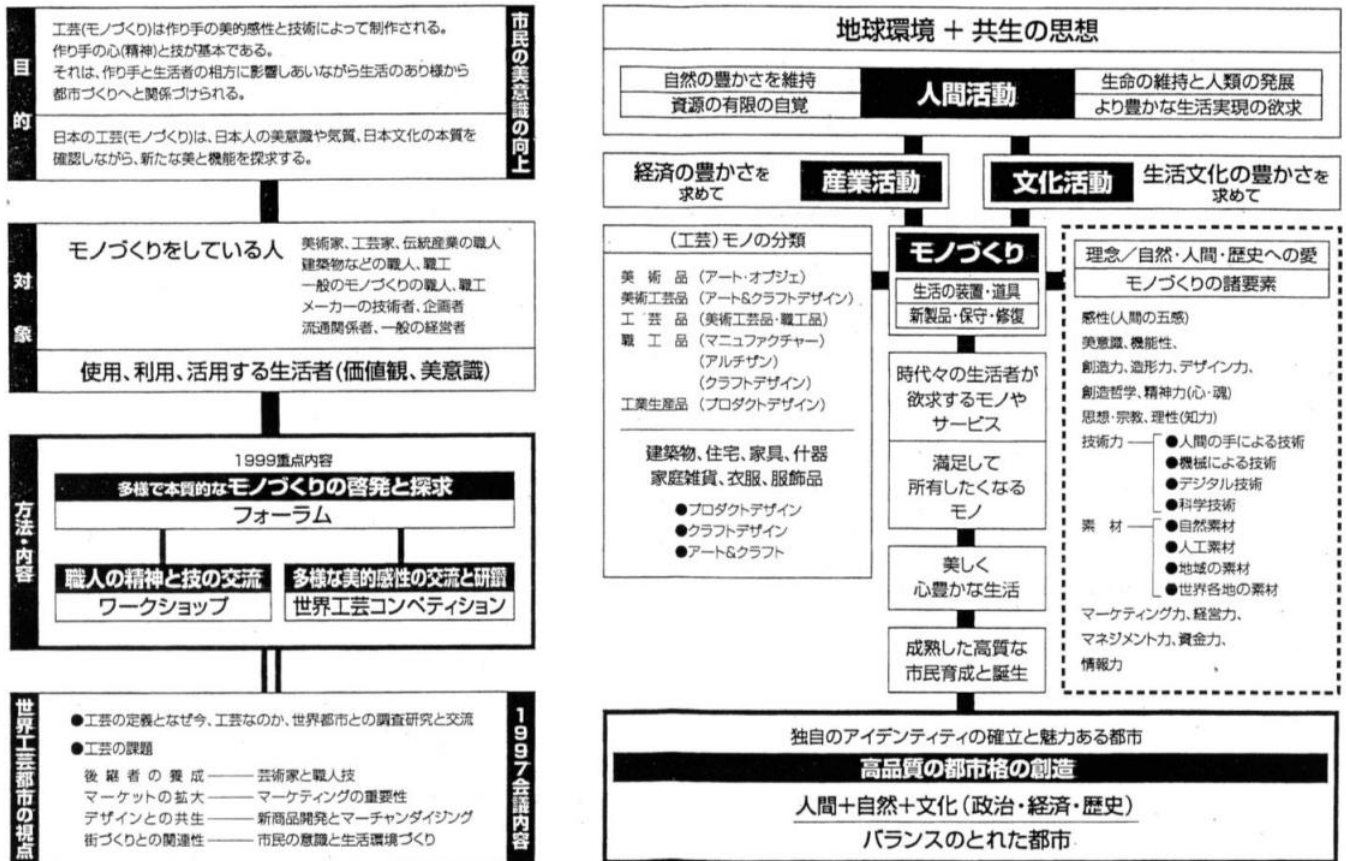


図1 世界工芸都市会議企画シート1999

P-08A

伝統工芸王国石川ルネッサンス〈基本構想〉

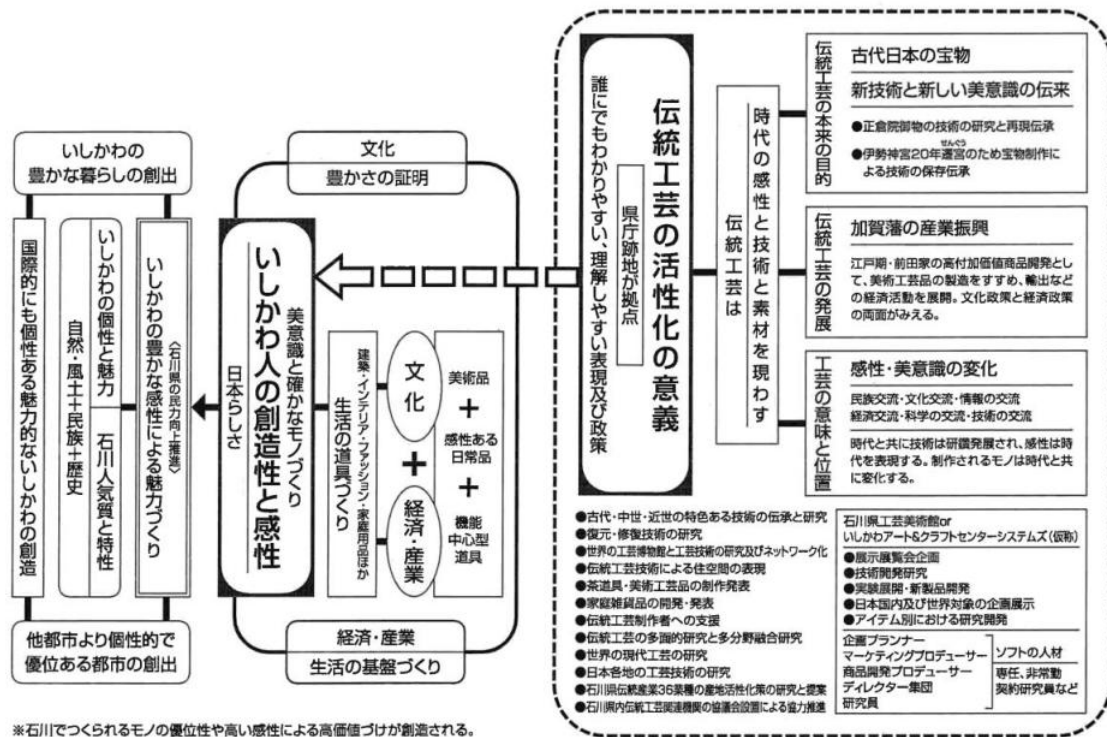


図2 伝統工芸王国石川ルネッサンス〈基本構想〉

〈金沢芸術村について〉

平成7年6月1日 金沢芸術文化村開設準備室

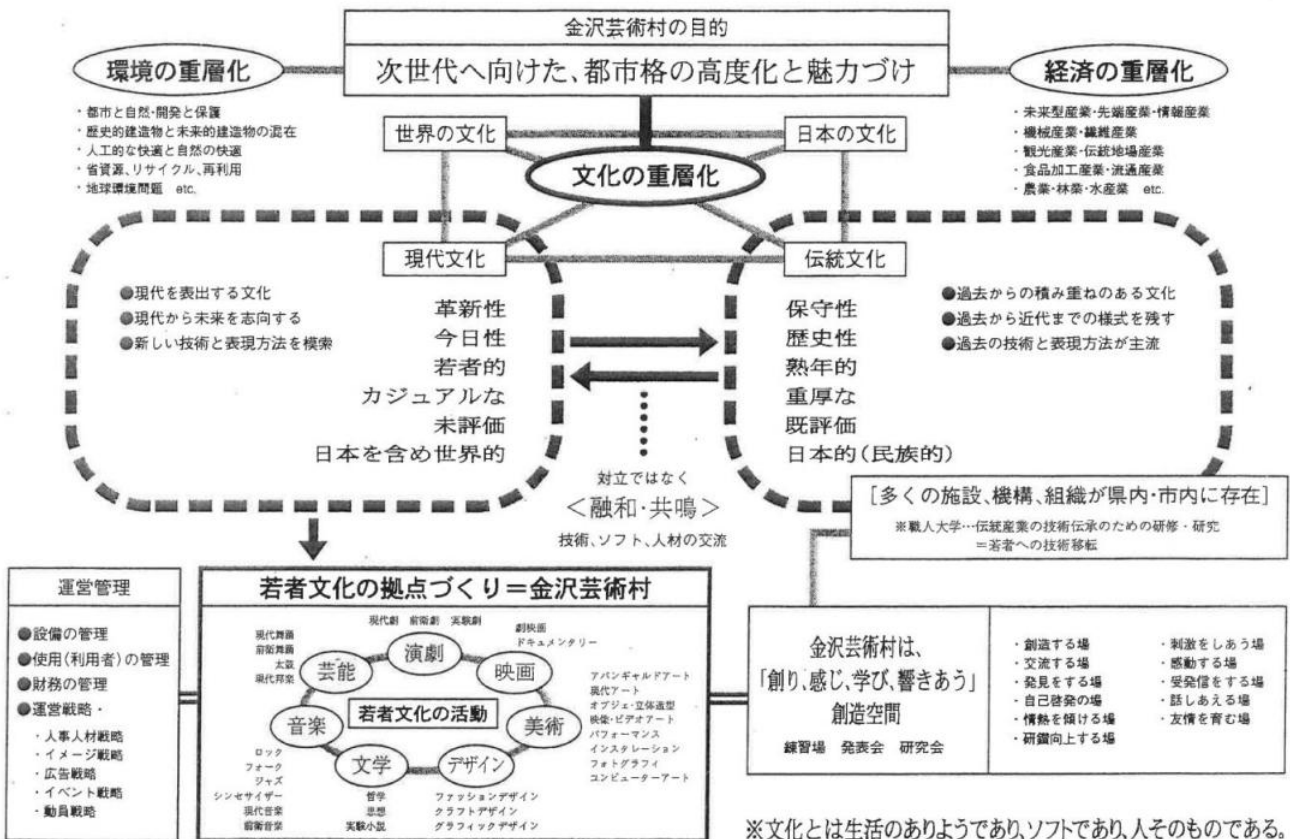


図3 文化の重層化

一 現実化が、どのように進められたか

金沢駅は1898年（明治31）金沢・小松間の開通で金沢駅が設置されました。それ以降今日まで変遷を重ね、新幹線誕生から50年間、北陸への新幹線開通の夢が現実のモノとなりました。2009年新幹線建設の鉄道運輸機構と石川県・金沢市と経済界が中心となり、どのような金沢駅であれば誇りが持てる魅力的な駅舎かなど、多くの意見交換がなされていきます。著名な美術家の存在もある中で、多様な人々の利用する、交通の結節点の金沢駅にふさわしい表現とは何かが検討され、設置された工芸30品目・236点の代表的作品の紹介。

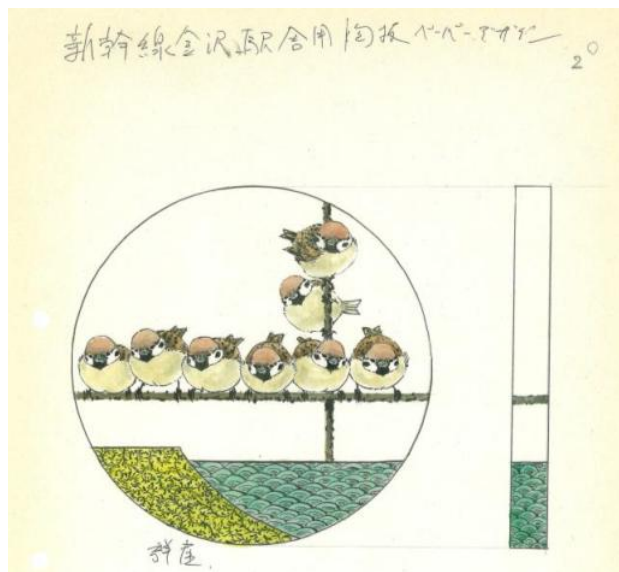


図4 デザイン下絵

新幹線金沢駅舎 中2階待合室&ホーム待合室 伝統的工芸品 30品目236作品 展示紹介

■中2階待合室 (204作品) 【設置箇所】

■西口側ホーム待合室 (16作品) 【設置箇所】

■東口側ホーム待合室 (16作品) 【設置箇所】

※壁面には県産材の能登ヒバを使用しております。
※丸丸の作品位置を表示しており、実際の比率とは異なります。

品名	職人	所産地	品名	職人	所産地
九谷焼	国指定	41	大幡焼	焼少	3
加賀友禅	国指定	22	加賀獅子頭	焼少	3
輪島塗	国指定	28	加賀漆器	焼少	4
山手漆器	国指定	24	加賀木子工	焼少	3
金沢仏壇	国指定	8	越前漆器	焼少	3
七尾仏壇	国指定	8	越前漆器	焼少	2
金沢漆器	国指定	12	三益	焼少	1
牛蒡焼	国指定	8	太鼓	焼少	2
加賀焼	国指定	13	竹工	焼少	3
何屋	国指定	6	漆の漆器	焼少	3
兼光仏壇	国指定	4	漆の漆器	焼少	3
越前工	焼指定	6	越前漆器	焼少	3
越前焼	焼指定	3	七尾和ろうそく	焼少	3
越前漆器	焼指定	6	越前上布	焼少	3
加賀毛針	焼指定	6	越前花火	焼少	2

計 236 作品

図5 新幹線金沢駅舎 中2階待合室 伝統的工芸品30品目236作品 展示紹介



図6 展示実例 左から加賀獅子頭、加賀毛針、輪島塗、美川仏壇

一 金沢駅舎内装デザインとコンコースの伝統工芸品の展示計画と実際

1980年高架工事着工、1991年金沢港口（西口広場）完成、2005年兼六園口（東口）もてなしドーム完成、2006年駅ビル完成、2015年新幹線金沢駅開業へと進みます。その折々に、駅舎だけでなく、玄関口広場としての環境づくりにデザイン計画がなされます。大きな造形作品による空間創出がなされています。金沢の都市デザイン、あるべき景観の姿も求められたと思います。1%フォーアートを彷彿とします。コンコース計画図や彫刻作品などを紹介します。



図7 金沢駅 金沢港口（西口）造形作品と竹林



図8 金沢駅 兼六園口（東口）もてなしドームと松の木の雪吊り

一 美しい石川の工芸、表現様式の魅力24作品

金沢駅舎の総仕上げの西口と東口を繋ぐ120mのコンコースです。三つの駅舎建築物の一体化も考慮した快適な都市型内装空間を目指しデザインされました。西日本コンサルタントのデザインです。もてなしドームの連続のデザインが志向されました。そして、石川的美を代表する多様な工芸作品が、コンコース24柱に設置されます。24作品を紹介します。



図9 西口と東口を繋ぐコンコースの24柱



図10 新幹線改札口 壁面に和紙を使った照明

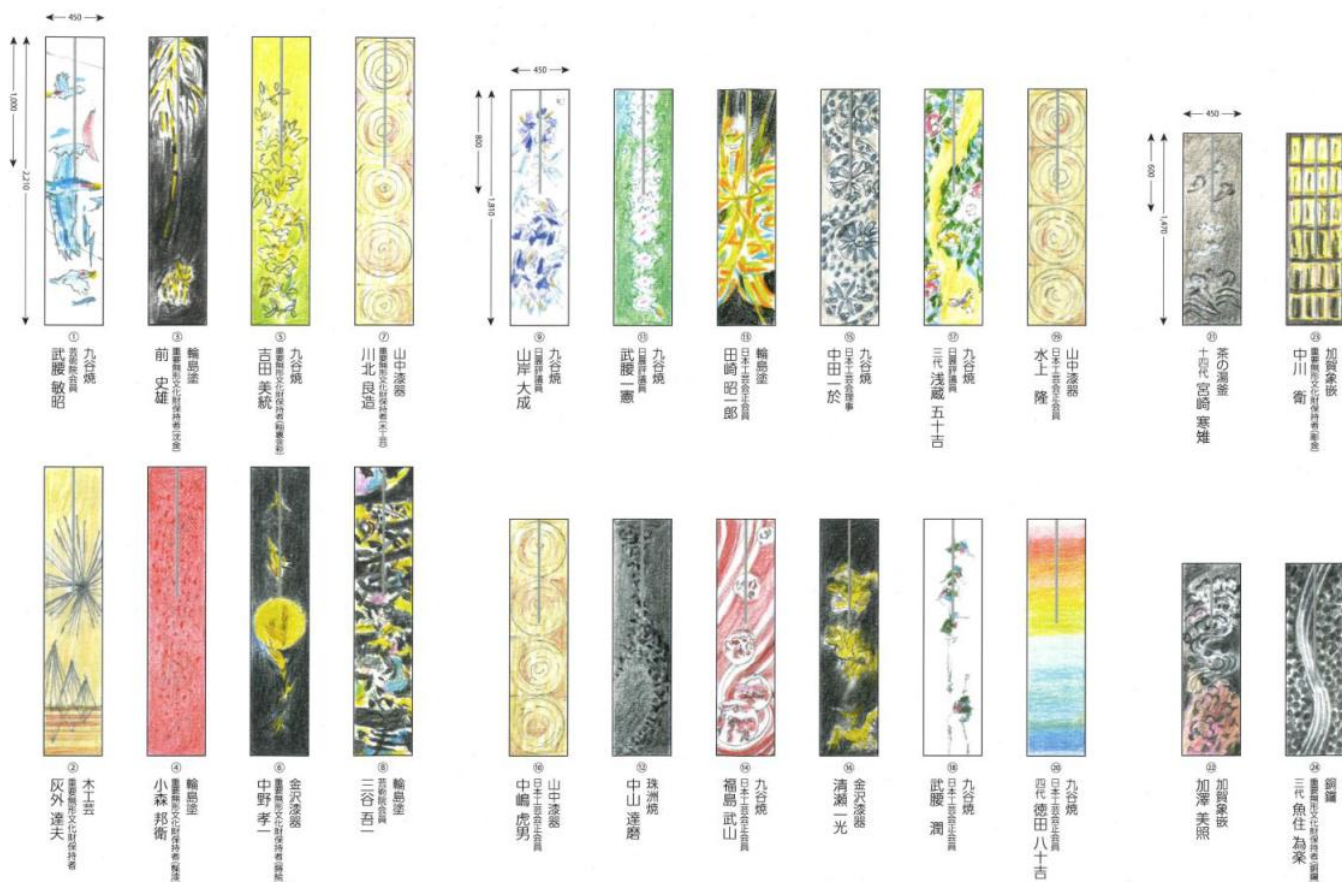


図11 コンコースの24柱に設置された多様な工芸作品 デザイン画

一 多様な情報を発信する金沢の躍進に期待

金沢駅は、金沢市域の都市づくりのひとつの中心として位置づけられます。現代感覚の豊かなエリアとして重要です。自然環境とのバランスや、未来に向かって文化の重層を体現できる地域として期待しています。文化都市、歴史都市、庭園都市として、人・モノ・情報が多様に行き交い、柔軟に変容していく交流の役割を担い続けることを期待しています。なお、世界のデザイン都市シカゴの高層ビル群に、大型アート作品の数々に感銘を受け、都市づくりのひとつの姿を思います。

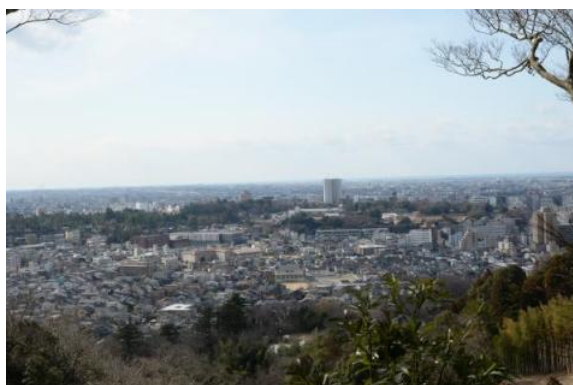


図12 金沢城の背景に海を見る (石川県金沢市)



図13 小立野台地を見る (石川県金沢市)



図14 シカゴの大型アート作品 (ピカソ作)

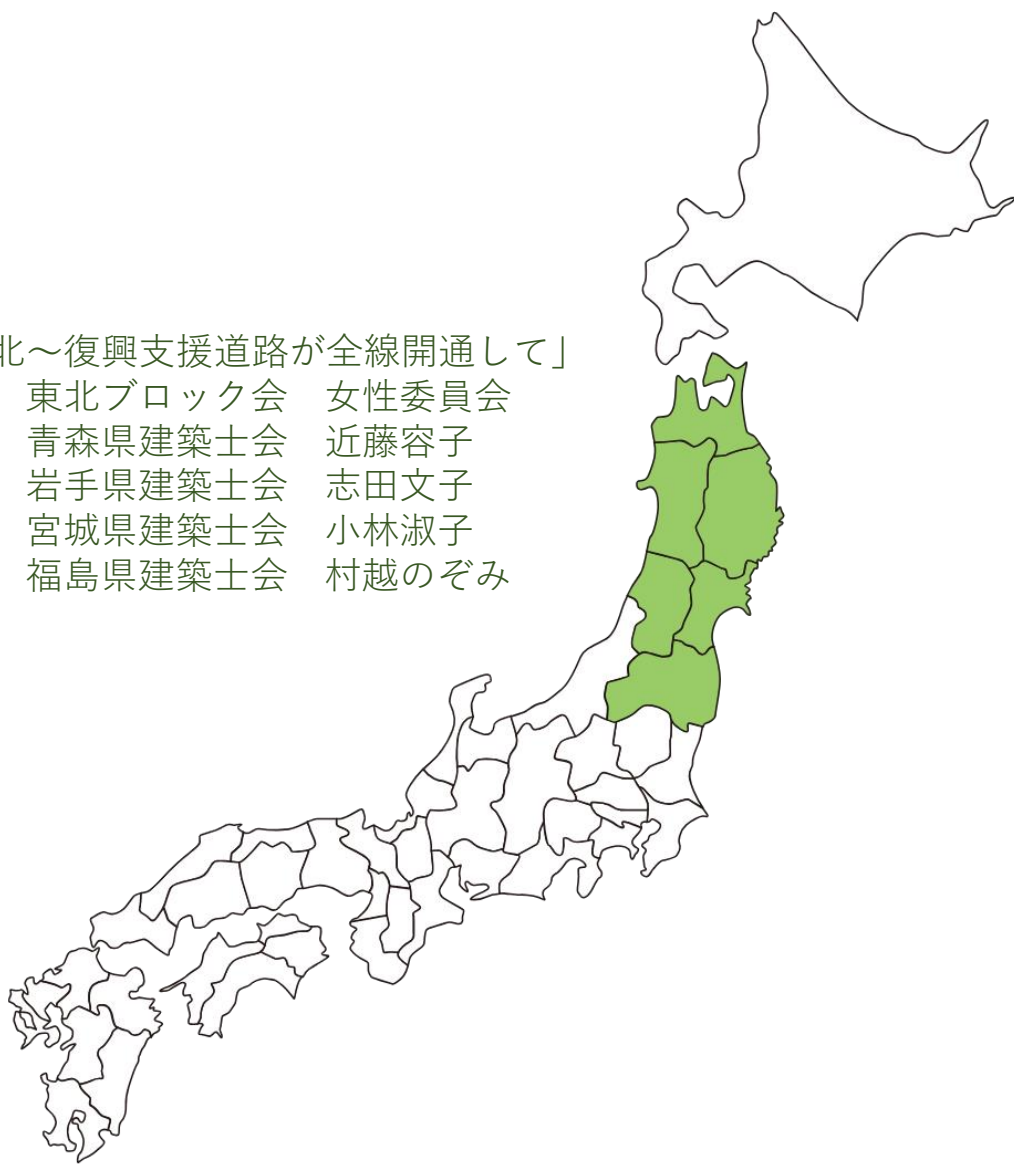
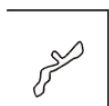


図15 世界のデザイン都市シカゴの高層ビル群

5 被災地報告

「東北～復興支援道路が全線開通して」

東北ブロック会	女性委員会
青森県建築士会	近藤容子
岩手県建築士会	志田文子
宮城県建築士会	小林淑子
福島県建築士会	村越のぞみ



はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から12年。

時間の経過と共に被災地の復興も進んでいる一方で、全国各地で頻発する自然災害や新型コロナウイルスのパンデミックなどにより「3.11」が人々の記憶から少しずつ薄れかけてきていることは否めません。

これまで東北各県の女性委員会は、被災地の現状や3.11を風化させない活動を毎年報告して来ました。

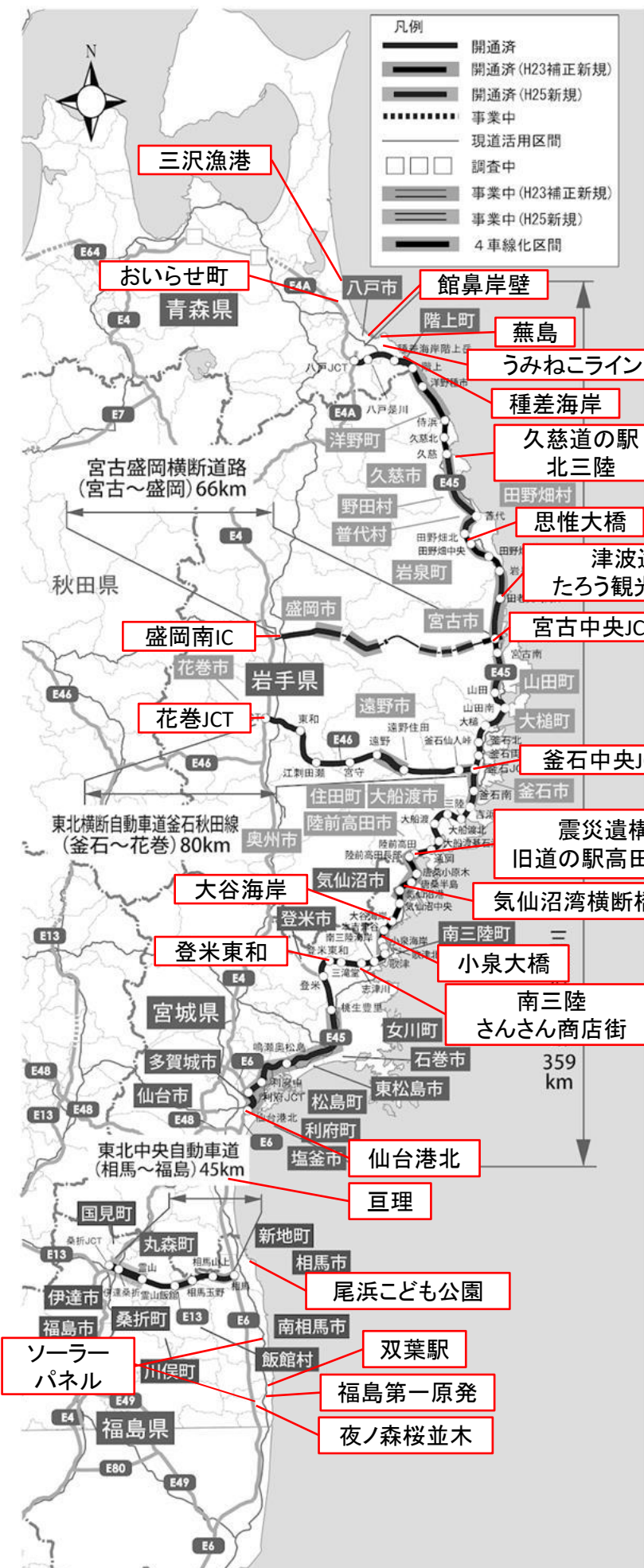
女性委員長会議で、被災地報告のことも話し合わせ、「3.11被災地報告は続けるべき」との意見が一致したものの、今後の活動については課題でした…。

そのような中で、「流通の改善・人の往来が期待できる三陸復興道路が、青森県から宮城県まで全線開通！」という、うれしいニュースが飛び込んできました。

そこで「各県の女性委員が、三陸復興道路を北から南へドラレコで撮影して、現状を合同で被災地報告をするのはどうか？」と提案したところ、皆様からも賛同が得られたことにより今回の活動へ繋がりました。

映像は本州最北端の犠牲者が出た青森県三沢市からスタートし、青森県～岩手県～宮城県～福島県へと続きます。各県の単独活動から、東北女性委員会が合同で活動発表する新しいカタチの被災地報告です。

東北ブロック会 女性委員会
委員長 近藤 容子

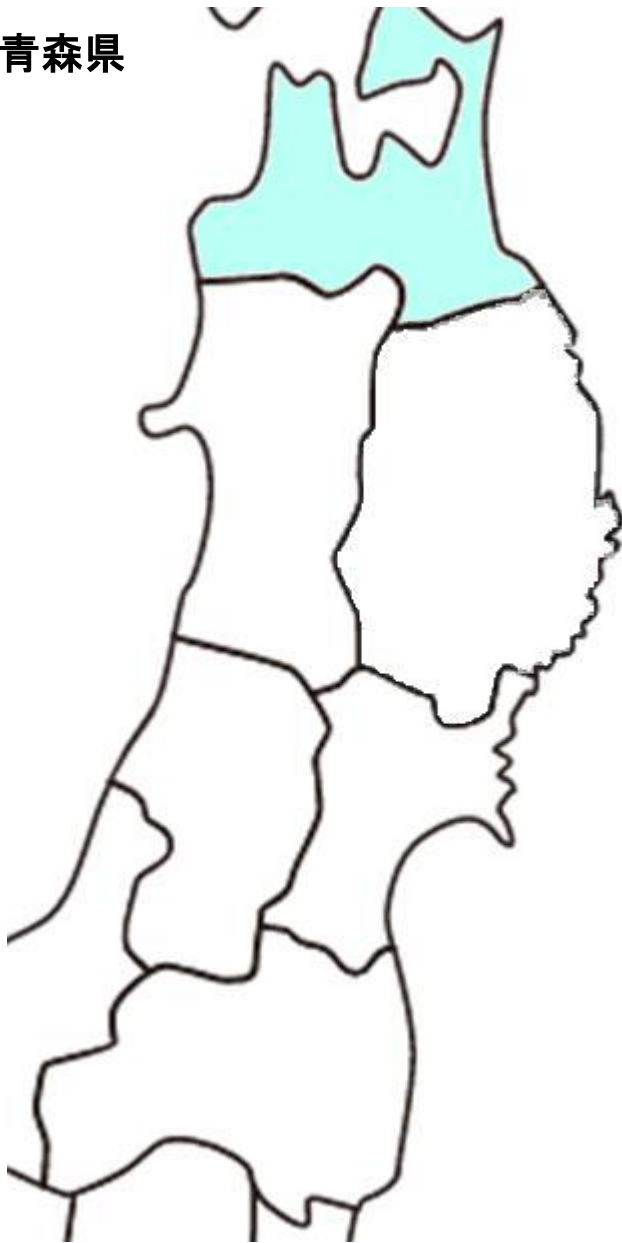


復興道路・復興支援道路の総延長550km ※

※国土交通省が中心となって整備を進めている路線

国土交通省東北地方整備局道路部HPより

青森県



被災3県(岩手・宮城・福島)に比べると、津波の犠牲者は少なかった青森県ですが、特に太平洋沿岸の八戸市周辺の被害は大きく、漁業・工業・観光の産業は大きな打撃を受けました。

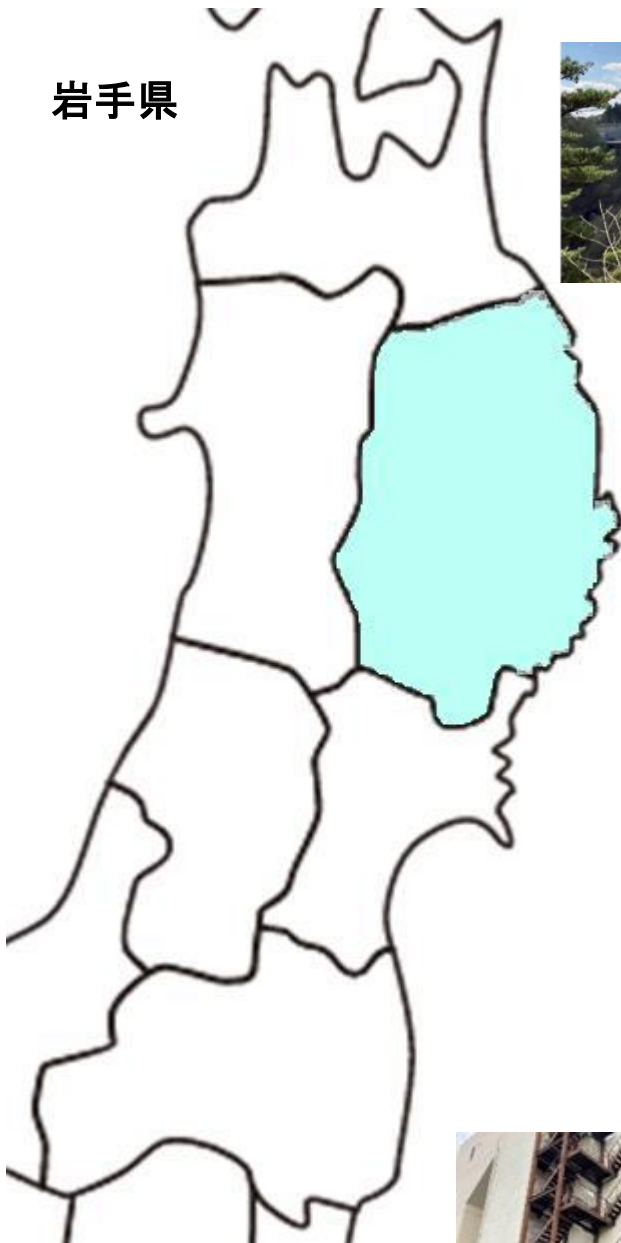
三陸沿岸道路スタートの青森県は、三陸沿岸道路としては短い区間ですが、「岩手や宮城へ繋がっている・繋がって行く」ことを強く感じさせる沿岸の人には特別な道路です。地域の物資や人の移動も楽になりました。

青森県は三沢市～八戸市～階上町へと続き、岩手県へバトンタッチします。被災当時を思い出しながら車を走らせました。

映像にはありませんが、令和元年、漁港や八戸市内を一望できる高台に「八戸市みなと体験学習館（愛称：みなっ知）」がオープンしました。湊地域の歴史・文化の他、東日本大震災の被害を伝える学習の場となっており、「震災タイムトンネル」コーナーでは、「被災当時」と「現在」の写真が同じ画面に映し出されます。

震災を忘れないようにと、静かに発信し続ける建物があることも知って欲しくてここをご紹介します。

岩手県



「思惟大橋」「思惟花笑み大橋」



開通イベントの様子※



「宮古中央インター線」開通イベントの様子※



「山田」IC～「三陸沿岸道路」入口



宮古市「津波遺構たろう観光ホテル」



大槌第2トンネル



陸前高田市「震災遺構旧道の駅高田松原タピック45」



「三陸」IC

岩手県は県域が広く、沿岸から内陸までの距離が遠いため、復興支援道路開通前は、数々の峠を越えなくては、内陸まで辿りつきませんでした。

「三陸沿岸道路」の開通に加え、内陸を沿岸とを繋ぐ「宮古盛岡横断道路」「東北横断自動車道釜石秋田線」の開通によって、三陸沿岸エリアと内陸の移動距離が短縮され、峠道ではない安全な道路によって結ばれることによって、流通や観光面からはもとより、救急活動において、内陸の病院へ迅速かつ揺れの少ない搬送が可能になったことで、沿岸に住む方々の安心な暮らしが守られるようになるのではないかと感じています。

※出典：三陸国道事務所ホームページ (<http://www.thr.mlit.go.jp/sanriku>)

宮城県



小泉大橋と津谷川護岸防潮堤



BRT（バス高速輸送システム）



過去の津波浸水区間 ここまで



過去の津波浸水区間 ここから



線量表示板

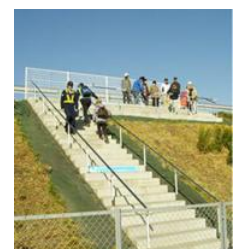
宮城県内の三陸沿岸道路は山間部を走行するため、45号線等で見られる景色を紹介します。

BRT（Bus Rapid Transit）はバス専用道を走行する定時性や輸送能力の増大が可能となるバスシステムですが、一部区間は一般道を走行しています。

「過去の津波浸水区間」ここから と、ここまで、の表示がかわるがわる何度も現れます。

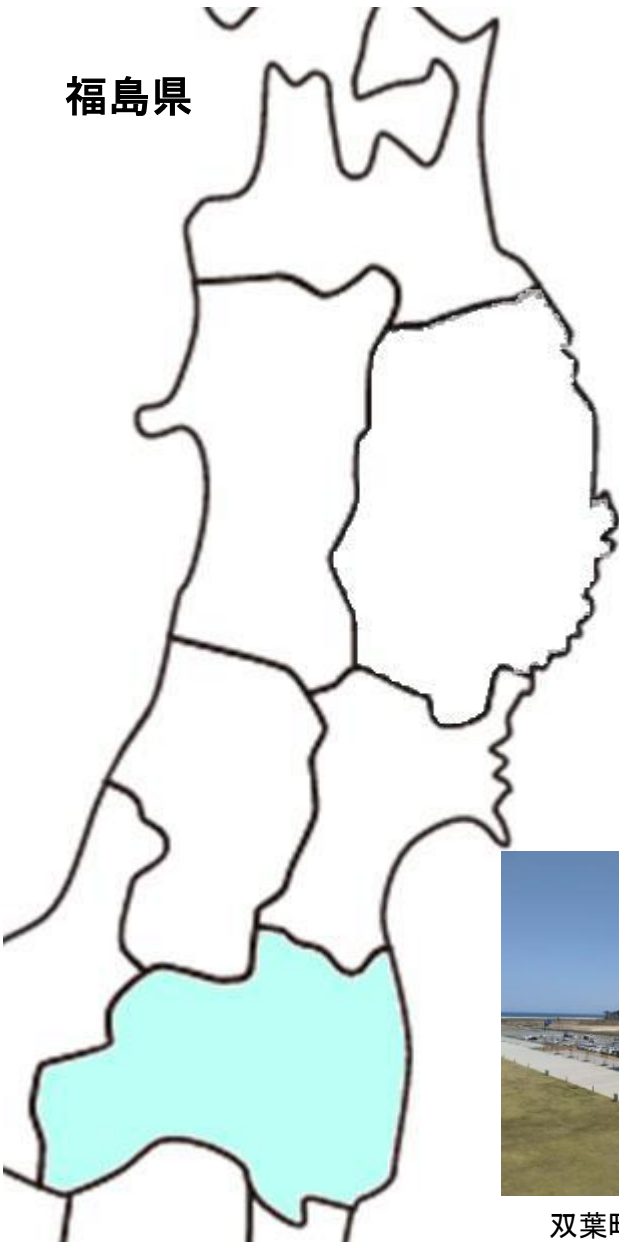
仙台港北ICから福島方面の亘理IC間、仙台市内沿岸部を通る高速道路は、仙台東部道路と呼ばれ、上りと下り各1か所に広野～南相馬間の放射線量を示す掲示板があります。またこの道路に避難できる、津波避難階段は10カ所以上設けられています。

仙台市HPによると仙台市では、津波浸水が想定される地域に津波避難タワーを6カ所、消防団施設が併設された津波避難ビルを5カ所、既存の小中学校2校に屋外津波避難階段を整備しており、中野五丁目津波避難タワーは津波の波力や漂流物の衝突を考慮した強固な構造で地上6m以上の高さに300人が避難することができる、とのこと。スロープの設置はもちろん避難者の24時間程度の滞在を想定し、発電機・毛布・水・食料・簡易トイレなどが備蓄されています。



津波避難タワーと津波避難階段（仙台市HPより）

福島県



上を通るのが復興支援道路です



大熊町役場新庁舎



双葉町産業交流センター



新双葉駅舎

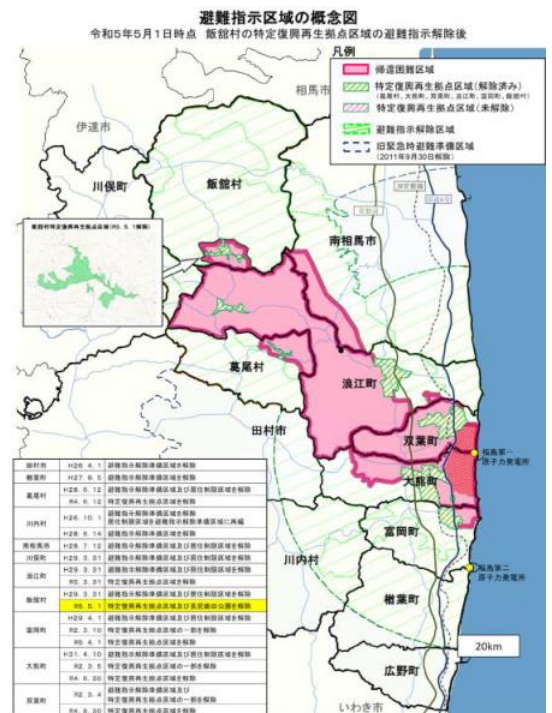


富岡町夜ノ森の桜



帰還困難区域のゲート

福島県の復興支援道路は、相馬から福島までの45kmで、八戸から仙台までの復興道路が南北をつなぐ道路に対して東西に走る道路として整備されました。今回走った道路は既存の常磐道ですが、帰還困難区域がある市町を通るため、12年経った今でも線量計が設置されています。また、田畑だったであろう場所には膨大な規模のソーラーパネルが車窓からみることが出来ます。それでも、特定復興再生拠点には次々と新しい施設が建設されています。一方では少し走るとゲートによって封鎖されている道路がまだまだ沢山あります。



避難指示区域概念図(福島県HPより)

おわりに

三陸沿岸道路は青森県の八戸市から始まります。映像は、港～工業地帯～観光地を経てから沿岸道路に入り、すぐに岩手県に変わりますが、以前、冬場に岩手県釜石方面まで南下した時には、冬の積雪は少ない道路で驚きました。復興が進み、整備された新しい建物しかない風景や、特徴ある地形が見渡せる場所も時々現れます。このあたりまで津波が来たのかだろうか、と想像しながら走ったのを覚えています。沿岸道路は「震災を忘れさせない道路」でもあると感じました。

岩手県の国道45号線は、リアス式海岸の端を縫うように走っているため、高低差や曲がりくねりがあり、冬場には日陰部分に雪が残り凍結が長引くような道路ですが、地域の大事な生活道路として利用され、震災時には、標高が高い場所は緊急避難場所代わりとなりました。現在、道路沿いの馴染みのドライブインが閉店していく一方で、三陸沿岸道路のインター付近には、道の駅や産直・コンビニなどの商圈が出来ています。新しい三陸沿岸道路は便利ですが、「上」を走るだけでは見えない「気色（けしき）」を従来の国道45号線は見せてくれると思います。三陸沿岸道、国道45号線、どちらも復興した街とともに発展していくことを願って止みません。

登米東和IC以北、宮城県内の山あいを走り抜ける三陸沿岸道路ICは、そこから海辺の町につながる山の中の玄関口となり、気仙沼市や南三陸町に代表される沿岸市町村に観光客を届け、海の恵みを各地に送り出しているように思えます。復興道路は仙台～八戸（三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路、八戸・久慈自動車道）359kmあります。八戸からいわきまで走り抜けてみたいと思っています。

「日本海には津波が来ない」という俗説がくつがえされ、遠足に来ていた小学生が津波にのみ込まれるなど多大な犠牲者が出た日本海中部地震から今年で40年、また、平成20年6月には岩手宮城内陸地震が発生し、震源地に近い秋田県南の湯沢市小安地区も甚大な被害にあいました。地元建築士会では応急危険度判定を行うなど対応にあたりましたが、我々、秋田県内の女性建築士有志も現状を把握するために現地に向かい温泉宿の被害状況や、小安峡に近い山々の崩落現場などを目の当たりにし、ぞっとしたことを今でも覚えています。震災から12年、三陸復興道路の開通は様々な人々の思いが詰まったものだと感じます。同じ東北人として太平洋の明るい海沿いを走る車の往来が、これから先の復興の後押しになるものと願っています。

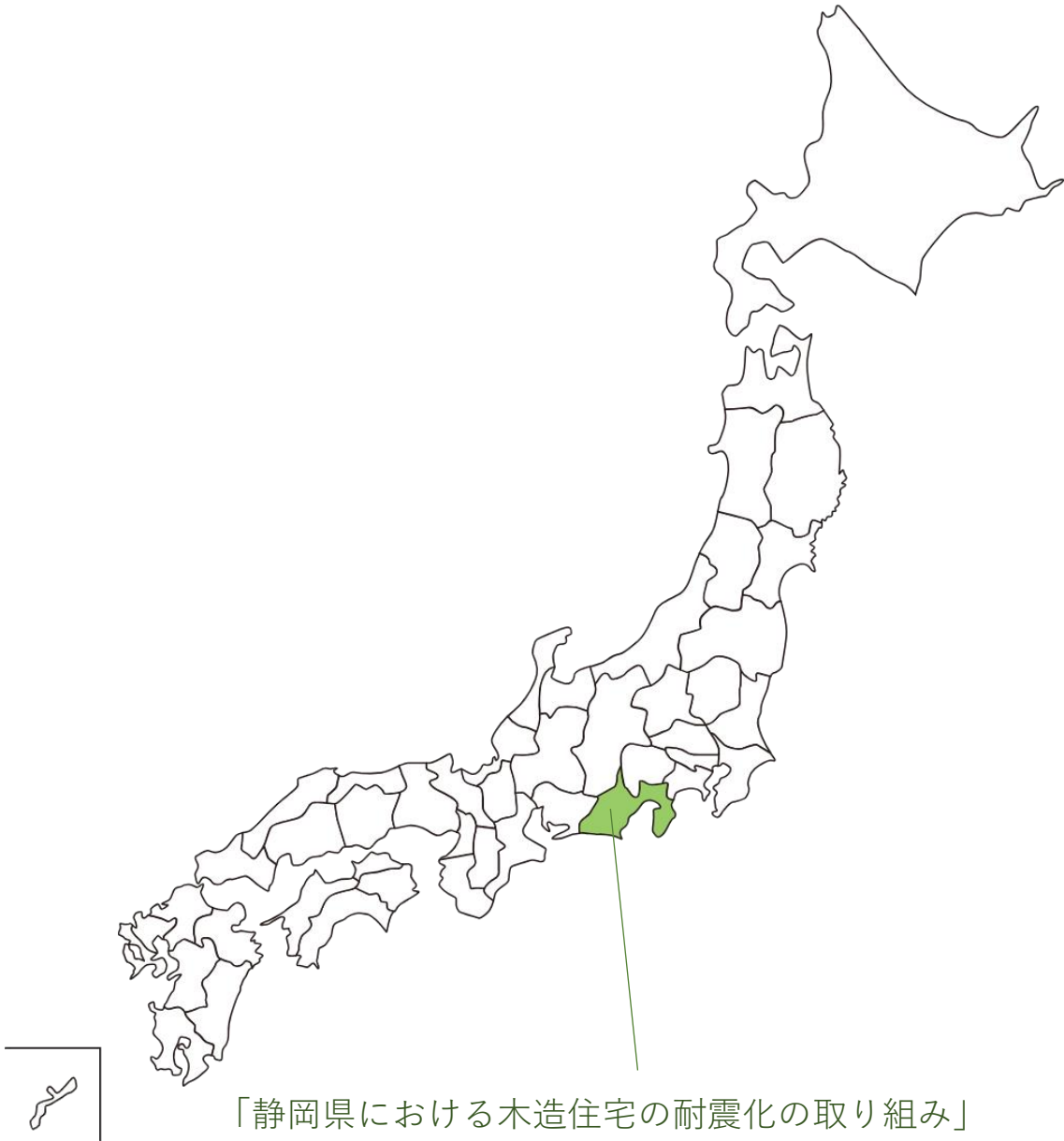
山形県では令和元年6月に山形県沖地震が発生し、震度6の揺れを初めて体験しました。「地震の後には津波がくる」震源地に近い沿岸部に居住する私は津波の発生を恐れ、家族や近隣住民と共に裏山に避難しました。地震による停電のため明かりもなく有線放送も聞こえない、頼りは懐中電灯とスマホの情報だけという不安な一夜を過ごしました。建物被害は1,000棟を超え他の被害も数多くありましたが、火災の発生がなかったこと、死者が出なかったことが何よりの救いでした。今後は建築士の役割として人命を守るため建物の耐震化を図ることなどを進めていきたいと思っています。東日本大震災から12年が経過し、住宅や公共施設の再建が進み、多くの希望や思いが詰まった三陸復興道路が開通しました。東北が結ばれた新しい道路が人々の暮らしや産業、観光を支えてくれることを願っています。そしてこれからも震災の記憶を風化させることなく後世に伝えてゆかなければと感じています。

福島県内の常磐道を走るとダンプ2～3台がひと組となって走る姿を目にします、数年前に比べればだいぶ減ってはきましたが、まだ除染で出た汚染土の運搬が終わっていません。それでも帰還困難区域内に特定復興再生拠点を決めてインフラの整備などが進んでいます。新しい建物も出来ています。処理水の海洋放水の問題などまだまだ課題が残されています。でも一歩ずつですが復興に向かっているのではないかと感じています。

東北ブロック会 女性委員会

今回の試みで、「近くて遠い」他県の復興の様子や、思いの丈を窺い知る事が出来た事は大きな成果だと感じています。そして、東北の各地域が「道」で繋がり、「時間短縮」と言う物理的な距離だけではなく、お互いの「心の距離」をも、より縮めてくれた。そんな気がしています。住む地域も違い、東日本大震災に対する各自の温度差は埋めようのない中で困難も多くありましたが、「現在のリアルな東北」を感じて頂ければ幸いです。

画像編集担当 福島県建築士会 村越のぞみ



「静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み」

静岡県くらし・環境部建築安全推進課 建築耐震班長

市川 府元 氏

静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み

(静岡県くらし・環境部建築安全推進課)

1 はじめに

静岡県では、昭和51年に東海地震説が発表されて以来、東海地震対策を県政の重要施策の一つに位置付け、地震対策に積極的に取り組んできました。また、本県では特に「木造住宅の耐震化」に対して重点的に支援し、地震による建物の倒壊等の被害から一人でも多くの県民の命を守ることを基本方針として各種施策を行っています。

2 木造住宅の耐震化の重要性

平成7年の阪神・淡路大震災の死者数約6,400名の内8割以上の方が家屋の倒壊と家具の転倒が原因で亡くなっています。地震による死傷者を少しでも減らすためには、住宅の耐震対策が特に重要になります。

阪神・淡路大震災以降も、平成16年の新潟中越地震、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震など、全国各地で大規模な地震が発生しており、大地震はいつどこで発生してもおかしくない状況です。



平成28年熊本地震 被害状況

本県に影響の大きい東海地震や東南海・南海地震及び首都直下地震については、発生の切迫性が指摘されており、地震が発生すればその被害は甚大なものと想定されています。特に南海トラフ巨大地震については東日本大震災を上回る被害が想定される中、住宅の耐震化をはじめとする地震対策の重要性・緊急性はより一層高まっている状況です。

3 プロジェクト「TOUKAI-0」

(1) 事業の創設

本県では、阪神・淡路大震災での被害を教訓に今後想定される巨大地震による建物の倒壊被害から県民の生命を守り、少しでも被害を軽減するため、平成13年度に全国に先駆けて「プロジェクト『TOUKAI（東海、倒壊）-0（ゼロ）』事業（以下「TOUKAI-0」という。）」を創設し、市町と一体となって、昭和56年5月以前に建設された旧耐震基準の木造住宅等の耐震化を推進してきました。

(2) 補助事業の内容

TOUKAI-0における木造住宅の耐震化への助成は、主に次の①及び②になります。

① 専門家による無料の耐震診断

② 補強計画の作成及び耐震補強工事に対する助成

補助事業の対象は前述のとおり、昭和56年5月以前に建築された旧耐震基準の木造住宅です。また、本県の補助制度は県と市町の協調補助を基本としており、県は耐震診断や耐震補強を実施する県民に対して補助する市町に対して助成を行っています。①及び②の事業については、県内全35市町において補助制度を創設しています。

はじめに、「①専門家による無料の耐震診断」は、市町が建築士会などの建築関係団体と委託契約を締結し、住宅所有者からの電話申込み等により、所有者の費用負担がなく、静岡県耐震診断補強相談士による耐震診断を受けられる制度となっています。静岡県耐震診断補強相談士（以下「補強相談士」という。）とは、所有者が安心して耐震化に取り組めるよう、TOUKAI-0の開始に併せて創設した本県独自の技術者認定制度です。県内に在住又は在勤の建築関係技術者のうち、県が主催する講習会等を受講するなど、一定の要件を満たす者に対し、耐震診断の専門家として県が

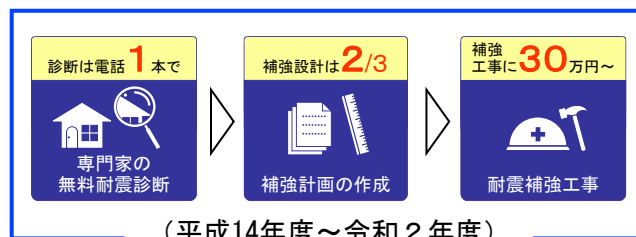
認定しています。補強相談士は、耐震診断のほかにも耐震補強等の相談を行うなど、地域のホームドクターとしてTOUKAI-Oや住宅の耐震化推進において重要な役割を果たしており、令和5年3月末現在1,485名が登録しています。特に住宅の耐震診断結果の報告の際は、所有者が安心してその後の耐震補強工事を行えるよう、耐震補強の方法や事例、補助制度や今後の手続き等について、補強相談士から丁寧な説明を行うことで、耐震化がスムーズに行われるようにしています。

次に、「②補強計画の作成及び耐震補強工事に対する助成」について、制度創設当初は、補強計画の作成と耐震補強工事のそれぞれに助成する制度として開始しました。

このうち、補強計画の作成に対しては、作成に要する費用の3分の2に補助する制度とし、平成25年度からは、高齢者のみ世帯等は原則無料で実施できるよう、補助制度の拡充を行ってきました。

耐震補強工事に対しては、県は市町に対し、一般世帯30万円、高齢者のみ世帯等50万円の定額補助を行ってきました。そのほか、平成28年の熊本地震の被害状況を踏まえ、耐震化PRを条件に15万円増額する制度拡充を令和2年度まで実施しました。さらに、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所での3密対策や次なる感染症へ備えるため、地震後に住み慣れた自宅で在宅避難生活を送れるよう、従来より高い耐震性を確保する耐震改修に対して15万円の補助額の割増しを行いました。

なお、令和3年度からは「補強計画の作成に対する助成」と「耐震補強工事に対する助成」を一体的に実施する事業に対する補助制度へ移行しています。



TOUKAI-O 施策概要

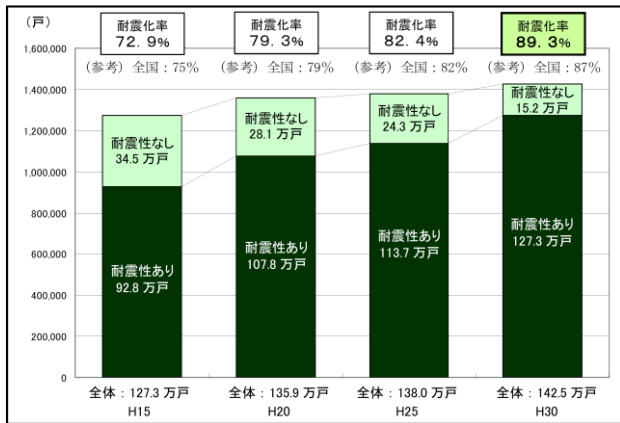
令和4年度末までの補助事業の実績は、耐震診断は累計で90,281戸、耐震補強工事への助成は25,818戸となっています。特に耐震補強工事への助成累計戸数は、本県調査によると全国第一位の実績となります。

また、旧耐震基準の住宅は築40年以上が経過していることから、現在では耐震補強以外にも「建替え」や「除却」、「住み替え」に対する助成制度も創設しており、各世帯の事情に応じた幅広いメニューを設けています。

さらに、耐震化未実施の所有者に対しては、住宅耐震化に係る相談員や専門家を派遣する補助事業を創設し、耐震化を促進しています。

4 住宅の耐震化率の現状

これらの取組を行ってきた結果、本県の現在の住宅の耐震化率（平成30年総務省「住宅・土地統計調査」から推計）は、居住世帯のある住宅約143万戸のうち、耐震性がある住宅は約127万戸で、耐震化率は89.3%となっています。



住宅の戸数と耐震化率の推移

全国と比べても耐震化が着実に進んでいるものの、耐震化率の向上に大きく寄与する建替えが想定より進んでいないことや、資金面や高齢等の理由から耐震補強に取り組むことが難しい世帯が多く残っています。引き続き耐震化を促進する必要があることから、「静岡県耐震改修促進計画（第3期・令和3年度～7年度）」において、令和7年度末における県内の住宅の耐震化率95%を目標に掲げ、市町と連携した更なる取組を実施しています。

特に住宅の耐震化は、住宅の倒壊を防ぐとともに津波からの早期避難を可能とし、県民の命を守ることはもちろん、負傷者や避難者を減少させ、発災後の応急対応や復興における社会全体の負担を軽減する効果があります。また、地震後の避難生活は、自宅の安全が確保できる場合は在宅避難が基本であり、新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所での3密対策も必要であったことから、次なる感染症対策として、避難所への集中を抑制するためにも耐震化の促進が重要になります。

また、昭和56年以前の木造住宅のうち、約7割の世帯は、65歳以上の高齢者が家計を主に支えており、耐震補強の実施にあたり、資金面や工事期間における日常生活への影響など、高齢者にとっての負担が大きい状況です。耐震補強に加え、建替えや除却、住み替えの促進も重要な取組になります。

5 普及・啓発に係る取組

耐震化に対する補助制度に加え、耐震化に係る周知・啓発を効果的に実施することが耐震化の促進には重要です。特に耐震化が進まない高齢者世帯に対しては、直接訴えかける地道な取組が必要になります。

本県では、平成22年度から、昭和56年5月以前の旧耐震基準の木造住宅の所有者のうち、耐震診断や耐震補強工事を実施していない世帯に対し、往復はがきによるダイレクトメールを発送するとともに、県、市町及び建築士会などの建築関係団体が協同して戸別訪問を行い、入居者への丁寧な説明を行うなど、直接的な働きかけを重点的に実施してきました。さらに、高齢者が多く集まる地域のシニアクラブの活動場所に出向いたり、木造住宅の倒壊実験教材「ぶるる」を活用した出前講座の実施、「耐震補強工事中」の幕表示による地域住民同士の意識啓発により耐震化へ誘導しています。



木造住宅の倒壊実験教材「ぶるる」

また、高齢者世帯の多くが、資金不足や跡継ぎがないなどを理由に、耐震補強工事に躊躇している実態を踏まえ、耐震化に進まない高齢者の背中を後押しできる一つのヒントとして、「遊びにくる孫たちの安全を確保したい」、「近所に迷惑をかけたくない」などの思いから、実際に耐震補強工事に踏み切った高齢者の事例を紹介する

「きっかけリーフレット」を作成しました。さらに、地震後の避難生活をイメージできるチラシも

作成し、これらのリーフレット等を活用し、所有者の心に訴えかける啓発活動も行っています。



「きっかけリーフレット」

6 TOUKAI-0の総仕上げ

本県では、令和7年度末の住宅の耐震化率95%の目標達成のため、耐震化が必要な住宅に居住する世帯に対して耐震化の重要性を確実に伝えるとともに、各世帯の事情に応じて「耐震化」又は「命を守る対策」のいずれかに誘導し、令和7年度までの間でTOUKAI-0の総仕上げを図ります。また、全国に先駆けて耐震補強への補助制度をスタートし、20年以上の間継続してきた本県独自の支援制度は令和7年度までを一区切りとする周知啓発を徹底して行い、いつ起きてもおかしくない大地震への対策をやり切るという覚悟で取り組んでいます。

令和4年度には耐震化を後押しするためのテレビCMを放送したほか、引き続き、耐震化が必要な住宅に居住する世帯に対して、戸別訪問、ダイレクトメール等による周知啓発の取組を積極的に取り組んでいきます。また、資金面等の理由により耐震化に踏み出せない世帯に対しては、耐震補強以外の命を守る対策として、防災ベッドや耐震シェルターの設置を誘導していきます。

さらに、市町や建築士会などの建築関係団体との連携に加え、自主防災組織や福祉関係団体（地

域包括支援センターや介護支援専門員等）との連携を強化し、住宅の所有者や居住者にとって、より身近な地域の相談者からも働き掛けていただくことで、耐震化の促進等をより一層、進めていきます。

区分	年度	静岡県耐震改修促進計画(第3期)				
		R3	R4	R5	R6	R7
5年間の重点取組	対象世帯の洗い出し	フェーズⅠ 対象世帯の状況把握		プロジェクト「TOUKAI-0」により、R7までに耐震化への誘導をやりきる。		
	耐震化の促進	フェーズⅡ 各世帯の事情に応じた耐震化を提案				
	耐震化以外の「命を守る対策」の促進	(3年目以降、重点的に取り組む) フェーズⅢ 防災ベッド・耐震シェルター等の耐震化以外の対策の普及				
支援制度	診断	わが家の耐震診断(無料)【R6まで】				耐震化へ誘導(R7まで)
	補強工事(計画工事一体型)	耐震補強工事助成【R7まで】				
	建替え	建替え工事助成【R7まで】				
	住み替え	移転費助成【R7まで】				
	防災ベッド等	市町補助事業への助成(地震・津波対策等減災交付金:危機管理部)				
周知啓発		「わが家の耐震診断」の徹底した周知				
		「支援制度の実施期間」の周知と再度の意向確認				
		各世帯の事情に応じた耐震対策の提案				
		自主防災組織やケアマネジャーなどの身近な相談者からの働き掛け				

※R8以降の支援制度については未定

TOUKAI-0総仕上げに向けたロードマップ

なお、総仕上げの一環として令和4年度に広報に関する取組を強化した結果、令和4年度の補助事業実績は、耐震診断が2,497戸となり前年度比で46.3%増加したほか、耐震補強工事への助成が640戸と、平成29年度以来5年ぶりに増加しました。

そこで、年度内における耐震診断等の円滑な実施にあたっては、特に建築士会との調整が重要となり、その他の建築関係団体を含む関係者の皆様から多大な御尽力をいただいたところです。

今後は、大幅に増加した耐震診断の結果を着実に耐震補強工事に結び付けるほか、耐震化以外の「命を守る対策」を周知するため、引き続き関係者の皆様と連携した様々な取組を進めていきます。

7 分科会

- A分科会 あつまれ～旅好き建築女子！
「魅力ある和の空間ガイドブック」 part 5
- B分科会 バリアフリーのまちづくり
／みんなで考えるバリアフリー
- C分科会 「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～
- D分科会 「住まい・まちづくりを考えよう」
小中学生の住教育出前講座
- E分科会 「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組
- F分科会 「灯台が照らしだす未来への道すじ」

A分科会プログラム

■テーマ あつまれ～旅好き建築女子！「魅力ある和の空間ガイドブック」part 5

■分科会の趣旨

日本建築士会連合会女性委員会では、2016年から『和の空間』をテーマに取り組みはじめ、「魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）」を2018年同委員会HPで公開、2022年4月に最終版としてさらに追加し現在273件となりました。

昨年のあきた大会の女性セッションで「ふぁいなる～これから～」と題して全国大会では終止符を一度打ちましたが、全国女性建築士連絡協議会の分科会の中で継続する事に致しました。

今回は「建物と人」をテーマに、現在も飲食店や交流施設などで活用されている事例を発表して頂きます。古い建物をリフォームし開店するというはとても大変なことです。オーナーになった経緯、建物への思いや苦労話し、またそこでしか見られない景色や近隣情報などを建物の魅力と共にご紹介して頂きます。ぜひ次回の旅の計画の参考にして頂き、見て、触れて、味わって、体験、体感を通して、今後の設計、住環境づくりにお役立て頂ければと思います。

■司会 齊藤 裕美（北海道建築士会） アシスタント 川田 朱（北海道建築士会）

■コメンテーター 松本 あい子（群馬建築士会）

発表建物：蔵・柏屋四郎右衛門

今回ご紹介致します2棟の蔵は明治20年代に建てられました。古い建物が、色々な事情で壊されていく中、2つを1つの空間にしてリノベーション、レストランとして、また、コンサートホールとして活用。街の顔として活躍をしている事例をご紹介します。

■コメンテーター 村上 良枝（香川県建築士会）

発表建物：古民家ステイ香露軒・合田邸（多度津まち歩き）

多度津の町並みに残る伝統的建物2物件をまち歩きと合わせて発表いたします。また、旅好き建築女子へ瀬戸内の島々・アート県ならではのスポットなどをギュッとご紹介。2027年建築士会全国大会「香川大会」に向けて、香川県へ四国へ行ってみたい!と感じて頂ければと思います。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～9:05
2. コメンテーターによる報告	(30分)	9:05～9:35
3. コメンテーターによる報告	(30分)	9:35～10:05
4. 質疑・意見交換	(40分)	10:05～10:45
5. まとめ	(15分)	10:45～11:00

蔵・柏屋四郎右衛門

くら・かしわやしろうもん

群馬県藤岡市



写真：蔵・柏屋四郎右衛門

絹の取引を行う絹宿として創業して300年あまりが経つ柏屋旅館内の、明治12（1879）年と明治25（1892）年に建てられた蔵2棟を再生した、うなぎを中心とした食事処である。地域の文化的交流・発信の場、ギャラリー・サロンとしても利用されている。

藤岡は江戸時代には絹の集積地として月に12日の市が立つほど賑わっていた。江戸や明治からの建物が軒を連ねていた藤岡の街並みが、時代の波に押しされ変貌していく中で、歴史と文化を大切にしたいという気持ちから蔵の再生がなされた。

蔵は細い道に面していてセットバックの必要があり、曳家をした。2つの蔵の異なった形状を維持したまま連結し、中央に玄関を配置した。来客がその日の気分ですどちらかの蔵を選択出来るようになっている。歪み傾きを矯正し、傷や汚れを取り除き、創建当時の輝きが戻った。工期も費用もかかったがあえて行った。

玄関に張り出した瓦屋根が建物の美しさを引き立てている。よみがえった蔵は藤岡の商店街の街並みに大きく貢献している。

屋根の瓦は、すべてを手作業でつくった。天日干し後、遠慮釜で焼いた藤岡瓦（いぶし瓦）に替替え、鬼瓦は既存を再利用した。外壁はモルタル下地の上、漆喰塗りで、腰壁はなまこ壁を施工した。



蔵は火災や地震、盗難等から貴重品を守り続けてきた。「今でもご先祖様の息遣いが聞こえてくる」とのこと。

見どころ

室内は雰囲気の違い4つの部屋からなる。蔵独特の力強い梁と少ない間口を上手に生かし、老舗の風格の中に洗練されたモダンで落ち着いた空間をつくりだしている。ご先祖様から受け継いだ大切な樫の大戸も設置した。継承してきた調度品が店の中に程よく置かれ、豪華な雰囲気になら役かっている。特に1階と2階に置かれた屏風は、あわせて六曲一双となり、比叡山をのぞむ琵琶湖を表現していると思われる。江戸時代から続く旅館も、時代に合わせながら営まれている。



1階と2階に六曲一双の屏風が置かれている。



写真：蔵・柏屋四郎右衛門

床暖房が施され、冬でも快適な空間となっている。快適さや利便さを実現しながら、配線や配管を一切見せない精緻で美しい空間がつけられている

建物名称	蔵・柏屋四郎右衛門
建築年	1879（明治12）年と1892（明治25）年建設 2004（平成16）年改修再生
構造・様式	木造2階建・蔵造り
所在地	群馬県藤岡市藤岡55
電話	0274-22-0006
H P	www.7windne.jp/kashiwaya/
開館時間	11:00～14:00、17:00～19:00 （夜は電話にて予約。日曜の夜は休み）
アクセス	JR藤岡駅より徒歩10分
備考	日本民家再生協会主催 よみがえる蔵・店舗ギャラリー部門入選 藤岡市都市景観賞受賞

魅力ある和の空間
ガイドブックWEB版

群馬県の掲載事例

- ◆彦部住宅
- ◆富澤家住宅
- ◆臨江閣
- ◆富岡市社会教育館
- ◆旧井上房一郎邸
- ◆蔵・柏屋四郎右衛門

絹宿としておよそ300年経つ、上州藤岡宿 柏屋旅館の敷地内の蔵2棟を連結し、蔵・柏屋四郎右衛門として再生されました。落ち着いた空間でいただく名物うなぎ蒲焼は、また格別です。



緑豊かな
アプローチから
玄関へ

蔵 柏屋四郎右衛門



富岡製糸場と絹産業遺産群

2014年6月『富岡製糸場と産業遺産群』は世界遺産に登録されました。

- 富岡製糸場
- 田島弥平旧宅
- 荒船風穴
- 高山社跡

藤岡市の歴史

- 縄文時代 譲原石器時代住居跡
- 古墳時代 七興山古墳・白石稲荷山古墳・本郷埴輪窯跡
- 江戸時代 絹市
- 明治以降 高山社

蔵・柏屋四郎右衛門

16世紀末 絹宿

19世紀初頭 屋号『柏屋』

2004年 食事処『柏屋四郎右衛門』

現在、14代目当主、柏屋旅館も継承



絹市

- 日野絹の集散地
- 月12回の開催
- 動堂町と笛木町の絹市
- まちなか絹市歴史散歩マップ
- 諏訪神社神輿と諏訪神社常夜灯及び手水石

群馬県には、『富岡製糸場と絹産業遺産群』が2014年6月に世界遺産登録されました。

富岡製糸場の『木骨煉瓦造』の繭倉庫の建築は、当時の職人さん達が、ご苦労されたようです。

さらに、最近の富岡市の市庁舎周辺の建物も気になるところです。

今回ご紹介する『柏屋四郎右衛門』は、この絹産業遺産群の高山社がある藤岡市にあります。そして、絹との深い関わりのある建築物です。

藤岡市は、古代から人々が住み、高い文化が開花したところでもあります。

それは、縄文時代の史跡などからも知ることが出来ます。多くの古墳群も存在しています。

江戸時代の藤岡では絹の取引が盛んで、京都や江戸から多くの人が集まり賑わっていました。その中心になったのが笛木町、動堂町の2本の通りでした。柏屋は、その通りに面した絹宿です。

柏屋は、旅館として、現在も営業を続けています。その敷地内の2つの蔵を異なった形状のまま連結し、食事処として2004年に再生されたのが、柏屋四郎右衛門です。屋根の瓦は全て手作業で作られており、達磨窯で焼いた藤岡瓦（いぶし瓦）に葺き替え、鬼瓦は、既存のものを再利用しています。

よみがえった蔵は、藤岡の商店街の街並みに大きく貢献しています。

絹市が開かれた通りは、現在も商店街として、親しまれています。老舗の店舗や、利活用された店舗、蔵も点在しています。歴史を感じながらの街歩きにはおすすめの街です。

また、江戸時代、三井越後屋（現三越）が奉納した神社神輿は、今も藤岡まつりを盛り上げています。



① 松屋酒造[酒]



③ 苑[生活雑貨]



② 虎屋本店[菓子]



④ 三和屋[菓子]



⑤ 会遊亭[情報発信施設]



⑥ 成田屋[菓子]



⑨ 蔵・柏屋四郎右衛門[食事処]



⑦ アンティークショップ いちらく



⑧ 金光寺



⑩ 藤岡市立図書館[鬼瓦/壁レリーフ]

A分科会

テーマ あつまれ～旅好き建築女子！
「魅力ある和の空間ガイドブック」part5

香川

SHIKOKU

1

魅力ある和の空間

①古民家ステイ 香露軒

②合田邸

(多度津まち歩き)

2

多度津

古民家ステイ香露軒
合田邸

海

山

林求馬邸
見立の里山ハウス

3

古民家ステイ 香露軒

合田邸



4

多度津の背景



城下町
海商い
陸

5

①古民家ステイ 香露軒

西浜

港の発展・金毘羅参詣船で栄えた背景から

大正時代 料亭

↓

現在はゲストハウス

6

配置形式は、前面道路から後退させ道路と主屋の間に前庭を配する「仕舞屋型」。外観は当初の形式をよく残している。主屋は二階建、切妻造、平入で、下屋を持たない総二階。屋根は棧瓦葺。



建築年
大正期
築約100年

構造形式
木造
二階建
切妻造
棧瓦葺
平入
間口4.5間
奥行7間

7

主屋の平面は、右手に入口を設けた通りニワ型である。家人は通りニワのある右手の出入口を使い、客人は前庭を介して左手の式台から出入りしたとみられる。客人用出入口の横が出格子。2階は当時の二階建の旅館や料亭によく採用されている中廊下式で、廊下の両側に客人用の座敷を配する。



主屋1階復原図 1:250

主屋2階復原図 1:250

8



②合田邸

本通り

北前船の寄港地・金毘羅参詣の玄関口
商家の発展
「多度津七福神」近代豪商建築
大正～昭和初期(多棟建築)
補強工事中



多度津まち歩き

本通り
西浜
東浜
家中

伝統的建築物
昭和46以前に建てられた建物345件

それぞれまち歩きができる

多度津町観光委員会資料より

本町の町並み

多度津町観光委員会資料より

浜ノ町 町並み

西浜・東浜町並み

多度津町観光委員会資料より

多度津まち歩きマップ

～イベント前後のまち歩きにご活用ください～

2019年7月作成の為、2023現在と差異有り



さぬき旅

レクチャー

島々
アート
お遍路
うどんだけじゃない
+たび通はココ

旅のお供

多度津町役場・香川県庁資料より

2027建築士会全国大会 香川大会

香川 SHIKOKU

お待ちしております*

A

A分科会

B分科会プログラム

■テーマ バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー

■分科会の趣旨

建築士と、福島市の観光案内所職員としてバリアフリーの観光案内をし自身も障がいのあるコメンテーターが、二人三脚で県内外の観光地をバリアフリーチェック。障がいのある方は観光に何を期待し、何に不安を抱いているのか、バリアフリーの観光案内をする彼女だけがその消費者動向（需要）を知っています。その情報を発信し観光客誘致につなげるため、マニュアル通りではなく利用者の困り感を共有した上で、バリアフリーな建物やまちづくりを提案しています。これまでの活動を振り返りながら、多様性尊重社会に向けたバリアフリーを、みなさんと共に考えていきたいと思えます。

■司 会 鈴木 深雪（福島県建築士会） アシスタント 菅野 真由美（福島県建築士会）

■コメンテーター 佐藤 玲子（福島県建築士会）

立ち止まれば、ユニバーサルデザイン、バリアフリーを考えるようになって20年ぐらいに。同居していた義母が体が弱く、義母中心の暮らしをしていました。旅館によって、温泉好きの義母が心置きなく楽しんで見えた時がありました。環境が変わると、それまで行けないとあきらめていた人が不安なく行けるようになるのを実感したのです。私自身が前期高齢者となり、いくつになっても行きたいところへは行きたいのです！行けるところに行くのではなく、行きたいところを行けるようにしたい。。。そんな願いを込めて活動しています。

■コメンテーター 佐藤 由香利（福島市観光コンベンション協会）

リウマチによる障がい当事者としてバリアフリーの観光案内を行っています。案内するうえで大切な施設のバリアフリー調査を様々な障がい当事者と行い、声を聞いてきました。今まで14年間行ってきたバリアフリー調査を基に、実際利用しやすい施設のバリアフリーについて障がい当事者としてご紹介します。

■分科会の進め方

- | | | |
|-------------------|-------|-------------|
| 1. 進行説明、コメンテーター紹介 | (05分) | 9:00～9:05 |
| 2. コメンテーターによる活動報告 | (65分) | 9:05～10:10 |
| 3. 質疑応答及び意見交換 | (40分) | 10:10～10:50 |
| 4. まとめ | (10分) | 10:50～11:00 |

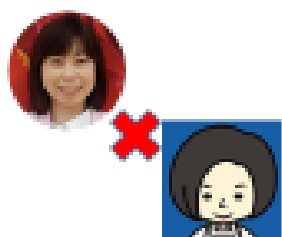
障がい者と建築士がペアで 施設のバリアフリー化アドバイス

バリアフリーのまちづくり



福島県建築士会福島支部会員 佐藤 玲子
福島市観光コンベンション協会 佐藤由香利

1. 施設のバリアフリー化アドバイス



障がい者と建築士がペアで
施設のバリアフリー化アドバイス

2. バリアフリー化アドバイス具体例

- A. 部分改装の場合
- B. 実施設計時の部分詳細の場合
- C. プラン改修の場合

3. バリアフリー化アドバイスで心がけていること

4. クイズ！どこか変なんだけど…

1. 施設のバリアフリー化アドバイス

「ユーザーエキスパート！」

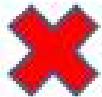


障がい者の使いやすさと
問合せ需要をアドバイス

佐藤由香利 福島市観光コンベンション協会 スタッフ
慢性関節リウマチ 両膝・両股関節に人工関節置換
元 NPO法人 ふくしまバリアフリーツアーセンター センター長

最強のふたり
でありたい

UNTOUCHABLE
最強のふたり



**障がい者と建築士がペアで
施設のバリアフリー化アドバイス**

「体に障がいがあっても、魅力的な施設がいい！私も行きたいし！」



障がい者の使いやすさを さりげなく
観光施設として魅力的に
病院とは違う！をアドバイス

佐藤玲子 1級建築士 前期高齢者
元 NPO法人 ふくしまバリアフリーツアーセンター 副理事長

2. A. 部分改装の場合

バリアフリー化について具体的な相談例 その1(提案まで)

【提案内容】

【浴室】

・ 段差から入り難いところ、サッシを開けてすぐに段差がなくなる技術がなくて要介護
マシンで開口部だけでなく排水溝も高さをずらすことで、すべりにくい樹脂製のふた(グレーチング)
があると思えない

・ 浴槽(段になったところ)に入る際に、もう1本長さの短い(邪魔にならない)
樹脂製(すべりにくい)の手摺があると
いい



・浴槽(段になったところ)に入る際に、
もう1本長さの短い(邪魔にならない)
樹脂製(すべりにくい)の手摺があると
いい

2. B. 実施設計時の部分詳細の場合

バリアフリー化について具体的な相談例 その2(提案実現！)

【提案内容】 脱衣から浴槽まで横移動が可能

【貸切風呂内 脱衣所～浴槽



★脱衣所から浴槽までベンチ状

身体が不自由な方は、座って服の脱ぎ着ができることが重要

立ち上って移動が難しい方は、少しずつ横移動を可能にすることで湯船まで移動可能に

2. C. プラン改修の場合

重要: 図面に車イスを入れて設計する! 設計の段階であれこれ検討が可能に



内観展開図にも車イスを入れて設計を

車イスを入れると設計者も当事者も広さと使い勝手が理解できます

車イスは直角には曲がれない

動きにくい

3. バリアフリー化アドバイスで心がけていること

障がいのある人、高齢者は
何に困っているのか？
何に難儀しているのか？
どうしたら、少しでも困難さを減らせるのか？

設計者はユーザーの思いを
見える化



障がいのある人、高齢者 本人に聞く

このプロセスこそ大事！

ユーザーエキスパート

障がいのある人、高齢者が使いやすい = 誰もが利用しやすい

4. クイズ！どこか変なんだけど...その1

車いす対応トイレ



「福島市バリアフリー観光&トイレMap」作成！

障がい者や高齢でお身体が不自由な方に、来訪時に必要なバリアフリー情報を提供し、安全安心にふくしまの観光をお楽しみいただけることを目的に、車いす対応トイレのある市内公共施設・観光施設等のバリアフリー状況の調査を実施。調査した情報を『ホームページに掲載』及び『福島市バリアフリー観光&トイレマップ』を作成し情報発信しています。



調査・取材には
支部女性建築士に
お手伝いいた
しています



やさいまちづくりになったらなあ
こんなこともやっています



バリアフリーのまちづくり
みんなで考えるバリアフリー



C分科会プログラム

■テーマ 「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～

■分科会の趣旨

「本当に良い家とは何か」「住まい手が幸せに暮らせる住宅とはどんなものか」――をしっかりと学び、その知見を世に広めていくことが、住宅に携わる建築士の使命ではないかと考えています。そういった観点から、木造建築や木材等に関する技術・知識を習得し、木造住宅の設計に精通した建築士を育成する目的で開講されたのが「いばらき木造塾」です。講座は「講義」「演習と課題」「実習」に分かれ、間取りの設計や木構造を理解しながら、地盤、基礎、軸組、各伏図、内外仕上げ、省エネ、設備、外構などについて学びました。このような「建築士の育成」の取り組みをご紹介したいと思います。また、「いばらき木造塾」の講座終了後、受講生が中心となって立ち上げた『和文化研究会』の活動についても紹介します。

■司会 小貫 弘巳（茨城県建築士会） アシスタント 平沼 清美（茨城県建築士会）
平山 香菜子（茨城県建築士会）

■コメンテーター 篠根 玲子（茨城県建築士会）

平成26年度から30年度にかけて5年間、「いばらき木造塾」を開催し、5年間で講座は延べ41回158名の修了生を送り出しました。

講義、演習、見学、体験など幅広い視点で木構造を体系的に学べるような内容の講習会です。正規の講座の他にオープン参加の見学会なども開催しました。

【第一部】では、いばらき木造塾を企画した目的や講習会の内容などをご紹介します。

■コメンテーター 轡田 久恵（茨城県建築士会）

「いばらき木造塾」の初回から最終回まで受講生として5年間通いました。木造住宅の奥深さを知るとともに改めて「和」の住宅～暮らし～文化について考えるよい機会にもなりました。木造塾を機に活動にも広がりがありました。

【第二部】では、木造塾にて学んだことと広がりの部分についてお話しさせていただきたいと思います。

■分科会の進め方

1. 司会挨拶、コメンテーター紹介と進行説明	(5分)	9:00~ 9:05
2. コメンテーターによる活動報告	(60分)	9:05~ 10:05
3. 意見交換と質疑応答	(40分)	10:05~ 10:45
4. まとめ	(15分)	10:45~ 11:00

1. 講習会の目的

平成24年度の茨城県の統計によると県内の新築の持ち家戸建住宅の≒87%が木造でそのうち≒84%が在来木造で建設されています。内外装に木材を多用したり真壁づくり、小屋組み表しなどの住宅や、伝統工法で建てられる住宅も一定数ありますが、近年は住宅取得者が大手ハウスメーカーなどへと流れている現状があります。企画した平成25年当時、建築確認申請で「四号特例」の見直しの動きがありました。「四号特例」が廃止されたときに自社で確認申請が取れない、あるいは構造図が書けないなどがあってはならないことですが、仮にそうになってしまうと住宅取得者はますます大手ハウスメーカーへ流れてしまいます。そこで、木造建築や木材等に関する技術・知識を習得し、木造住宅に精通した建築士の育成を目的に、計画原論から地盤、基礎、軸組、各伏図まで、現場研修や演習・実験も交えて木構造を体系的に学び、かつ、プレゼンテーション能力も向上するような講習会を企画することになりました。

2. 講習会の準備

講師は委員会メンバーの縁で、連合設計社で吉田桂二さんに師事され、各地の「家づくりセミナー」などの講師として活躍中の松本昌義先生にお願いすることができ、先生とともに講習会の内容を詰めていきました。受講生は設計者に限らず施工者、大工さんも対象とし、士会会員以外からも幅広く募ることにしました。講座は年間全10回として、敷地の使い方、間取り、木構造についてだけでなく環境や省エネ、営業やプレゼンテーションの講義も計画しよう、見学会や実習もやろう、自己能力の向上が実感できるよう宿題や即日の演習もやろう、と盛りだくさんの内容となっていきました。

3. 平成26年度の講習会

平成26年6月14日に「いばらき木造塾」が開講しました。全10回のうち松本先生による座学講義が5回、木材加工の実演の見学、木材加工の実習（墨付けから加工まで）、委員会メンバーによるパース演習、確認申請対応として壁量計算の演習、木造住宅設計者（鈴木久子先生）の講話がそれぞれ1回ずつのカリキュラムです。



開講式の様子



松本先生の講義の様子

松本先生の講義の日は最後にその日の講義内容に沿った課題が出され、受講生は1ヶ月以内に課題を提出、その後先生が添削をしてくださり、次回の先生の講義の始めに講評していただきました。

木材加工の実習では大工さんたち指導のもと継手仕口を墨付けから加工まで体験しました。近年はプレカット工場加工された構造材が現場に搬入されてそこではじめて見る、ということが多いので、自分たちで継手仕口をつくるというのは貴重な体験でした。

また「引っ張りに強い」「せん断に強い」「ねじれに強い」など継手仕口の種類と性能も学びました。土台、柱、梁の継手仕口を作り、ミニチュアの小屋を組み立てました。



オープン参加の見学会では古河市のまくらかの郷に行き、連合設計社在籍時に松本先生が担当された住宅について、計画から施工の話まで詳細に伺うことができました。

また、東日本大震災で被災した西山荘の復旧工事後の見学会も行いました。



まくらかの郷見学



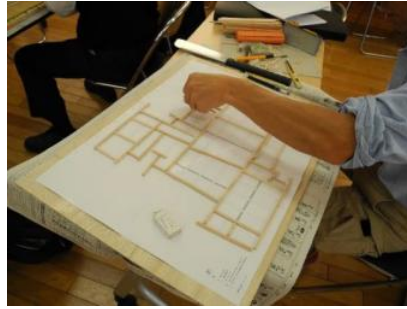
まくらかの郷見学



西山荘見学

4. 平成27年度から平成30年度の講習会

木造塾を始める際は、受講生は継続して3年間基礎から応用まで学ぶ、ことを想定していましたが2年目の平成27年度の受講生は初年度からの継続の受講生が1/3、新規の受講生が2/3ぐらいでした。ですので、一年目でも学んだ松本先生による「広がり間取り」や「架構グリッドプランニング」を中心に、プラス新しい内容を取り入れる講座内容としました。平成27年度以降は木製建具の基礎・温熱環境についての講座、計算によって梁断面を求め木拾いと集計についての即日演習、軸組模型の作成、木材市場で材木について話を聞く、山の見学・製材工場の見学、などを新たに取り入れました。温熱環境については講師をビオフォルム環境デザイン室の山田貴宏先生にお願いし、即日演習で省エネ計算も学びました。軸組模型は1/30の床伏図の台紙と、受講生の建具屋さんへ揃えてもらった角材をキットとして配布しました。台紙に土台を流し、柱を立てて梁を架けて、というように組んでいきました。出来上がった模型を使ってある部分に指で力をかけると、どの部材にその力が流れていくのかなど確認しました。



5年間にわたる講座最終回は、ちょうど建設中であった水戸城大手門復元工事の現場見学を行いました。この大手門復元工事はいばらき木造塾の藤井塾長がかかわっており、これも普段は見ることのできない細部まで見学することができ貴重な経験でした。

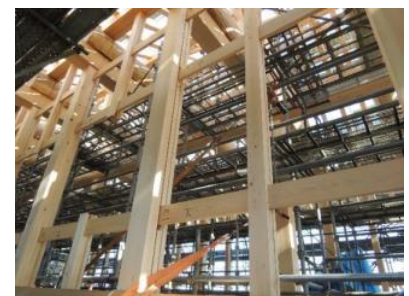
高さ約13メートル・幅約17メートルと巨大な櫓門で、令和2年に竣工し現在は水戸城跡のシンボルともいえる存在になっています。



出来上がった軸組模型



大手門完成写真

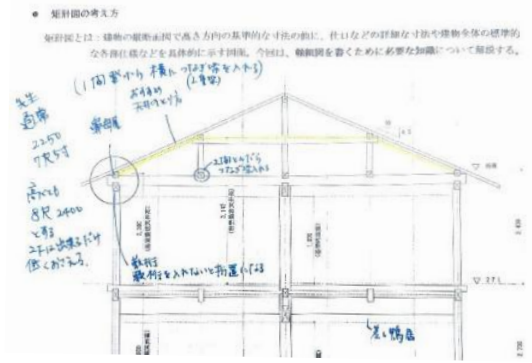


5. 講習会を終えて

企画当初講習会は3年間の予定でしたが、2年目3年目と新規の受講生が多かったことや宿題の提出状況、内容などを鑑みて、最終的に木造塾は5年間行われ、講座は延べ41回修了生は158名でした。『いばらき木造塾』で学んだことを日々の業務に活かしてもらいたいと思うと同時に、この受講をきっかけに、木造建築や木材について興味を持ち関わり続けていってもらえると企画した甲斐があった、と思っています。

6. 受講生の立場から「いばらき木造塾を受講してからの広がり」

いわゆる今時の広告や、雑誌で見かけるような木造住宅の設計の講座だと思っていましたが、そこは木造の特性を踏まえて体系的に木造住宅を習える場所でした。日頃の業務で木造住宅の設計の機会が無い私は、そこで大変な思いをすることとなるのですが、構造から間取りを考えていく手法で設計をすることにより、金物に頼らない強い建物を作ることが出来るという考えは、ずっと素直に入ってきました。



テキストは毎回メモだけでした

通い始めて暫くし、受講生がこの講座を修了する頃には建築士として立派に木造住宅の設計が出来、独り立ちができるようにするという強い思いから立上げられた企画であることを知りました。座学の他に見学会や体験会、講師の先生や委員会の皆さんとの雑談の中にも勉強になることが沢山あり、毎回楽しみに、気がつけば5年間通い続けてしまいました。

講師を務めて下さった松本先生は、「和風住宅って言葉は嫌い。和風の風って何ですか?」とよく話されていました。

いばらき木造塾にて和の木造住宅だけではなく、改めて和の暮らし、文化に触れた私は、茨城県建築士会女性委員会での年間企画であるラブアークセミナーにて、「和文化研究会」を仲間と共にシリーズで3度企画、開催しました。



写真左から「第1弾 水府提灯ワークショップ」「第2弾 詫び数寄の心でつくる現代の家見学会」「第3弾 西の内紙漉き屋の家見学・紙漉き体験」

また、女性委員会のメンバーとして「魅力ある和の空間ガイドブック」の取材や原稿作成にも携わらせていただいたことも重なり、地元地域の和文化について、広く、深く知る機会に恵まれました。

いばらき木造塾の講座を修了して数年が経ちましたが、あれから少しは建築士として経験を積んだ今の自分で、再度受講してみたいと思うほど楽しく、貴重な経験だったと思います。こうして振り返る機会をいただき、その続きを今後の活動でまた活かしていきたいと改めて思いました。

D分科会プログラム

■テーマ 「住まい・まちづくりを考えよう」小中学生の住教育出前講座

■分科会の趣旨

住まいやまちづくりに関する教育を通し、子供たちが自分を取りまく住環境に興味と関心を向け、日常生活の中で自主的な判断力・行動力を育むきっかけとなるよう、府内の小・中学校において、住まいやまちづくりに関する無料の出前講座を実施しています。

平成15年から現在まで、延べ183校に出向いた実績により、2020年には日本建築学会教育賞を受賞いたしました。

ユニバーサルデザインや熱環境、防災やユメのまちづくりなど、クイズや体験学習、工作を取り入れ、楽しく理解を深めてもらう取り組みを紹介します。

■司会 山本 規子（奈良県建築士会） アシスタント 曾我部 千鶴美（大阪府建築士会）

■コメンテーター 竹田 敦子（大阪府建築士会）

公益社団法人大阪府建築士会理事の竹田敦子です。家業は東大阪市において、夫とともに工務店を営んでおります。今回は「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」副会長としてお話をさせていただきます。

■分科会の進め方

1. 司会挨拶、コメンテーター紹介／進行説明	(5分)	9:00～ 9:05
2. 大阪府住まいまちづくり教育普及協議会説明	(5分)	9:05～ 9:10
3. 出前講座メニュー説明	(10分)	9:10～ 9:20
4. 授業の進め方（建築とバリアフリー）	(30分)	9:20～ 9:50
5. その他の授業紹介	(30分)	9:50～10:20
6. トークセッション&質疑応答	(30分)	10:20～10:50
7. 全体まとめ	(10分)	10:50～11:00

「住まい・まちづくりを考えよう」～小中学生の住教育出前授業～

公益社団法人 大阪府建築士会
青年・女性委員会 竹田 敦子

◆大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会とは◆

平成15年に大阪府職員を中心とした出前講座のモデルを実施したことから始まり、平成20年度より協議会による自主運営として設立し、今に至っています。

構成団体は、大阪府、(一財)大阪建築防災センター、(一財)大阪住宅センター、(一社)日本建築協会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会の7団体で、各団体より選出された合計30名弱が常任委員であり、その他各団体及び大学等からの30数名のサポーター委員により運営しています。

◆住教育に関する無料出前講座について◆

住まいやまちづくりに関する教育を通し、子供たちが自分を取りまく住環境に興味と関心に向け、日常生活の中で自主的な判断力・行動力を育むきっかけとなるよう、府内の小・中学校において、住まいやまちづくりに関する無料の出前講座を実施しています。

授業の内容は常にブラッシュアップし、より分かりやすく、誰でもが講師を担当できるよう工夫を重ねています。

また、テキスト教材として「ユメイエ」と「住まい・まちづくりを考えよう」の2冊の冊子を作成しています。特に「住まい・まちづくりを考えよう」の冊子は協議会のホームページでダウンロードが可能です。(<http://www.oaaf.or.jp/demae/>)

このテキストは、小中学校の先生方の手引きになるように、見開き1ページ(A4サイズ2ページ)を1時限の授業で使えるような構成になっています。

◆無料出前講座の進め方◆

小中学校への出前授業は、次のような流れで進めます。5月初旬に大阪府下の全公立小中学校に案内と申込書を配布し、受付を始めます。申し込みを受けた後、常任委員が会する月に一度の会議において内容確認の上、小中学校と事前打ち合わせを行います。そこでは、学校の要請に応えられるか、設備や体制が整っているかを確認し、日程調整をして実施の運びとなります。

◆協議会が目指す先◆

私たち建築士が授業を担当することによって、子供たちが建築士を目指すきっかけになればそれは嬉しいことです。しかし、建築の使い手として知っておいてほしいことを伝えることができれば、この事業のほとんどの目的は達成できたと考えています。

すべての建築が、昔から様々な工夫を積み重ね、多くの人の知恵を集約して構成されているものであることを知れば、建築に対して愛着を持つようになり、建築を大切にしようと思います。そこから、そういった建築によって構成された「まち」や「まちなみ」についても興味が湧いてくるでしょう。これからも授業を通じて子供たちに建築に親しむきっかけを与え、建築の楽しさや見方を伝えていきたいと思っています。

◆出前講座メニュー◆

1. 快適な住まい

①世界の様々な家の話

気候や文化によって家の形や材料は大きく異なり、日本の中でも北海道と沖縄の家ではまったく別の考え方で建てられています。それらを比較しながらその違いにある快適に暮らす工夫をクイズ形式で楽しく説明します。

後半は、仮想の敷地図と建物の平面図を使い、太陽の動きと自分の暮らしたい生活様式によって、どのような配置にすれば快適に生活できるかを自由に考え、発表してもらいます。



②熱環境の話

夏の暮らし、冬の暮らし、昔からそれぞれに工夫して暮らしてきました。いろんな熱について、日々の暮らしを通してクイズ形式で楽しく学びます。

後半は、温度が見えるサーモグラフカメラを使って、部屋を暖めたり涼しくしたりするために室温（空気の温度）だけでなく壁や床、天井の表面温度を調節する必要があることを教室を映しながら説明します。



2. 建築とバリアフリー

日本におけるバリアフリーの起源、そして町中の危険な場所やユニバーサルデザインの工夫などを近隣の街並みや大阪駅を見ていながら、クイズ形式で紹介します。

後半は、3班に分かれ、視覚障がい者の白杖ガイド体験、ピクトサインクイズ、誰もが使いやすい共用品の紹介とブラインドサッカーボールを使って簡単なゲームをします。



3. まちと防災

災害にはどのようなものがあるのか、近年に発生した災害をもとに説明します。

災害が起こったらどうしたらよいか、地域のハザードマップを見ながら非難について、また、家の中の地震対策について考えます。

後半は、応急担架の作り方、新聞紙を使った簡易スリッパの作り方、ロープワーク等の体験や、非常持ち出し品や備蓄品の数々を実際に見て学びます。



4. ユメのイエ・ユメのマチ

2日間に渡り班ごとで作成する4時限連続授業です。1日目1時限目に自分たちの暮らす住まいやまちづくりについて話し合い、2時限目に理想の住まいを考えスケッチします。2日目3,4時限目に画用紙やマーカー等を使って住まいの模型を作成し、班ごとに理想のまちをつくります。



5. 先生に向けた講座

上記のメニューを先生に対し実施します。3名以上のグループで申し込み可能で、指定の会場に出向くほか、町づくり教育普及協議会の会議室でも開催しています。資料など全てデーターでお渡しすることができるので、授業に役立てていただいています。

E分科会プログラム

■テーマ 「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組

■分科会の趣旨

『建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律』（建築物省エネ法）の改正により、2025年には全ての新築住宅に対して、外皮性能の基準値への適合が義務化されます。更に2030年には適合規準の引き上げが示されました。

これに伴い、外皮の断熱性能への適合が困難であると考えられる伝統的構法について、令和元年告示786号に明示された仕様により「気候風土適応住宅」として認められるものについては、外皮基準の適合が除外、一次エネルギー消費量が緩和されることとなりました。伝統的構法の継承に配慮しつつ徳島県独自の気候風土適応住宅として残すべき認定構法等の仕様策定への（公社）徳島県建築士会の取り組みを紹介します。

■司会 高源 真由美（徳島県建築士会） アシスタント 濱田 知佐（徳島県建築士会）

■コメンテーター 島田 めぐみ（徳島県建築士会）

1966年生まれ。筑波大学芸術専門学群美学芸術学主専攻卒。結婚・出産を経て、他業種から建築の世界へ。板倉建築をはじめ、県産木材を構造にも仕上げにも多用した住宅・店舗の設計を得意とする。行政（徳島県農林水産部スマート林業課など）や木材関連団体（徳島県木材協同組合連合会など）と協力して、県産材の需要拡大にさまざまな事業を通して取り組んでいる。

「徳島県建築士会 阿波のまちなみ研究会」所属。

「一般社団法人徳島県木の家づくり協会」協力設計者。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00 ~ 9:05
2. 活動報告	(50分)	9:05 ~ 9:55
3. 意見交換	(50分)	9:55 ~ 10:45
4. まとめ	(15分)	10:45 ~ 11:00

「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取組

(公社) 徳島県建築士会 島田めぐみ

はじめに 「気候風土適応住宅」とは

平成27年(2015)7月公布の『建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律』(建築物省エネ法)により、一次エネルギー消費量基準及び外皮性能基準への適合が努力義務とされた300㎡以下の新築住宅においても、2020年より適合義務を拡大する方針が2016年5月に閣議決定された。(※平成31年1月31日発表の「今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方について(第二次答申)」により、300㎡以下の新築住宅の適合義務化は当面見送りとなり、建築士による建築主に対しての省エネ基準への適否説明を義務づける方向が提示された。)

全ての新築住宅に適合義務が課されると、日本の伝統的構法により建築される住宅は新基準の外皮性能への適合が困難であることから建築が不可能になることが予想され、地域の建築文化の継承が阻害される恐れがある。この状況を回避するための方策として、所管行政庁が地域の気候及び風土に応じた住宅であることにより外皮性能に適合させることが困難であると認める「気候風土適応住宅」については、適用除外とされた。(一次エネルギー消費基準については、その規定を緩和。)この「気候風土適応住宅」の認定基準については、

- ① 国のガイドラインを参考に認定
- ② 地域独自に策定した認定指針をもとに認定
- ③ 他地域の認定指針を参考に認定

の3つのケースが想定され、国による認定基準のガイドラインが策定されている。更に、令和元年国土交通省告示786号が發布され、国による気候風土適応住宅の認定基準が明確に規定された。

こうした状況のなか、地域で活動する建築士として地域の建築文化を次世代に継承するために必要な「気候風土適応住宅」の認定基準とはどういったものであるべきかを考えたい。そのために徳島県における伝統的建築要素・構法を改めて抽出し、徳島県独自の認定基準策定の有益性を探るとともに、認定構法等の選定を目指すためのこれまでの取組と、今後の展望について紹介したい。

これまでの取組

・2016年度 徳島型気候風土適応住宅板倉モデルの企画開発

(平成28年度工務店と林業・木材加工業の連携による住宅事業支援事業・林野庁)

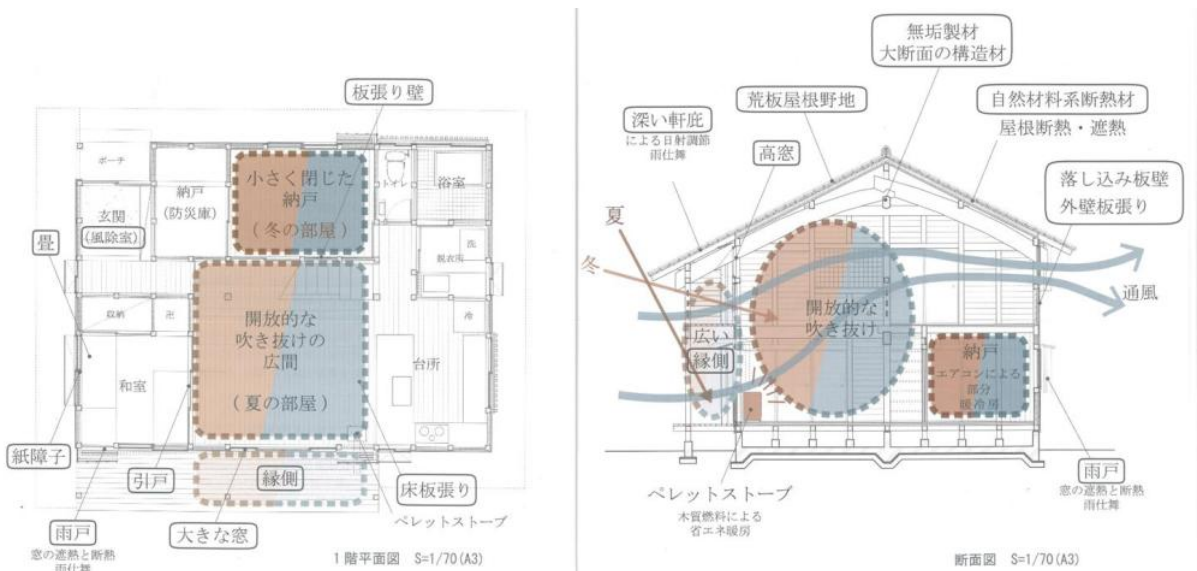
事業主体：徳島県木の家づくり協会

協力団体：那賀川すぎ共販協同組合

徳島県木材利用創造センター

筑波大学芸術学系橋本剛研究室 株式会社里山建築研究所

- 事業概要：1. 次世代省エネ基準を見据えた、地域材を使った気候風土適応住宅の板倉モデルを企画開発し、地域材の利用拡大を目指す
2. 板倉構法の温熱環境測定実証実験



・2018年度（平成30年度）徳島型気候風土適応住宅に関する研究

事業主体：一般社団法人 徳島県木の家づくり協会

協力団体：那賀川すぎ共販協同組合 筑波大学芸術学系橋本剛研究室

事業概要：1. 次世代省エネ基準対応型板倉の温熱環境調査（継続 2018年夏季）

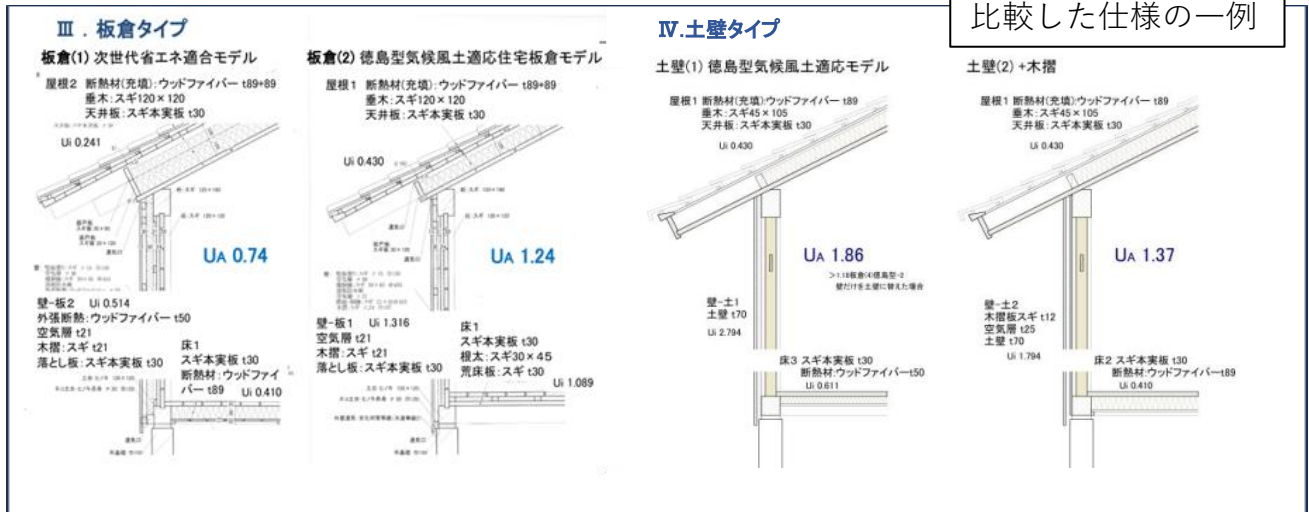
2. 徳島型気候風土適応住宅 3タイプの外皮性能比較

2016年度に企画開発した徳島型気候風土適応住宅板倉モデルのプランを利用して、板倉構法・

土

壁構法・乾式構法の3タイプの屋根、壁仕様を仮定して作成した外皮性能を、（一社）日本サステイナブル協会の計算支援ソフトを使用して詳細計算し、比較した。また、それぞれのタイプにおいて屋根、壁の断熱材の仕様、開口部の仕様を変更して計算し、UA値にどのように影響するかを考察した。（計算：UN建築研究所）

こうした比較研究により、次世代省エネ基準の外皮性能を満足させるためには、それぞれの構法に於いてどのような断熱性能（断熱材の種類や厚み）や開口部の仕様が必要であるか、詳らかとなった。



・2018年度（平成30年度）『徳島県気候風土適応住宅に於ける認定構法等の策定業務』

徳島県委託事業

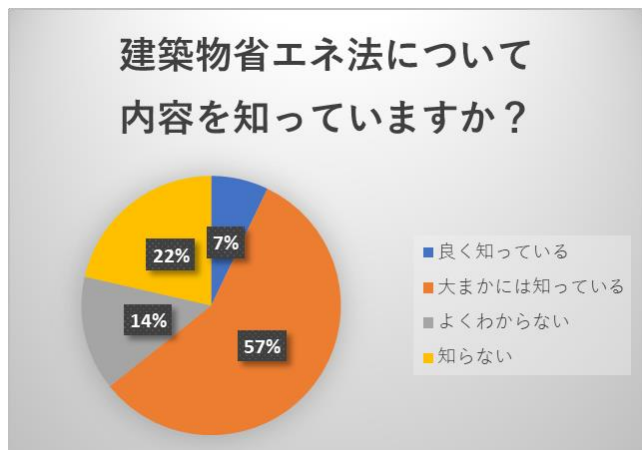
伝統構法による建築を実践している建築技術者（主に大工職）に対し、自身が実践している徳島の伝統的建築様式・構法・要素を聞き取ると同時に、建築物省エネ法への習熟度・対応の可否などを聞き取り調査した。（県中央部、県西部、県南部に分けて業者を選定し、個別に対面で聞き取り調査を行った）

調査の結果、調査対象事業者の約半数で年間に1～2棟の伝統建築による新築住宅の受注があり、断熱施工が難しい構法を採用していることが分かった。また断熱施工による工期の長期化・施工手間・建築費の増加により大手事業者との価格競争に対応できないといった課題があることが浮き彫りとなった。習熟度に関しては新省エネ法をよく理解できていないとの回答は1/3以上にのぼり、今後義務化された際には自社で対応が出来ないと答えた事業者は2/3に及んだ。

こうした状況は全国的にも指摘され、結果2020年からの全面義務化は見送られることとなった。



建築技術者への聞き取り調査の様子



アンケート結果の一部

◆調査結果から導き出された徳島県の伝統的建築物の告示第1項への適合状況

告示要件	適合	理由
イ 外壁の過半が両面を真壁造とした土塗壁	×	外部の大半は板張り等大壁仕上げ
ロ 外壁の過半が両面を真壁造とした落とし込み板壁	×	社寺を除き伝統的建築物で落とし込み板壁は用いられていない
ハ(1)(i) 外壁の片面を真壁造とした土塗り壁	○	
ハ(1)(ii) 外壁の片面を真壁造とした落とし込み板壁	×	社寺を除き伝統的建築物で落とし込み板壁は用いられていない
ハ(1)(iii) 屋根が化粧野地天井であること	×	山間部の古い民家を除き土間や火を使うカマヤ以外は天井を張ることが一般的
ハ(2)(i) 床が板張りであること	△	古くは全て板張りの民家も見られたが、座敷等に畳を敷くのが一般的
ハ(2)(ii) 窓の過半が地場制作の木製建具	△	当初は地場制作の木製建具であったが、改造によるアルミサッシに交換されたものが多い

調査結果を分析した結果、上の表のように既存の伝統的な建築物は告示第1項に適合することが困難と考えられた。今後、新築される住宅であれば、ハ(1)(i)とハ(1)(iii)、ハ(2)(i)、ハ(2)(ii)のいずれかの組合せで告示に適合することは可能と考えられるが、徳島の伝統的建築様式である「夏を旨としたすまい」や「台風による風雨への備え」を担保することは困難であり、告示2項にあるとおり、「前項各号に掲げる要件では、地域の気候及び風土に応じた住宅であると認められない場合」と判断され、上記を担保できるような徳島県独自の気候風土適応住宅の認定構法等を定めることが望ましいという結論に至った。

・2021年度 もっけんフォーラム「省エネ時代のとくしまのすまいとくらし」開催

主 催：(公社)日本建築家協会四国支部徳島地域会
 共 催：(公社)徳島県建築士会・(一社)徳島県建築士事務所協会
 後 援：徳島県・(一社)日本建築学会四国支部徳島支所



徳島で活動する建築関係者が集まり、省エネ時代の徳島のすまいやくらしについて、ディスカッションが行われた。このフォーラムを契機に「徳島型気候風土適応住宅」の仕様について、行政と建築関係団体が協力して推進する機運が生まれた。

このフォーラムにおいて提唱された、気候風土適応住宅に対する共通認識。「地域独自の建築文化を守ることはそこにしかない魅力的な景観を守ることであり、地域の気候風土に根ざしたまちなみは人々の愛着を生み、その地域に暮らしたいとの魅力にもつながるものである。」

・2022年度 建築関係団体と行政による徳島型気候風土適応住宅の認定基準検討会議

参加団体：(公社)徳島県建築士会 (公社)日本建築家協会四国支部徳島地域会
 (一社)徳島県建築士事務所協会 (一社)日本建築学会四国支部徳島支所
 徳島県住宅課建築指導室 徳島市建築指導課

2022年度より、徳島県独自の気候風土適応住宅認定基準を策定することを目的に、上記参加者及び、検討課題によっては学識経験者等を招いて、検討会議を実施している。2023年7月現在で、計9回の会議、1回の講習会を実施した。2023年4月には、これまでの検討内容について、県建築指導課と国交省との協議も行われた。徳島型気候風土適応住宅認定基準策定に向け、今年度も継続していく予定である。

F分科会プログラム

■テーマ 「灯台が照らし出す未来への道すじ」

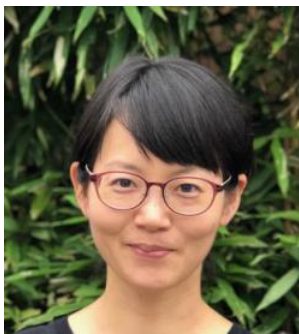
■分科会の趣旨

豊予海峡（速吸瀬戸）は九州の東部大分県と四国の西部愛媛県の海峡で北は瀬戸内海、南は太平洋に接する豊後水道の最も狭くなった部分で潮の流れが速い難所です。ここに面する大分県佐賀関半島の岬に明治時代に建設された鉄造りの「関埼灯台」を地域活性化の核にしたいと大分市文化財課からの委託を（公社）大分県建築士会が受けて令和3年初めよりヘリテージマネージャーを中心に調査報告後、令和4年に「登録有形文化財」に指定されました。秋に地元のまちづくりを取り組む方々と一緒に、国内外の灯台を研究する先生を大分にお招きして登録記念イベントを開催しましたので、このような取り組みからつながるお話をお伝えします。

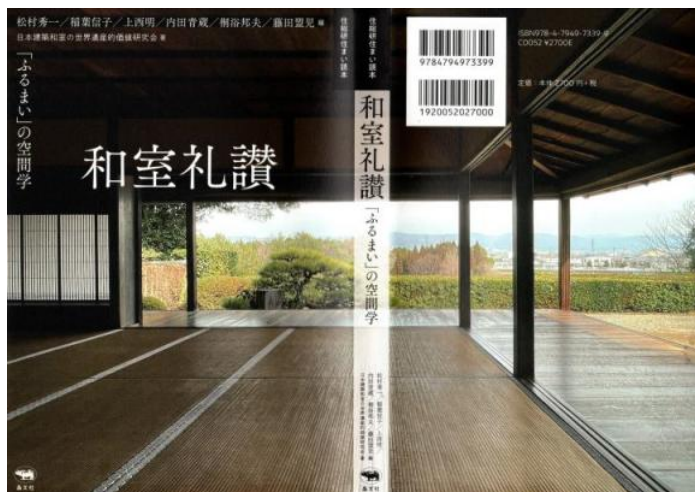
■司会 高橋 由美（大分県建築士会） アシスタント 松田 まり子（沖縄県建築士会）

■コメンテーター 小関 公香（大分県建築士会、歴史的建造物委員会）

福岡県古賀市出身で大学進学の際に大分に住み、その後設計事務所や工務店勤務を経て4年前より建築士事務所として活動しています。古民家の学習会で空き家を活用した時の縁で事務所として利用している建物は大分県別府市の「友情の家」です。こちらは解体の相談から始まりましたが、歴史を変えたものがたりの内容から、昨年末には『和室礼讃「ふるまい」の空間学』に掲載していただきました。このようなご縁を大切にヘリテージ建造物の活用を含めた保存活動に関わっていきたいと思います。



コメンテーター



「建築士」4月号 Book Reviewで紹介されています

■分科会の進め方

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. 司会挨拶、コメンテーター紹介と進行説明（10分） | 9：00～9：10 |
| 2. コメンテーターによる活動報告（80分） | 9：10～10：30 |
| 3. コメンテーターへの質疑応答及び意見交換（30分） | 10：20～10：50 |
| 4. まとめ（10分） | 10：50～11：00 |

3.登録記念イベント開催

調査活動を踏まえ、大分県出身で灯台の書籍「灯台から考える海の近代」を執筆されている金沢大学准教授の谷川竜一氏と灯台女子として雑誌「灯台どうだい？」編集長の不動まゆう氏を大分にお招きし、講演会・シンポジウムを開催しようという企画に発展しました。灯台の所有者である大分海上保安部や灯台調査に協力頂いた日本文理大大学、地元大分市も加わり、ちょうど文化財登録されたあとの11月1日「灯台記念日」近日に設定されました。秋晴の天候に恵まれた令和4年11月6日（日）に（公社）大分県建築士会主催、大分海上保安部・佐賀関ローカルデザイン会議・日本文理大学共催、大分市・大分市教育委員会後援という構成により「関埼灯台の登録有形文化財」の登録記念イベント～関埼灯台と佐賀関のまちづくり～を開催しました。



年1回の公開日の関埼灯台



地元の小学生親子に説明する会員

午前中の第1ステージは現地見学会で、大分海上保安部とヘリテージマネージャー共同で現地の説明を行いました。年一回の灯台公開日と重なり、約170名の来場者に見学していただきました。県外からの来場者も多い中、駐車場のスタッフは地元佐賀関支部に協力して誘導していただきました。宿舎跡に歴史を辿るパネル展示、内部には各地域の灯台の資料が展示されていました。地元佐賀関の小学生は佐賀関支部の渡邊豊基氏の説明で歴史的背景や概要を聞き、親子で興味深く見学している姿が印象的でした。

午後の第2ステージは会場を佐賀関小学校体育館に移して、講演とシンポジウムの開催です。一般の方を含む約90名にご参加いただきました。会場には、佐賀関のまちづくりの一環としての取り組みである日本文理大学の学生による「流木アート」展示や「貝殻風鈴製作」ワークショップ、大分海上保安部による「大分県内の灯台」パネル展示、佐賀関支部による「今昔ものがたり」展示、大分県内の灯台3基の同縮尺「ペーパークラフト」など様々な催しがありました。



日本文理大学学生によるワークショップ



大分海上保安部によるパネル展示

講演はまず谷川竜一氏より「灯台と海の近代—歴史的公共財としての価値を再考する」と題して、灯台の歴史の海外からの流れ、現在の大分の文化財の位置づけなどを分かりやすく説明していただきました。専門が近代建築史という事で日本の近代化と灯台の関係や佐賀関から佐伯までの「海部（あまべ）郡」という地域に着目しての生活世界と歴史をご説明いただき、近年は豊後土工の研究にも力を入れられており、海部郡の活性化につながる話など興味深い話ばかりでした。佐賀関のまちと離れている灯台をどのようにまちづくりに活かすかというハードルに対して、ご当地から県南に架けての海部郡をキーワードとしたもっと大きな視点に立って「まちづくり」を考えることのご示唆をいただきました。



講演を聴講する研修生と一般聴講者



シンポジウムの登壇者

次に不動まゆう氏より「まちのシンボル！灯台を利活用して未来を照らそう」と題して、世界の灯台を訪れ雑誌を編集される中での体験した灯台の魅力や国内外での灯台の活用例や灯台利活用の考え方を沢山の写真と一緒に紹介していただきました。ヨーロッパではホテルやレストランとして日本でもグランピングやカフェとして灯台での「心地よい時間を創出」される事例は印象的でした。前日の東京での「海と灯台のサミット2022」登壇後、最終便の飛行機で大分に駆けつけてくださったその熱意と、普段は音楽大学の学芸員をしながら、自費で出版される精力的な活動をされるお話など、多くの方に灯台愛が伝わったのではないかと思います。同時に、海外や国内での灯台の全く機能の異なる利活用事例は、まちづくりも固定観念を外して、新たな発想が求められているようにも感じられました。

その後は、シンポジウムとして大分大学教授で建築士会副会長 鈴木義弘氏のコーディネートで両講師に加えて大分市土木建築部部長 吉田健二氏と大分海上保安部次長 安部節郎氏に登壇していただき始まりました。様々な問いに対して各専門分野からお答えいただき、最後は佐賀関のまちづくりに対する考えも提案していただきました。その後、会場からの質問コーナーでは地元の方やまちづくりに取り組む方から今までの活動と講演を聞いてのこれからの展望、地域に自生するヤブツバキを活用する話をお聞きしました。

最後に文化財登録のための調査や図面作成、報告書の取りまとめをされました芳山憲祐氏より、関崎灯台の登録されたポイントや調査背景、今後のまちづくりをお話していただきました。

反省会では、講師とスタッフ・関係者で今後の灯台活用への更なる話に花が咲きました。今回は登録記念という事でこのようなイベントを開くことができ、これをきっかけに「灯台を核とするまちづくり」の未来を願う気持ちは皆同じでした。

4. その他の活動

大分県内の文化財建造物やヘリテージ研修の内容、木育の取組や青年部活動、女性職人の会など 関埼灯台を登録有形文化財への登録からつながる活動をお話します。

5. まとめ

県内には明治期に建てられた灯台は他にも存在します。ジオパークで注目を集める姫島灯台、映画の「新・喜びも悲しみも幾歳月」にも登場している佐伯市の水ノ子島灯台（官舎は登録有形文化財）、杵築市の守江湾には煉瓦造りの灯標が存在し、こちらも地域の核としてまちづくりの存在を改めて意味する可能性が高く期待されます。今後もこのような取り組みの助けとなるような活動を建築士会では進めていきます。



姫島灯台（明治37年初点灯）



姫島灯台官舎



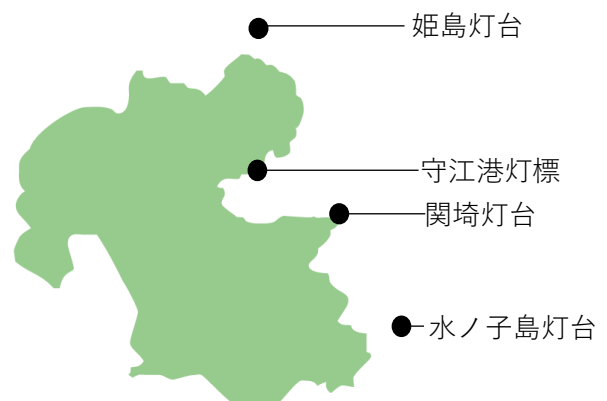
水ノ子島灯台（明治37年初点灯）



海事資料館（平成10年文化庁有形文化財登録）



守江港灯標（明治33年初点灯）



大分県内の明治期灯台

8 エクスカーション

令和5年7月30日（日）13:30～ 約3.5時間

「伝統工芸体験」と「石川県立図書館の見学」

1 コース

金沢表具体験（インテリアパネル作成）

参加費 3,000 円 定員 10 名

金沢市文化ホール → タクシー → 金沢職人大学校 → タクシー → 金沢市文化ホール

県内表具職人たちが研究会を結成し、「雪吊り」、「加賀野菜」や金沢町家特有の格子「木虫籠」など金沢らしい模様や素材を用いデザインし、2013年にブランド化された「金沢からかみ」でインテリアパネルを作成します。伝統工芸の金沢表具に触れていただく貴重な機会です。



2 コース

加賀水引体験

参加費 2,000 円 定員 12 名

金沢市文化ホール == 蒼風庵 徒歩 10 分 == 金沢市文化ホール 徒歩 10 分

加賀水引は、平面的だったものを立体的な水引細工・織型に仕上げたことで全国に知れ渡りました。美しい色の水引をつかってアクセサリーを作ります。普段使いはもちろん晴れの日もお使いいただけます。

また会場の「蒼風庵」は築 90 年の金澤町家です。間取り、木製の建具、調度品など当時のものも残っています。こちらもお楽しみください。



3 コース

加賀友禅体験

参加費 2,000 円 定員 20 名

金沢市文化ホール → タクシー → 茜や → タクシー → 金沢市文化ホール

加賀五彩（臙脂、藍、黄土、草、古代紫）の濃淡を使い分け、花や鳥など自然をモチーフにした古典的な図案で描かれる加賀友禅。模様を写実的にみせる「外ぼかし」と「虫食い」を特徴にもつ、「加賀友禅」工程のひとつである彩色を体験していただきます。

加賀友禅の作業工程の解説付きです。



4 コース

呈茶体験

参加費1,000円 定員20名

金沢市文化ホール ≡≡≡ 金沢城公園 玉泉庵など ≡≡≡ 金沢市文化ホール
 徒歩15分 徒歩15分

「魅力ある和の空間ガイドブック」でも紹介されている金沢城公園玉泉院丸庭園、玉泉庵にご案内します。「庭屋一如」庭と一体化した空間でお茶をいただきます。石川県産、城内産の素材・材料がふんだんに使用された和室からの庭園の眺めをぜひご堪能ください。

[ルート]文化ホール→尾山神社→鼠多門橋・鼠多門
 →玉泉院丸庭園→五十間長屋・菱櫓→文化ホール



5 コース

石川県立図書館 見学ツアー

参加費(交通費)1,200円 定員50名

金沢市文化ホール → 貸切バス → 石川県立図書館 → 貸切バス → 金沢市文化ホール

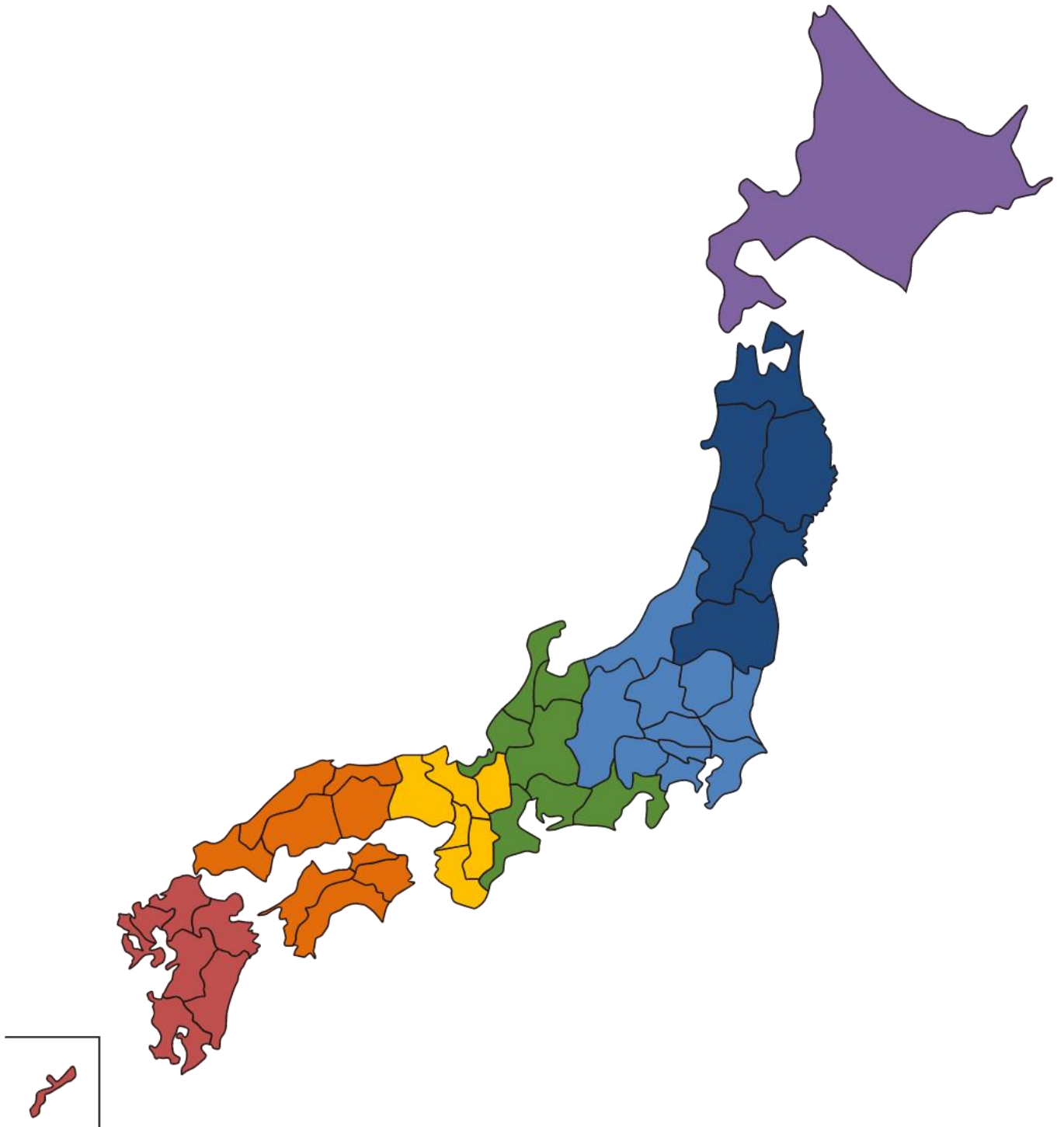
昨年7月に開館し、「美しい図書館」として話題の石川県立図書館。本のページをめくるイメージの外観、円形劇場のような大閲覧空間、工夫された図書の配架、厳選された家具など見どころ満載です。また、館内には伝統工芸の壁面装飾や伝統工芸作品の展示もあります。整備に携わった石川士会のメンバーが整備時のエピソードも含めて概要をご説明します。(概要説明後、館内は自由見学となります。)



ご注意とお願い

- * 各コース共、金沢市文化ホール正面玄関から出発となります。
 (昼食を済ませてから集合してください。)
- * 動きやすい服装・靴にて参加をお願いします。また帽子等の暑さ、日差し対策もよろしくをお願いします。
- * エクスカーション参加者のお荷物は、金沢市文化ホールにエクスカーション終了時までお預かりも可能です。ただし、貴重品は各自お持ちください。
- * 道路混雑状況により帰着場所への到着が遅れる場合があります。

9 都道府県建築士会女性委員会（部会） 活動報告・アンケート集計



北海道	<p>R4年活動報告</p> <p>『全道大会』 A分科会では栗山町【雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス】を会場に「廃校をめぐる地域と未来のつながり」というテーマで4名の講師を招きセミナーを開催。</p> <p>雨煙別小学校 副理事長様、象設計集団の設計担当者様からそれぞれ、校舎の再生についてのお話をいただき。北海道教育大学 岩見沢校 アートプロジェクト研究室の方、株式会社CHUE MUSIC代表の方からはそれぞれ、道内の廃校利用の実情をお話ししていただきました。45名参加の参加者でした。</p> <p>『全道女性建築士の集い』は安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄の見学、安田侃先生からの案内を直接受けることが出来ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道央ブロック <ul style="list-style-type: none"> ・住宅展示場見学 ・防災手帳の活用 ・しめ縄リース作り 12月3日 8名参加 ・道北ブロック <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会：時間のオーガナイズに特化したセミナー ・旭川工業高校生とのワークショップ 「旭川市新市長舎建て替え 計画～設計まで」
青森	<p>「魅力ある和の空間ガイドブック 青森県版パネル展」を開催しました。1回目は銀行ロビー、2回目は県庁ロビー（防災週間パネル展と共催）展示パネルの横には、東北版ガイドブックの冊子も見られるよう設置しましたが、見学者の方から、東北版冊子が欲しいと、問い合わせが数件ありました。（旅行会社、役所文化財関係者や、いずれも女性でした）旅行会社、官公庁、各種店舗や病院ロビーなど、パネルや冊子の活用はまだまだあると感じています。活動する会員が少ない中、20代、30代の若い会員をリーダーにして、魅力ある和の空間ガイドブック掲載物件の見学会とランチ会を開催しています。入会間もない若い世代の会員たちがワクワク参加出来て、一般の若者にも響く、旬な話題や人々との繋がりも作りながら、新しい運営方法も意識して活動して行きます。</p>
岩手	<p>(5/28)盛岡八藝館にて、総会を兼ねて「東北ブロック会福島大会」をオンライン参加し、子供向けワークショップ「ダンボールハウス」を開催しました。</p> <p>(9/10) 今後の活動のため、紫波町「平井邸」を視察しました。（役員3名）</p> <p>(11/3) 役員会を兼ねて「こども本の森遠野」見学会・講演会を開催し、女性建築士のみならず、多くの方々にご参加頂きました。</p> <p>(12/10～11) 弘前レンガ倉庫美術館・青森県立美術館を訪れました。（役員4面）今後開催予定の写真展の構想の参考になりました。</p> <p>オンライン会議やオンライン参加に慣れ、会場を借り複数人で行事にオンライン参加するという新しい形式を何度か開催してみました。今後、この形式を活用し、現地参加だけではない楽しみ方を検討していきたいと考えています。</p>
宮城	<p>令和2年度に始めた魅力ある和の空間報告会は、連合会事務局から全国の女性委員長・部会長さんへ周知いただいたこともあり、令和4年度も全国から延べ約130名の参加をいただきました。他には建築積算講習会（対面+WEB）、魅力ある和の空間掲載の旧氏丈邸とお茶会见学会（子供3名参加）、耐震・断熱研修会を開催しました。</p> <p>令和5年度も語ろう学ぼう木の建築講座をWEBにて計4回開催予定（共催 阿部和建築文化研究所4/8開催済）。講座関連の古民家建物調査を5/20実施済。改正建築物省エネ法・建築基準法 勉強会をWEBで6/20開催済。今年度も青年部会と協力し、要望があがっている、①親子で参加できるお泊り研修会、②省エネ・メガソーラー等に関する研修会、③建築積算講習会、④塩害対策に関する研修会、⑤建築構造の話、⑥会員交流会 の企画を進める予定です。</p>

<p>秋 田</p>	<p>令和4年度は、全国大会あきた大会開催年のため全集中の1年となった。コロナ感染も終息しないもののリアルな活動再開のための第一歩として、令和4年度女性委員会は書面で行い、第1回幹事会・学習会を同日(5/28)東北ブロック女性委員会福島大会にサテライト会場からオンライン参加に充て、21名が参加。親子体験学習はあきた大会終了後としてもう1年延期。</p> <p>10月14日からの全国大会あきた大会には、女性委員会会員45人/66人がスタッフとして参加。最高のおもてなしができたと自負している。この大会を経験し感動したことで、新規会員も増えたことは私達にとっての最大のご褒美でした。</p> <p>第2回学習会は、あきた大会においてスタッフ業に集中していたことで大会を満喫することができなかつた為、伊藤副委員長から「あきた大会を終えて(裏話付)」を聴講。久々の対面での学習会は、会員の半数以上が参加し大いに盛り上がりました。</p> <p>5月開催のR5年度女性委員会・学習会では「あきた大会セッション発表から学ぶ」として、各セッション発表者が講師となり、改めて聴講・意見交換を行った。今年度は延期してきた親子体験学習会も再開し、エンジン全開で活動する予定。</p>
<p>山 形</p>	<p>【令和4年度活動報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北ブロック会女性委員会福島大会(5月28日)にて活動報告 ・緑のカーテン写真コンテスト(8月天童支部女性委員会主催) ・第4回建築女子フォーラム開催「銀山温泉古勢起屋本館改修復活と国指定文化財登録へ向けて」(8月27日)設計(瀬野和広氏)・施工管理(市村工務店荒井正俊氏)・建築主(銀山荘社長小関健太郎氏)講演と古勢起屋本館見学 ・建築士会全国大会秋田大会(10月14日)女性委員会にてセッションパネリスト ・女性委員会広報誌「あれこれ」3回発行(7月・10月・3月) <p>【令和5年度活動計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテン写真コンテスト(8月天童支部女性委員会主催) ・東北ブロック会女性委員会あおり大会(9月16日)活動報告 ・第5回建築女子フォーラム開催「歴史的風致羽黒探訪」(10月7日)鶴岡市羽黒町松ヶ岡開墾場にて開墾の歴史と養蚕の文化、シルクミライ館改修工事の講演と松ヶ岡本陣、蚕室建築構造、ワイナリー見学 ・女性委員会広報誌「あれこれ」3回発行(8月・11月・3月)
<p>福 島</p>	<p>令和4年度活動報告</p> <p>【東北ブロック会女性委員会ふくしま大会・第33回女性建築士のつどい】 R4年5月28日(土)郡山市ビッグアイ 対面+WEB開催 テーマ:「とうほく発SDGs」 ※年3回の女性委員会会議は、Zoomで開催した。</p> <p>令和5年度活動計画</p> <p>【第34回女性建築士のつどい】 R5年11月1日(土)福島市 コラッセふくしま 対面+WEB開催 午前はまち歩き、午後から基調講演や活動報告など、通常開催予定 コロナ禍後初の人数制限なしでの対面開催となる為、活動報告は各支部の近況報告とする。</p> <p>【魅力ある和の空間ガイド 福島県版作成】 掲載予定5件のうち2件は補修工事等で見学ができない為、HPを活用するなど建築士会や女性委員会の活動周知にも繋がる方法を模索し、令和6年度完成を目指す。</p> <p>【次世代育成プロジェクト】 継続事業とするために、開催に無理のない計画を練って行く。 ※年4回の女性委員会会議は、Zoomを活用しつつ開催して行く。</p>

茨 城	<p>コロナ禍での活動でしたが、オンラインだけではなく会場参加も取り入れ、わくわくセミナー・ラブアークセミナー合計9回、県南県央で新年会企画会を開催。建物見学会1回、野外講座として「歴史ある筑波山神社」の散策。その他、女性委員会設立30周年記念式典・記念事業を開催。一年延期してのコロナ禍での開催となりましたが、歴代部長・委員長・来賓をお招きし、式典後は県内ご当地菓子を囲んでの交流会・5支部の活動報告を行った。約3年ぶりに集まったの開催となり、会員同士の交流をはかることができ活動報告はとても有意義な時間となった。セミナー内容としては、今では必須となっている「Zoomの便利な使い方を学ぶ」。また、近年電気代値上げにより「家産家消」の太陽光発電と蓄電池が改めて注目されている「太陽光発電と蓄電池を学ぶ」。その他「換気計画のトレンド」空気の流れの基本から最新の換気計画の考え方、空気清浄について学び、10月から始まるインボイス制度について、メリットやデメリットなど税理士先生に話しをお聞きした。日常の防犯対策としては「スマホでホームセキュリティ」。スマートフォンを活用してできる住まいのセキュリティシステムについて学んだ。</p>
栃 木	<p>栃木県の女性委員会は、コロナ禍中も定期的にオンラインでの定例会やミーティングを開催し、年2回発行する会報誌『MonBureau』の発行に加え、去年は30th記念誌を発刊することができました。コロナが落ち着き始めたころ、見学会や研修会なども少しずつ再開しながら、オンラインの便利さも活用し、活発に意見交換の場を設けています。</p> <p>勉強会では座学にて、省エネ住宅やパッシブデザインについての意見交換や最新の設備、断熱材の種類などを学び、女性委員会の先輩が設計したパッシブデザイン住宅を見学させていただきました。実際の建物を見学することで、暖かさの実感や省エネに対する考え方などがより深くインプットされたように思います。</p> <p>秋には真岡、益子方面へまち歩き見学会へ出かけました。和の空間にも紹介した建物を見学したり、ゆかりのある芸術家のギャラリーを観て周ったり、そして美味しいランチを堪能。</p> <p>やはり女性委員会の活動に美味しいものは欠かせません。</p> <p>今年委員長1年目で何かと不備な点もあるかと思いますが、楽しい委員会活動ができればと思います。</p>
群 馬	<p>コロナ禍により、活動は制限されました。支部毎のWEBでの研修会が主な方法でした。前橋支部では福島建築士会の方にWEBにて災害の現況を説明していただきました。あつという間に起きる災害ですが、復旧には何年もかかる事など災害の恐ろしさと共に、日頃の予防、事前の対策の大切さを学ばせて頂きました。高崎支部では、海外に住む建築家とWEBにて交流をさせていただきました。日本とは根本的に考えの違う中、気候や風土も建築の方法や法規の違うそんな中で仕事をしているを学びました。12月にはコロナが納まり、例年、開催してきました女性委員会全体の「集い」と「環境講座」で久しぶりに交流ができ情報交換をいたしました。3月には高崎支部主催で三百年続いた旅館がリニューアルし、見事に生まれかわり、緑あふれ、人々に憩いを与えてくれる空間となった建物を見学致しました。</p>

<p>埼玉</p>	<p>コロナの状況が落ち着き今年度の事業は順調に行えております。 見学会として、9月22日に「川越空き家リノベーション見学会」を行いました。 埼玉建築士会の会員の方が、川越市を舞台にエリアリノベーションのプロジェクトチームの一員であるという事で見学のご協力いただき、古い長屋をリノベーションして「居酒屋」「ゲストハウス」として生まれ変わった店舗を見学しました。 参加者19名で見学後はその居酒屋で懇親会を行い、お店の雰囲気も味わうことができました。 大きな事業として、11月30日に「深谷市の新旧建物をめぐるバスツアー」を行いました。 3年前に計画しておりましたが、コロナ渦によりやっと開催に至りました。 日本経済の父、渋沢栄一誕生の地としてゆかりの建物「誠之堂・清風亭」「旧渋沢邸」、七つ梅酒造跡、オープンしたての深谷花園プレミアムアウトレットをバスで巡る1日ツアーを行いました。25名の参加者で大変満足のいく結果と思います。 1月21日に赤坂プリンスホテルクラシックハウスにて3年ぶりの新年座談会を参加者15名で行いました。</p>
<p>千葉</p>	<p>①委員会開催：5回 WEB併用 4・6・9・11・2月 役員会・小委員会 適宜 ②フェイスブック管理・更新 ③社会活動 ・防災講座「逃げ地図」出前ワークショップ（こどもcafeにて） 2023.4.4 ・冊子「地震いつもの備え」普及 ・地域や住まいの防災の普及活動を考える 勝浦市視察 2022.11.18 ④研修活動 ・建築視察：勝浦市旅館 松の家（登録有形文化財）2022.11.18 遠見岬神社 2022.11.18 ⑤「建築と子どもたち」ワークショップ ・君津支部主催 ツリーハウスに竪穴式住居建築・完成 2022.4.30～10.1 ・ワークショップ用冊子 新規作成 中止 ⑥全国女性建築士連絡協議会 参加（東京） ・C分科会「福祉まちづくり」田野恵氏発表 2022.7.17～7.18 ⑦関東甲信越建築士会ブロック会女性建築士協議会 参加 2022.11.30 ⑧「建築士の日記念事業」 参加・協力 2022.6.26 ⑨免許交付式歓迎会 協力 2023.1.21 ⑩チャレンジ事業「福祉まちづくり小委員会」 ・ステップアップ講座開催継続 ・おさらい講座 2回開催 ・特別講座（国際福祉機器展 見学） 2022.10.6 ・出前相談会 中止</p>
<p>東京</p>	<p>令和5年5月27日東京建築士会女性委員会企画 公開シンポジウム 山田初江さんから学ぶ 住み継がれる「家」と住み継ぐ「人」～なぜ、住み継がれてきたのか～と題した公開シンポジウムを日本女子大学キャンパスでの対面形式とWEB配信で開催した。女性建築家の草分けである山田初江さんが20代の頃に設計した「やねうら部屋のできる家」は山田氏自身による増築や住まい手である八木佐千子氏による改修等を経て60年以上住み継がれている住宅である。前半で八木氏に紹介をいただき、後半は日本女子大学名誉教授小川信子先生、同大学教授定行まり子先生に山田初江さんの自邸や別荘等の住宅作品を紹介いただきながらの座談会とし、住継がれる「家」と住む継ぐ「人」について、大切にすべきことを建築士の視点で学ぶ機会となった。参加者は対面とWEBを併せて200名程度、学生の参加も多く、70年近い年齢を超えた交流も図れ、対面会場では今回取り上げた3作品の原図展示も行い、好評であった。</p>

<p>神奈川</p>	<p>9月 はまっこスクール「建築士」ブース出展 横浜市青年会議所主催の子供向け職業体験イベントに建築士ブースとして、子供達にシールで間取りを考える設計体験を開催した。関ブロ青年協にて発表予定。 全国静岡大会まで勝ち抜くため現在プレゼンの猛特訓中。 11月 神奈川県建築士会70周年記念式典 神奈川県女性委員会は総務部に所属しており本会でのイベントに於いてはその運営のおお手伝いを担う。去年は70周年の大きな節目であり大規模な式典を開催した 5月 フラワーリース作り体験 竣工した現場や、日々の生活の空間を演出するのに役立つ「フラワーリース」の作り方 講座（日本フラワーデザイナー協会講師）を開催した。紫色の紫陽花とスモークツリーとでシャビーでシックなリースを作る事ができ、その翌日に行われた本会総会特別公演にお招きした小泉進次郎衆議院議員にプレゼントをする事ができた。</p>
<p>山 梨</p>	<p>*7月13日・・・「瑕疵保険&ZEHのすまいの勉強会」 JIO山梨の所長を迎えて 現場でのチェック事項や、ZEH申請の内容などを学んだ。参加者15名。 *8月4日・・・ 山梨県からの依頼。職業体験講座「建築士のおしごと」 青年部との合同事業。子供たちへ向けて建築士の仕事の紹介などをした。 *10月8日・・・「省エネ勉強会」 木造住宅の設計プランに基づきエクセルの外皮計算シート入力を各自で行った。参加者17名。 *10月29日・・・山梨県建築士会主催 グランドゴルフ大会参加。久しぶりの開催で楽しく、あらためて会員相互の交流を深めた *2月25日・・・建築士の集い参加 青年部との合同事業参加。女性部の活動報告をした。建築士の一日の仕事と題してトークセッションをした。</p>
<p>長 野</p>	<p>① 令和4年度関東甲信越ブロック会青年建築士協議会 長野大会開催 大会テーマ「再生～ずくだせ建地区士～」 開催日：R4年6月18日(土) オンライン開催 ② 第14回信州環境エココンテスト開催 テーマ「信州ふるさとを楽しむ地域型バンガロー」 開催日：R4年12月17日(土) 応募総数5校180名 ③ 第35回青年・女性建築士の集い開催 開催日：R5年2月25日(土) 3年ぶりの対面形式での開催 参加者の交流、開催地の魅力を発見する事を目的としてオリエンテーションを行いました。</p>
<p>新 潟</p>	<p>令和4年度活動報告 ・令和4年11月10日(木)「隈研吾建築 I N 三条」開催 令和4年7月24日にオープンした三條市図書館等複合施設『まちやま』、三條市旧下田村エリアに4月15日オープンしたアウトドア用品ブランド・スノーピークが運営する『フィールドスイートスパヘッドクォーターズ』の見学会を開催。この二つは隈研吾氏設計による話題の建築で、『まちやま』については三條市の建築課に概要説明を依頼。会員29名の参加。 https://www.025arc.net/activity/202211102.html ・令和5年5月25日(木)「魅力ある和の空間 松籟閣と朝日酒造見学会」開催 ガイドブックにあげた「魅力ある和の空間」をめぐる見学会の第3回目。長岡造形大学 平山育男教授のガイド付きで開催。会員28名の参加 https://www.025arc.net/activity/202306021.html 上記見学会のほか、令和3年度事業であった「高田リノベーションセミナー」の動画3本を新潟県建築士会のHPにUPしました。 https://www.025arc.net/activity/womencommittee.html#anq1</p>

<p>愛 知</p>	<p>①「居住支援と地域福祉 ～care by the communityに向けて建築にできるところは何か～」 (Web) 令和4年6月25日(会員・一般向け) 講師：日本社会事業大学専門職大学院教授 井上由起子氏</p> <p>②すまいのえほんワークショップ (一般市民向け 住育に関する活動) 3回 ・豊田支部出張開催 令和4年7月3日 ・八事東子ども会出張開催 令和4年7月9日 ・県内保育園 令和4年9月28日</p> <p>③見学研修 「豊橋まちなか見学会」令和4年11月22日(会員・一般向け) 行き先：穂の国とよはしPLAT芸術劇場、人参湯、水上ビル、emCAMPUS豊橋まちなか図書館 講師：黒野有一朗氏</p> <p>④「不安定社会における住まいまちづくり」(Web)(会員・一般向け) 講話編 令和4年12月4日(日)・ワークショップ編 令和5年1月21日(土) 講師：東京大学教授 大月敏雄氏</p> <p>⑤その他 定例委員会12回/年、会報誌・HPでの活動報告 等</p>
<p>岐 阜</p>	<p>令和4年度 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月 施設見学会 「下呂温泉 水明館」 ブロック大会の会場を視察 ・7月 「ZEBとは」セミナーダイキン工業様を講師に「ZEB」の基本を学ぶ ・12月 「たくみ女子会」 建設業をめざす女性の為の懇談会を開催 ・3月 「気楽にらくだ会」 岐阜県新県庁舎を見学 ・その他「福まち建築士」 介護保険制度における住宅改修の適正化支援業務に参加 「岐阜県ヘリテージマネージャー養成講座」に参加 「ぎふ木造塾」に参加 <p>昨年度はコロナ禍の中感染状況を伺いながら様々な活動が出来ました。今後さらさらに以前のように活動を進めて行ければ良いなと思っております。</p>
<p>三 重</p>	<p>令和4年度は、コロナ禍の時から継続して企画している、建築を学ぶ高校生へ向けた「出前授業」を2校で開催しました。1校は8月に授業の一環として「実務での模型製作・庭外構計画・3Dプレゼンについて」、1校は翌年3月に就職活動の参考のために「建築士としての仕事・活動」とそれぞれの学校の要望に応じた内容で開催しました。10月には、オープン前のアウトドア施設といなべ市役所新庁舎の見学会を企画しました。一般の方を含め26名と多くの方の参加者がありました。12月には魅力ある和の空間ガイドブックに掲載された伊勢市「賓日館」を会場とし、ガイドブック活用へのアピールと会員増強を目的とした特別事業・意見交換交流会を計画していましたが、会場の都合により、来年度の開催に延期いたしました。今年度は、賓日館へ下見に行くなど、事業開催に向けて準備を始めました。その外、女性会員への情報発信「みけじょ通信」を年4回発行しました。</p>
<p>富 山</p>	<p>2022年度活動テーマ【防災・防犯】</p> <p>1) 富山県防災危機管理センター講演会&現場見学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和4年8月26日(金) 14:00～16:00 ・会場：富山県民会館301号室、富山県防災危機管理センター ・講師：株式会社福見建築設計事務所 高橋航平氏 ・参加者：30名(講師及びスタッフ含む) <p>設計・監理担当の福見建築設計事務所高橋さんに、設計趣旨、施設概要の説明をしていただいた後、共用開始前の施設内を見学。</p> <p>2) 防犯セミナーin越中座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和4年12月4日(日) 13:30～16:00 ・会場：創造の森 越中座 ゲストハウス「北日本倶楽部」 ・講師：富山県警察本部 生活安全企画課 犯罪抑止対策係 横山 和人氏 ・参加者：18名(講師及びスタッフ含む) <p>シンプルに「鍵かけ」が大切である事、ガラスの防犯性を高め、侵入までの「5分をかせぐ」事の大切さなどを学ぶ。セミナー終了後は子どもさんも参加できる企画として、越中座にある新聞印刷工場を見学。</p>

石川

今年度、全建女石川大会が開催されることになりました。大会へ向けて活動がとも活発になりました。
 コロナ禍で活動が縮小していたのですが、昨年度から準備会で顔を合わせる機会が増えそのおかげで会員同士の交流も持てるようになりました。
 昨年度からは大会のテーマ（伝統工芸と建築）を踏まえての勉強会が行われています。
 今年度は大会後もこのテーマで勉強会を継続したいと思っています。
 石川県では、できるだけ気楽に多くの会員に参加していただきたいと会報「花だより」をフライヤーとして配布するなどして委員会活動の雰囲気や情報が伝わるように工夫しています。
 実際の活動もどうやったら参加したくなるか、今後もアイデアを出して活動したいと思います。

福井

○住教育事業
 令和4年度は、大野市上庄小学校・福井市啓蒙公民館・あわら市環境展にて「木の授業」を開催しました。子供たちは様々な樹種の角材に触れ重さや香りの違いを発見し、思い思い飾り付けをした個性豊かな時間割を完成させ、建築において伝統的素材である木に親しんでもらいました。（平成24年度より継続事業）
 ○木の授業体験会
 事業への理解を促進するため住教育事業「木の授業」を建築士会会員向けに実施しました。
 ○建築士の日「ふくい建築情報フェスタ」
 木のペン立てづくりワークショップを実施し、大変盛況でした。
 ○えいじゅ通信の発行
 青年部が発行する「かわらばん」に女性委員会の情報発信をする「えいじゅ通信」を毎月掲載しています。
 ○定例会議 5回実施（WEB／対面）

滋賀

令和4年度は女性委員会が主催する事業、Doシリーズを2回開催しました。
 DoシリーズNo.84は「素材 木と鉄を知る」をテーマに、びわ湖材を使った施工事例として滋賀県林業会館を見学した後、設計・施工者からの解説をお聞きしました。そして造形作家と共に鍛造のワークショップを行い、1200°Cの丸棒を叩いてS字フックを作成しました。
 DoシリーズNo.85は「まちづくりから学ぶ」をテーマに、彦根市芹橋二丁目に現存する旧彦根藩足軽組屋敷にて、文化遺産を活かしたまちづくりの活動を実践されている方からその様子や今後の展望をお聞きし、地域の特徴を解説いただきながらまちなみの見学をしました。
 本年度も多くの方に興味を持って参加いただける事業が開催できるよう、委員の力を合わせて計画したいと思います。

京都

昨年度は建築士会70周年記念事業と近畿建築祭京都大会において、女性部会でも様々な関わり方をして充実した一年となりました。また3月には近畿建築士協議会女性部会での「魅力ある和の空間巡行」を京都が担当し、京都府最北端の久美浜町にある「豪商稲葉本家」の紹介をZoomによるオンライン配信にて行いました。初めての取り組みで大変なこともありましたが、大変好評を頂きました。今年は京都に文化庁が移転して来ました。住まい方そのものが文化となる京都において、普段は研究したり造ったりしている「和室」を、「使う」ことをテーマにお茶を通じて和室の使い方を様々な角度から学び、実践として秋と春にはお茶会を開くことを目標に活動していこうと思っています。和室離れしている昨今、建築士から積極的に和室を使う素晴らしさを発信して行ければと思います。

<p>大 阪</p>	<p>2022年第31回全建女東京大会において販売させていただいた冊子「安心・安全・安らぎの家」を多くの方に購入していただきました。改めてお礼申し上げます。また、12月にはWEBを活用して熊本建築士会女性部会とWEBセミナーも開催させていただきました。普段、市民向けに行っているセミナーは、段差の解消等のハード面と環境等のソフト面、それぞれ一時間程度必要ですので、形式を少し変えて、冊子の誌面構成や活用方法等をお話させていただきました。セミナー後の意見交換でも、とてもわかりやすい冊子なので、いろいろな場面で活用できそうですとのお言葉をいただきました。</p> <p>私たちは、2023年度から青年・女性委員会として新たに出発しました。まだまだお互いのことを探りつつではありますが、2025年の全国大会大阪大会に皆さまをお迎えするために一致団結して準備を進めておりますので是非お越しく下さい！</p>
<p>兵 庫</p>	<p>2023年は女性委員会設立40周年を迎える。この節目に、40年を振り返り、今後の活動の方向性を見出し活動のさらなる発展の機会とするため、講演会と建築文化交流事業と連携した交流会を実施、女性会員を中心とした内外の世代間の交流を図り、会勢強化に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築文化交流事業：高知県赤岡町_赤レンガ商家・土佐絵金祭り/大豊町_国宝・小学校・スポーツ施設を高知県建築士女性委員会のご案内戴き、隈研吾氏とまちづくりを進める「高岡郡梶原町」の見学会を開催。地域の魅力としての建築・建築の可能性・建築士の役割探る。 ・講演会：女性新進建築家：津川恵理氏を迎える。会員外の建築士・建築を学ぶ学生をターゲットに、WEBも活用し女性委員会と建築士会の会勢拡大を目指す。 ・一般市民向けセミナーの開催、近畿建築士協議会女性部会「魅力の和の空間巡礼見学会」「すまいとくらしと見つめるセミナー」に参加、建築士や市民との交流を行う。
<p>奈 良</p>	<p>奈良県建築士会女性委員会は、福まち部会、和室研究部会の2つの部会で活動しております。福まち部会では、昨年度、まちづくり委員会の「JR万葉まほろば線」沿線における各駅舎を中心に地域資源の掘り起しのためのイベントに参加し福祉の視点からまち歩きをいたしました。今年度は、建築士の日の事業としてその報告をさせていただく予定しております。和室研究部会におきましては、昨年度は、伝統民家における温熱特性の現代住宅への応用について学び、今年度は、昨年度の学びを活かした建物の見学会などを予定しております。</p> <p>また、地域の方々に建築士会を知ってもらうためのイベントを企画中で、イベントの企画を通じて女性会員の親交を深め、また、地域の方々に開けた建築士会を目指して皆で活動に取組んでいきたいと考えております。</p>
<p>和歌山</p>	<p>和歌山県建築士会女性委員会では、子供たちに木工教室や木育キャラバンの参加を通じて、紀州材についてや木がどの様に建物に使われているかなど木育活動を続けております。紀州材を使った木のカレンダーや時間割表の作成を親子で作業して頂き、また作成前には、木についての紙芝居などを行い林業や建設業、建物に興味を持っていただき建築士会を身近に感じて頂けらとと考えております。</p> <p>また、コロナ禍の影響も少なくなりつつ有り、新入会員との交流会などを行い女性委員の増強にも力を入れ、魅力ある見学会や講習会などの実施も考えております。</p> <p>委員会は引き続きZOOMと対面のハイブリット形式を行い、お仕事や子育てに忙しい世代にもより参加しやすい充実した委員会活動を行っていきたいと思っております。</p>

鳥 取	<p>令和4年度の活動内容は、定例女性委員会3回、青年女性合同委員会1回、防災出前授業（中学生1回と、看護学生・短大生1回）、学生デザインコンペ、水産物卸売市場見学勉強会を実施しました。防災出前授業では、ワークショップを行いました。中学生を対象としたHUGでは身近に災害を感じてもらい、自分たちは何ができるかを考えてもらいました。看護学生・短大生を対象としたHUGでは看護、保健、消防、建築と異分野の連携となりました。避難所として指定されている鳥取短期大学の施設を題材とし、実際に災害が発生した場合を想定しました。学生デザインコンペは、6回目を迎え参加作品数25点で実施しました。水産物卸売市場見学では、設計者と施設担当者に案内説明をいただきました。「おさかなパーク」が新設され、調理実習室、展望デッキを見学し、市場関係者や水産試験場と連携し社会活動ができる施設で貴重な体験ができました。</p>
島 根	<p>島根県建築士会女性委員会は、昨年度に島根女性委員会の創立30周年を迎えたので記念事業を開催しました。5年前の25周年記念の際には内部女性会員に向けての式典でしたので30周年では一般の方を対象に女性建築士を知っていただくような企画として「みんなの建築展—あなたの知らない女性建築士の世界」を開催しました。</p> <p>今まで学校とのかかわりが無かったのですが、今後建築学科の高校や大学と交流をしていきたいと思い、展示の依頼やスタッフとして参加もしてもらいました。1年かけて会議を重ねて来場者120名、スタッフ70名(学校関係スタッフ8名)とまだコロナの影響もある中で盛大な会とすることができました。</p> <p>また、例年開催している、県内での地域実践活動報告会の開催もしました。コロナ禍で活動しにくい環境ではありましたが、発表と講演会と組子コースター体験を実施することができました。</p> <p>今年度も引き続き学校関係と交流を深めて建築士の育成・発掘につなげていきたいと思えます。</p>
岡 山	<p>令和4年度活動報告</p> <p>岡山県建築士会70周年記念事業として、建築士会の周知活動である「建築フェス」（イオンモール岡山）が開催され、女性部会は企画運営に参加した。</p> <p>また、女性部会で継続して取り組んでいる「福祉住宅」について、オンラインセミナーを開催できるよう、運営方法の勉強、動画作成等を行い、セミナー開催にむけて準備を進めてきた。</p> <p>令和5年度活動計画</p> <p>コロナ対応が一段落し、これまでしばらく希薄になっていた人と人との繋がりを大切に、我々の活動を多くの人に届けられるよう、外に出ていく活動を行う予定である。引き続き、福祉住宅のセミナー開催に向け研鑽を積む。また、勉強会、見学会を企画し、建築の楽しさを社会に向けて発信する。</p>
広 島	<p>当県では、防災をテーマとして活動しております。</p> <p>ライフワークの地震などの天災に対する準備や避難について私たちが日常関わっている建物の設計業務の知識を活かし、防災イベントを毎年開催してきました。</p> <p>「見つけて学ぶ☆たても防探検隊」と題し、紙芝居やパワーポイントを使って、火事や地震が起きた時の避難方法や避難設備をクイズ形式で学んだ後、実際の建物を使って避難し、階段や防火戸、誘導灯などの避難設備がどのように設置され、どのように機能するかを体験してもらいますがコロナ禍で3年間中止しています。そこで視点を変え、全建女で講演をされた女性左官職人の金澤萌先生の工房に出向き【かまどワークショップ】を開催しました。火も電気も使用せず自分たちの思い思いのデザインでかまどを製作し実際に炊飯して美味しいご飯をいただきました。防災関連等の活動記録を残し、未来につなげこれからも発信してまいります。</p>

山 口	<p>令和4年度活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会開催6回 かわら版毎月発行 県会誌の女性部コーナー執筆(偶数月) ・女性部研修会「ヘリテージマネージャーとみる文化財建造物～室町建築の地域的特色～」開催 講師は士会のHMに依頼 山口市大殿エリアの大内氏ゆかりの建造物を中心にまちあるきを行った こけら葺きの修繕工事中の建物は足場にあがって工事業者の説明を受けることができた ・夏の子供向け企画(初の試み)「ドリームタウン～おうちばこでまちをつくろう!～」開催 ダンボールのおうちばこキットを利用して、小学生以下の子供たちに自由に製作してもらい、最後にまちのように並べて写真撮影 コロナ禍で延び延びになっていた企画をようやく実施できた ・青年部女性部合同バスツアーin大分(青年女性委員会事業)
徳 島	<p>R4年度 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物見学会 10月29日 瀬戸内国際芸術祭・直島ツアー 20名参加 ・あきやdeマルシェ 2月25・26日 商店街の空家等4軒を使い、ミニ畳作り、スタンプラリーを開催。 300名参加 ・新春意見交流会 4月22日 県内の建築士を講師として講演 20名参加
香 川	<p>6月 青年・女性建築士の集い中四国ブロック高知大会 7月 全国女性委員長(部会長)会議(東京) 9月 女性委員会30周年記念冊子発刊 10月 第64回建築士会全国大会秋田大会 11月 中四国ブロック青年・女性建築士協議会 理事会(岡山) オンライン交流会(WEB)「外皮計算」「日本の古建築の意匠に見る機能性」 12月 女性委員会30周年記念事業 建築セミナー+グループワーク (講師:グッドデザインスタジオ(有) 香川眞二氏)(四国村カフェ) 1月 新年会 2月 旧金比羅大芝居「金丸座」建物見学(ガイド付き)(昼食うどん付き) 定例会 隔月開催+臨時定例会2回 計8回</p>
愛 媛	<p>令和4年度 愛媛県活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 異業種交流会 松山市防災センターにて子供を含め防災について学び、防災グッズを配布しました。昨年度開催出来なかった行事でしたが無事に開催することが出来ました。 ・11月 県内見学会 まだまだ知らない県内発見の旅・・・ 伊達家のお膝元、宇和島市内を散策 高野長英隠れ家 木屋旅館などまだまだ知らない行ったことがない所を文化財・まちづくり委員の方に案内して頂きました。 ・12月 暮らし+勉強会 暮らしに素敵なエッセンスを・・・ クリスマスリース作成 お花の先生をお迎えして、クリスマスまでの日常を楽しく設えることが出来るよう クリスマスリースの作成をしました。 ・2月 スキルアップセミナー 建築家 伊礼智先生をお迎えして講演会 愛媛県建築士会70周年記念もあり、青年委員会・松山支部と協力し、講演会を開催しました。 <p>昨年度は コロナ禍ではありましたが例年に比べ開催が出来る事が増え、少人数ながら少しずつ出来る範囲、皆で考え活動を実施することが出来ました。</p>

高知

R4年度 高知県 活動報告

●青年・女性建築士の集い 中四国ブロック高知大会

感染症が一時的に落ち着いたR4年6月11日・12日に、3年ぶりとなるブロック大会を通常開催することができた。大会の様子は、分科会（講演型）も含めてオンライン配信を行った。

●第43回サマーセミナー

10月10日に建築家・内藤廣氏をお招きし、氏が設計した牧野植物園において開催した。昨年同様、YouTubeによる配信も行い、アーカイブも含めて多くの方に視聴いただいた。

●いたわり住宅相談会

高知市内の商店街アーケード内にて月一回開催している、福祉住環境の相談窓口。相談を受けたことからお手伝いした、山間部のバリアフリートイレがR5年春に完成した。

●とさっ子タウン

夏休みの2日間、こどもが運営するまちで、いろいろな職業がある中「建築士の仕事」を体験してもらうコーナーを担当している。R4年度は「おでかけとさっ子タウン」として、建築士事務所にこどもたちを招いて、住宅模型作り体験と実際に完成した家の見学を行った。

福岡

◆小さな木の家づくり体験、木のイスづくり体験（福岡市花と緑の一人一花サミット『グリップキャンペーン2022』への参加活動）

毎年継続参加している福岡市主催のイベントへの参加活動で、子供たちに小さな木の家づくり体験をしてもらうイベントを行いました。小さな木の家をその場で上棟し、金づちと釘を使って壁の板壁張り体験やイスキットの組み立てワークショップを行いました。コロナの状況を勘案しつつ、餅まき風餅配りなどを行い、昔ながらの風習も感じてもらいました。

◆建築士のための「はじめての動画制作セミナー」

近年身近になってきた動画について、建築の視点から魅力的な動画、伝わる動画について、また動画制作の基本フローや構成の考え方について、基本の「き」を映像メディアのプロに学ぶ座学を開催しました。

佐賀

2022年度は、コロナ禍でも対面のイベントができるようになり、例年行っている「定例会」の他に「交流会」を開催する事ができた。

定例会では弓道場の見学と弓道体験を楽しみ、2022年度は初めて女性委員会企画として「交流会」を2回開催。

会員増強などを目的に、どんな内容だったらより興味を持ってもらえるか、参加しやすくなるか、今後の活動への継続的な参加に繋げられるかなど考えを行った。

『人生フルーツ』上映会：建築家夫婦のドキュメンタリー映画。設計に携わられた建物が佐賀県伊万里市にある事も合わせて紹介。

『ティーツーリズム』講演会：建築とは違う形での街づくり、町おこし、新たな旅の楽しみ方を提案する講演会で、最後は美味しいお茶の入れ方体験。

交流会で土会活動に初参加の方もあり、少しずつではあるが輪が広がっていくように、今後も試行錯誤、定例会も変化させながら活動を行っていきたいと思う。

長 崎

長崎県建築士会女性委員会は、6名で構成されています。令和4年度の活動として

- ①住宅リフォーム推進事業イ、事業者向けセミナー
ロ、消費者向けセミナー 対面開催
- ②住宅フェア（パネル展示のみ）3日間、参加
- ③無料住宅相談会
毎月1回長崎市にて対面開催（長崎支部の女性部会・青年部と共に活動）
- ④九州ブロック協議会長崎大会を長崎市で開催（令和4年6月25日：400名参加）
- ⑤「和の空間」3カ所を長崎県女性委員会の事業として継続が主な活動です。
4月1日現在、建築士会入会者69名と長崎県建築士会の7%程度が女性建築士です。資格を持つ女性の4人のうち3人は、建築士会へ入会していないのが現状なので、魅力ある建築士会を女性の手で作り出すべく、まずは女性会員を増やすことを目標に日々精進しております。

女性委員会		報告者：三好 智子	
実施内容		実施日・開催場所等	
1.リフォーム推進事業			
①セミナー開催	・事業者向けセミナー	1回	R5.1.12 出島JTB長崎
	・消費者向けセミナー	1回	R5.2.11 県美術館
②無料住宅相談		・毎月1回第2土曜日実施（年間12回） 場所：長崎市消費者センター	
③リフォーム協議会実行委員会（意見交換）		・10/6（WEB）	
2.会議等			
①女性委員会		・9/10、11/3、2/25、（対面） ・1/30、3/15、3/28（WEB）	
②青年・女性合同委員会（九州ブロック研究会「集い」長崎大会）※令和4年6月25日開催		・4/6、4/19、5/18、6/2（WEB） ・5/12、6/20、7/2、7/7、11/30（対面） ・各分科会4回～7回（集いまで）	
③九州ブロック会議		4/16：福岡、6/25：長崎、11/12 佐賀	
3.大会等への参加			
・全国会議、全国大会		・全建女（7/17～18 東京都） ・建築士会全国大会（10/14～15 秋田県）	
4.その他			
①住宅フェア参加	パネル展示のみ「和の空間」10カ所	1カ所	長崎市：日程・場所 10/21～10/24 長崎県庁1Fロビー
②魅力ある和の空間ガイドブック長崎県版作成		・長崎 市：吉田家住宅 ・東彼杵郡：田中家住宅 ・雲仙 市：永松家住宅	

熊 本

- 通年の活動
 - ・毎月第4土曜日の住まいづくり相談会（R4：21件）
 - ・瓦版の発行（R4：3回）
 - ・Facebookでの活動発信
 - ・女性建築士の震災記録簿作成の継続
- 今年度の活動予定（上記以外）
 - ・研修会（R4：「熊本地震震災ミュージアム」現場見学会、「安心・安全・安らぎの家」セミナー
R5：「自然災害に備えて住まいづくりの勘どころ」セミナー他）
 - ・女性部会交流会（R4：4月、3月、R5：4月、2月）

大 分

大分県建築士会青年女性委員会では、女性会員限定イベントとして年に一度「建築女子会」を開催しています。コロナ禍の2年間は開催できない状況でしたが、昨年の12月に開催することができました。開催場所は大分県の南部にある佐伯市で、佐伯城下町の建物を見ながら歴史を学び、2020年に竣工した佐伯市のホールを見学し、昔の商人町の風情が漂う船頭町の街並みを散策し、佐伯市の美味しい料理をいただきながら建築女子の結束を固めました。参加者は会員17名、子供2名、非会員5名、合計24名でした。今回は3年ぶりの開催ということもあってか、参加者同士のおしゃべりが尽きず、大変賑やかな会になりました。また、イベント参加が久しぶりの会員、子連れ参加の会員、初めてイベントに参加する会員、非会員の参加があり、大変意義のある会になったと思います。今年度は、大分県北部の町で開催する予定です。

宮 崎

年に1度の研修会を久しぶりに実施することができました。宮崎県建築士会創立70周年記念事業でもあったため、これからを担う子どもたちを巻き込むイベントにしたいという思いから「お菓子の家づくり」を開催しました。初めてのことで年度初めに委員会メンバーで試作会を行ったところ、チョコレートが溶けてしまい夏場には向かないこと、部材となるお菓子は適しているものとそうでないものがあることがわかり、お菓子とお菓子をくっつける接着剤も試行錯誤でした。そんな時に長崎県さんが過去に実施されていたことを知り、アドバイスをいただいたことで、その後の準備はスムーズでした。長崎県さんありがとうございました。イベント当日は親子15組32名が参加してくださり、大量のお菓子を前に終始テンション↑↑。お菓子の家でも柱や壁がないと屋根は架かりません。意外と大人のほうが真剣でした。これからはお菓子が建築部材に見えてきそうです。

鹿 児 島

「おごじょミニセミナー」と題した小規模での対面形式セミナーをテーマ別に3回開催。「色：パーソナルカラー&小物作り講座」「歩：種子島見学会」「技：インテリアと豊かな暮らし」と題し、女性ならではのセミナーを充実させた。「建築を語るフリートーキング会」では、建築を学ぶ学生へのプレゼンテーションを会員が担当し、学生との交流を動画撮影、後日YouTube配信を予定している。熊毛支部では小学生を対象とした出前授業により校舎の実測による縮尺の授業を実施。年度末には年間活動をまとめた会報誌「よかおごじょ54号」を発行。また、新たな取り組みとして種子島見学会の様子を動画撮影し、YouTube配信を行った。鹿児島は来年度に全国大会を控えているため、さらなる会員増強と会の活性化を図っている。なかなか活動に参加できていない会員や、若い世代が参加しやすい活動となるよう、会員の顔が見える活動発信や気軽に参加できる研修会を増やし、本年度も事業に取り組んでいきたい。

沖 縄

沖縄建築士会では、「建築士交流会in新民家」として、沖縄建築賞正賞、JIA環境建築賞最優秀賞など数々の受賞をした、沖縄における伝統的かつ新しい木造建築「新民家」を見学し、参加者同士の交流を図るイベントを行いました。場所は、今帰仁村と決して交通の便が良いところではなかったのですが、想像以上の参加者が集まり、さらには離島からも参加があり、この建築の魅力も大きかったと思われまます。建築士会から17名、非会員13名、学生1名合計31名参加がありました。さらに先着順として、限定6名で宿泊体験も行いました。宿泊することで、見えなかったものや建築を語り合うことで気づくこともあり、貴重な体験になったと感想をいただきました。参加した若手建築士からは、所属事務所以外の建築士との交流を持ちたいという声もあり、今後も見学交流会イベントを重ねることで士会入会の後押しになるのではと思いました。

令和4年度 女性委員会（部会）アンケート集計

	全会員数	女性 会員数	全委員会 委員数	女性 委員会 委員数	その他の 委員会の 女性 委員数	本会 (親会) の賛助 会員数	会長	女性会長	副会長	女性 副会長	常務理事	女性常務	理事数	女性理事
1 北海道	3,703	258	92	10	10	34	1	0	2	0	4	1	12	1
2 青森	993	70	103	15	4	0	1	0	3	0	6	0	11	2
3 岩手	1,264	125	153	19	6	12	1	0	5	0	1(専務)	0	17	3
4 宮城	792	93	104	13	3	22	1	0	3	1	0	0	21	3
5 秋田	866	69	61	13	3	113	1	0	3	0	4	0	16	2
6 山形	840	79	63	10	3	6	1	0	3	0	5	1	19	3
7 福島	1,627	76	80	14	5	6	1	0	4	1			40	3
8 茨城	1,825	160	103	10	11	139	1	0	3	0	5	0	22	2
9 栃木	1,043	84	133	20	5	161	1	0	4	1	1	1	39	4
10 群馬	1,203	116	119	25			1	0	4	0	17	1	17	3
11 埼玉	1,260	87	69	12	3	86	1	0	3	0	5	1	47	7
12 千葉	1,558	162	150	15	12	80	1	0	3	0	1	0	34	2
13 東京	5,172	667	233	24	40	250	1	0	5	1	1	0	23	4
14 神奈川	2,343	319	150	11	28	76	1	0	3	1	7	4	18	4
15 山梨	1,024	85	121	61	8	27	1	0	3	0	0	0	33	4
16 長野	2,128	179	63	4	3	7	1	0	4	0	3	0	22	2
17 新潟	1,763	111	62	9	4	38	1	0	3	0	1	1	27	2
18 静岡	1,164	70	164	0	10	149	1	0	3	0	3	1	9	0
19 愛知	3,334	277	484	28	42	122	1	0	4	1	4	1	6	1
20 岐阜	1,034	81	172	24	15	57	1	0	4	0			20	1
21 三重	739	61	75	6	4	26	1	0	3	0	8	0	12	3
22 富山	1,296	167	100	5	4	125	1	0	2	0	4	0	21	3
23 石川	1,282	136	168	31	21	45	1	0	9	1	10	1	25	1
24 福井	932	86	142	86	17	309	1	0	4	0	7	0	18	3
25 滋賀	778	59	134	14	14	63	1	0	5	0	3	1	35	4
26 京都	1,288	138	111	19		59	1	0	7	1	2	1	37	6
27 大阪	2,570	245		15		139	1	0	5	2	1	0	48	10
28 兵庫	1,373	113	57	10	4	34	1	0	4	1	0	0	30	3
29 奈良	711	80		15		48	1	0	8	1			21	2
30 和歌山	1,163	70	218	29	24	66	1	0	5	1	6	1	24	1
31 鳥取	1,042	66	61	11	5	229	1	0	3	0	1	0	26	4
32 島根	1,196	118	77	11	6	188	1	0	3	0	8	2	8	0
33 岡山	1,234	50		15		74	1	0	3	1	5	0	20	2
34 広島	1,664	145	153	13	18	35	1	0	2	0	3	2	26	4
35 山口	1,652	122	71	8	6	140	1	0	2	0	1	0	24	2
36 徳島	1,025	111	69	8	8	31	1	0	6	1	5	1	12	1
37 香川	1,324	130	104	7	10	106	1	0	3	1			49	5
38 愛媛	1,436	122	76	13	8	53	1	0	2	0	3	0	18	2
39 高知	890	104	70	27		136	1	0	1	0			21	5
40 福岡	1,952	179	125	18	9	12	1	0	6	1	1	0	9	1
41 佐賀	908	90	94	10	5	32	1	0	3	0	3	1	35	5
42 長崎	1,004	69	71	6	1	348	1	0	3	0	0	0	24	2
43 熊本	1,306	146	150	25	24	37	1	0	3	0	11	2	17	1
44 大分	1,073	87	151	10	10	87	1	0	4	0	3	1	31	2
45 宮崎	964	67	74	7	6	131	1	0	5	0	3	0	27	1
46 鹿児島	1,885	127	159	14	0	60	1	0	3	0	13	1	42	2
47 沖縄	1,011	114	113	10	14	80	1	0	4	1	2	0	28	2
合計	68,634	6,170	5,302	780	433	4,078	47	0	177	18	170	26	1,141	130

	支部長	女性支部長	委員長数	女性委員長	女性が委員長を勤める委員会	その他の役職	全体予算	交通費	渉外費	活動費	その他
1	北海道	34	0	10	1女性	監事	526,000	138,000	170,000	218,000	
2	青森	10	0	8	1女性		200,000	50,000	28,000	62,000	60,000
3	岩手	13	0	11	2女性、岩手地域貢献活動センター		100,000				
4	宮城	14	0	9	1女性		375,000	0	15,000	260,000	合計 ¥100,000 活動報告作成発送費 (70000) WEB会議資料コピー代 (30000)
5	秋田	8	0	5	1女性	監事・事業・まちづくり	220,000	60,000	110,000	50,000	
6	山形	9	0	7	2まちづくり、女性		700,000	50,000	300,000	350,000	
7	福島	17	1	6	2女性・会員広報講習		300,000	200,000		100,000	
8	茨城	24	1	7	1女性		980,000	0	90,000	810,000	80,000
9	栃木	12	1	7	1女性		600,000	100,000	100,000	100,000	300,000
10	群馬	12	0	8	1女性	専務理事	300,000	100,000	100,000	100,000	
11	埼玉	14	1	5	1女性	常務理事	200,000	別途		200,000	
12	千葉	21	0	8	2女性、まちづくり		600,000	10,000	200,000	200,000	70,000
13	東京	12	1	15	2女性、環境	副委員長・監事					
14	神奈川	9	0	10	3女性、防災・災害対策、まちづくり		260,000	50,000	96,000	76,000	38,000
15	山梨	10	0	5	0		400,000	75,000	120,000	25,000	32,000
16	長野	14	2	8	0						※委員会としての予算は無し
17	新潟	15	0	6	1女性						※女性委員会としてではなく事業ごとで予算を決めています。
18	静岡			8	0						
19	愛知	21	1	16	2女性、建築相談	青年委員会副委員長、構造委員会副委員長、まちづくり委員会福祉部会長	1,094,000	200,000	264,000	430,000	200,000
20	岐阜	8	0	8	1女性		890,000	340,000	284,000	245,000	21,000
21	三重	10	0	8	2女性、防災・福祉まちづくり		246,530	92,270	130,660	23,600	
22	富山	8	1	6	2広報、女性		321,410	66,000	140,000	113,410	2,000
23	石川	11	0	9	1女性		800,000	20,000	263,920	514,800	1,280
24	福井	8	0	8	3CPD・専攻建築士、まちづくり、女性		200,000				
25	滋賀	8	2	10	1女性		約300000				
26	京都	8	0	11	1渉外交流		202,301		68,280	134,021	
27	大阪	—	—	14	5女性、賛助、耐震インスペクション、建築相談、ヘリテージ		▲100000				
28	兵庫	14	1	6	1女性	副会長、支部長	460,620	39,000	63,620	280,400	77,600 (印刷費)
29	奈良	10	0	9	1総務・企画、教育・事業、情報・広報、住まいまちづくり、女性、青年、建築士試験、制度特別、歴史的建造物		161,200				
30	和歌山	9	0	10	1女性						行事等ごとの予算の為全体等はありません
31	鳥取	3	0	6	2女性、まちづくり		200,000				
32	島根	11	0	7	2総務、女性	専務理事	750000	200,000	50,000	500,000	
33	岡山	11	0	9	1教育事業	副委員長	798,000	200,000	200,000	200,000	198,000
34	広島	7	0	11	3女性、まちづくり、CPD・専攻建築士制度	相談役	425,510	61,840	133,000	87,660	143,010
35	山口	13	1	5	2教育・事業、総務・企画	女性部長	1,080,000	597,270	58,500	400,000	24,230
36	徳島	9	0	6	2事業貢献、男女参画		660,000	30,000	300,000	330,000	
37	香川	5	1	6	1女性	監事	700,000	50,000	344,000	280,000	26,000
38	愛媛	10	0	6	1女性		799,000	524,680	88,160	186,160	0
39	高知	14	2	8	2女性、事業		407,000	102,200	206,000	98,800	
40	福岡	14	0	8	0		825,000	150,000	別途予算	675,000	
41	佐賀	11	2	9	3総務財務、広報、女性		685,482	170,482	200,000	315,000	
42	長崎	10	0	8	2広報、女性		260,000				
43	熊本	12	0	12	2編集、女性		300,000	100,000	100,000	100,000	
44	大分	14	0	12	1建築士試験・登録対策、CPD・専攻建築士制度						
45	宮崎	10	0	11	1女性						
46	鹿児島	13	1	10	0		740,000	130,000	160,000	450,000	0
47	沖縄	15	0	8	0		270,000	220,000		50,000	
合計		545	19	400	68						

10 全国大会「しずおか大会」参加のご案内



SHIZUOKA Convention 2023

特集 第65回 建築士会全国大会 「しずおか大会」への いざない

本年度の建築士会全国大会は、
静岡県静岡市で(公社)日本建築士会連合会主催、建築士会東海北陸ブロック会共催、
(公社)静岡県建築士会主管により、2023年10月27日(金)に開催される運びとなりました。
静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップを主会場とし、
大会式典、記念講演、大交流会、交流セッションなど充実したプログラムが開催される予定です。
また、静岡県内各地を見学する地域交流見学会(エクスカーション)も見どころが満載で、
充実した9コースが用意されています。
富士山、浜名湖をはじめとする静岡の豊かな自然と歴史に育まれた文化に触れながら
未来のまちづくりについて全国の建築士が集い考える機会になることを期待します。



写真提供…富士市

より高く、
より深く、
語り合おう
これからのローカル

10.27 [FRI]
2023

[後援] 国土交通省 静岡県 静岡市 浜松市
(一社) 静岡県商工会議所連合会 静岡商工会議所
(一財) 静岡県建築住宅まちづくりセンター (予定)

歴史と文化の継承

ローカルに生きる



SHIZUOKA

第65回建築士会全国大会
しずおか大会

2023年10月27日(金)
静岡グランシップ

[主催](公社)日本建築士会連合会
[共催]建築士会東海北陸ブロック会
[主管](公社)静岡県建築士会
大会事務局
〒420-0033 静岡市葵区昭和町9番5号 第2大石ビル7階
TEL: 054-254-9381 FAX: 054-273-0478
URL: <http://www.shizu-shikai.com/>
E-mail: honkai@shizu-shikai.com
全国大会専用 E-mail: 65taikai@shizu-shikai.com

第65回 建築士会全国大会「しずおか大会」のご案内

歴史と文化の継承

～ローカルに生きる～

飯尾清三 | (公社)静岡県建築士会 会長



第65回建築士会全国大会の開催は47年ぶりの[しずおか大会]となります。

「ふじのくに静岡」の地へ全国各地よりご参集頂けますよう皆様にご案内申し上げます。

静岡県は中部地方の太平洋側に位置し、霊峰富士を仰ぎ見、駿河湾に面した東西に長い県です。古くは西より遠江、駿府、伊豆の三国からなり各々に固有の文化、歴史、伝統を築いてきました。

開催地の静岡市は静岡県の中央に位置し、城下町として発展した商業の色合いが濃いエリアです。旧東海道ならではの宿場町の風情を残し、徳川ゆかりの歴史・文化を色濃く残しています。また静岡市の東には霊峰富士が裾野を広げており、四季折々の豊かな表情を見せその雄大さを感じることが出来ます。

東部エリアには富士山から南にくびれて伊豆半島になり、自然豊かな美しい景観にあふれ、落ち着いた雰囲気温泉が多点在します。数多風光明媚な観光地もあり、海の幸山の幸に恵まれたエリアとなります。

西部エリアは自動車、楽器などのものづくりの街として知られながらも、浜名湖畔や里山に広がる景観などいづこも自然に恵まれた地域です。

一方で静岡県全体としては中近世の時代より交通の要所として、東西の文化や経済の影響を受けながら発展しました。県内においても特色のある東部・中部・西部それぞれの歴史と文化が混在して今に至っています。

静岡県に生きる建築士として、気候風土と自然環境にやさしいまちづくりを目指し、伝統と文化、街並みを次の世代へ継承しなければなりません。

ここに「歴史と文化の継承」～ローカルに生きる～をテーマとして、ローカルに魅力と活力を与え元気なローカルを目指し挑戦することを「ふじのくに静岡」の地から発信します。

皆様には「ふじのくに静岡」にて、静岡の文化・歴史・グルメなどの魅力を存分に堪能していただきたいと思います。

「ふじのくに静岡」にてお待ちしております。



SHIZUOKA
全国大会 しずおか大会
歴史と文化の継承 ～「ローカルに生きる」～
より高く、より深く 語りあおう これからのローカル

DESIGN CONCEPT

シンボルマークは日本一高い山「富士山」と日本一深い湾「駿河湾」を柔らかな曲線で囲まれた四角形でシンボリックにデザインし、「これからのローカル」を「より高く」、「より深く」語り合うことも重ねて表現しています。また使用色は自然豊かな静岡県の山々や海をイメージさせる濃青色としました。中央の緩やかに横に貫く曲線は、静岡の歴史と文化の中心的存在となっている「東海道」を表し、右肩上がりの曲線は「未来に継承していくこと」も意味しています。

大会概要

テーマ

歴史と文化の継承

～ローカルに生きる～

より高く、より深く、語り合おう
これからのローカル

会場…静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ
静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

期日…令和5年10月27日(金)

主催…公益社団法人 日本建築士会連合会

共催…建築士会東海北陸ブロック会
(愛知・岐阜・三重・静岡・福井・石川・富山)

主管…公益社団法人 静岡県建築士会

後援…国土交通省、静岡県、静岡市、浜松市
(一社)静岡県商工会議所連合会 静岡商工会議所
(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター 予定



会場 静岡県コンベンションアーツセンター／グランシップ



日本平 夢テラス



三保の松原(世界遺産・景勝地)



静岡県富士山世界遺産センター



浜松城 天守閣



久能山 東照宮



掛川城 天守閣



富士山本宮浅間大社 本殿・拝殿・幣殿



駿河国総社 静岡浅間大社 大拝殿



三嶋大社 本殿



蓬萊橋



沼津御用邸記念公園 西附属邸



葦山反射炉



うどん



しぞーかおでん



サクラエビ



浜松餃子



緑茶



わさび



富士宮やきそば



うどんパイ

主なスケジュール

10月26日(木) 大会前日

プログラム	時間	場所	室名
① 第12回まちづくり賞発表会&公開選考会	12:30~15:30	中島屋グランドホテル	4階 オーキッド
② 記者会見	13:30~14:30	ホテルグランヒルズ静岡	4階 スモールルーム
③ 連合会理事・士会長合同会議	15:00~17:00	ホテルグランヒルズ静岡	4階 クリスタルルーム
④ 全国建築士フォーラム	16:00~21:00	ホテルアソシア静岡	3階 駿府
⑤ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会	16:30~18:30	中島屋グランドホテル	4階 オーキッド

10月27日(金) 大会当日

プログラム	時間	場所	室名
⑥ 総合受付	9:00~17:00	グランシップ	1階 エントランスホール
⑦ 青年委員会セッション(地域実践活動発表会)	10:00~12:00	グランシップ	11階 会議ホール 風 (300名)
⑧ 女性委員会セッション	10:00~12:00	グランシップ	9階 910会議室 (138名)
⑨ 街中(空き家)まちづくりセッション	10:00~12:00	グランシップ	10階 1001-1会議室 (120名)
⑩ 福祉まちづくりセッション	10:00~12:00	グランシップ	9階 904会議室 (72名)
⑪ 防災まちづくりセッション	10:00~12:00	グランシップ	9階 908会議室 (72名)
⑫ 景観・歴史まちづくりセッション/第10回全国ヘリテージマネージャー大会	10:00~12:00	グランシップ	6階 交流ホール (300名)
⑬ 木のまちづくりセッション	10:00~12:00	グランシップ	10階 1002会議室 (72名)
⑭ 第17回 木の建築賞	10:00~12:00	グランシップ	10階 1001-2会議室 (180名)
⑮ 環境部会セッション	10:00~12:00	グランシップ	10階 1003会議室 (60名)
⑯ 情報部会セッション	11:00~12:30	グランシップ	11階 1101会議室 (45名)
⑰ しずおかセッション	10:00~17:00	グランシップ	3階 ロビーホール
⑱ 記念講演	13:00~14:30	グランシップ	1階 中ホール大地 (800名)
⑲ 大会式典	15:00~17:00	グランシップ	1階 大ホール海 (2432名)
⑳ 大交流会	18:00~20:00	ホテルグランヒルズ静岡	5階 センチュリールーム
㉑ 記念展示(パネル展示「建築作品賞」「女性委員会」「伝統的技能者」他)	10:00~17:00	グランシップ	3階 ロビーホール
㉒ 企業出展・物産展・休憩コーナー	10:00~17:00	グランシップ	3階 ロビーホール
㉓ 静岡うまいもの物産展・飲食コーナー	11:00~16:00	グランシップ	屋外芝生広場
㉔ 弁当配布(事前申込分)	11:00~13:30	グランシップ	1階 エントランスホール

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
⑥		総合受付												
⑦ ⑮		交流セッション(青年・女性・街中・福祉・防災・景観歴史・木のまち・木の建築賞・環境)												
⑯		交流セッション(情報)												
⑰		しずおかセッション												
⑱		記念講演												
⑲		大会式典												
⑳		大交流会												
㉑ ㉒		記念展示(作品賞・女性・伝統・企業出展・物産展・休憩コーナー)												
㉓		静岡うまいもの物産展・飲食コーナー												
㉔		弁当配布(事前申込分)												

10月28日(土) 地域交流見学会(エクスカーション)

プログラム(9コース)	時間	出発は全コース共駿府公園/バス駐車場
Aコース 駿河の国 国宝と世界文化遺産探訪	9:00~16:00	JR 静岡駅南口 解散
Bコース とことん富士山コース	9:30~16:15	JR 静岡駅南口 解散
Cコース 静岡茶文化と東海道史跡めぐり	8:45~16:00	JR 静岡駅南口 解散 ※富士山静岡空港 途中下車可能
Dコース 富士山を望む吊り橋と伊豆世界遺産の旅	8:45~17:00	JR 静岡駅南口 解散 ※JR 三島駅北口 途中下車可能
Eコース 伊豆の玄関口 三嶋大社と駿河湾の幸	8:45~17:20	JR 静岡駅南口 解散 ※JR 三島駅北口 途中下車可能
Fコース アニメの聖地 天竜ローカル鉄道と木造天守閣	9:00~17:00	JR 静岡駅南口 解散 ※JR 掛川駅南口 途中下車可能
Gコース 出世の街 浜松城と家康	8:30~16:45	JR 静岡駅南口 解散 ※JR 浜松駅北口 途中下車可能
Hコース おとぎ話の世界と奥浜名湖の歴史めぐり	8:30~17:00	JR 静岡駅南口 解散 ※JR 浜松駅北口 途中下車可能
Iコース 地元ガイドと徒歩でめぐる駿府・家康の功績探し	9:00~12:00	【どうする家康 静岡大河ドラマ館】入場後解散

アクセス

[主要都市から静岡県コンベンションアーツセンター「GRANSHIP」へのアクセス]

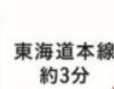


札幌(新千歳空港/丘珠空港)	約1時間45分
福岡(福岡空港)	約1時間35分
沖縄(那覇空港)	約2時間25分

◎その他、鹿児島、熊本、出雲からも就航中です。(2023年4月現在)



宮城(仙台駅)	約3時間20分
東京(東京駅)	約1時間
名古屋(名古屋駅)	約1時間
大阪(新大阪駅)	約2時間



南口から
約400m
(徒歩約5分)



東名高速道路(静岡I.C.)	約20分
東名高速道路(日本平久能山スマートI.C.)	約10分
新東名高速道路(新静岡I.C.)	約15分
静清バイパス(千代田上土I.C.)	約10分



(公社) 日本建築士会連合会
災害対策委員会からのお知らせ

FREE

『浸水被害住宅の
技術対策マニュアル』

出水期に入って早々、台風2号/梅雨前線などによる浸水被害が発生しています。応急・復旧対応にぜひご活用ください。

連合会ホームページからダウンロードできます。↓

https://www.kenchikushikai.or.jp/data/saigai-taiou/202306_info_1-3.pdf

こちらの二次元バーコードからもダウンロードできます→→→



『浸水被害住宅の技術対策マニュアル』
が完成しました！

近年の多種多様な災害に対し、一定の技術を有する「技術ボランティア」と呼ばれる人々が被災地で活躍しつつある中、被災住宅等の安全確保のための応急措置や災害後の復旧を円滑に進めるうえで、行政や建築士会等の組織と技術ボランティアらとの適切な協働が望まれています。

そこで、被災地の建築士の体験を通して得られた災害復旧対策の知見と貴重な体験データを集約し、実用的なマニュアルにまとめることとしました。

マニュアルの内容

- 第1章 はじめに
- 第2章 被災住宅の応急処置と応急復旧工事
- 第3章 被災住宅の相談窓口業務
- 第4章 被災住宅の応急復旧体制の提案

実用的な内容が満載♪

応急処置を急ぎたい建物のトリアージ方法や、被災地相談窓口での具体的な相談事例等...
いろいろ載ってます！



目次

第1章 はじめに

1. マニュアルの考え方と利用方法 0.1

2. 応急措置での基本的な注意点 0.1

第2章 被災住宅の応急処置と応急復旧工事

1. 水害後の復旧までの流れと注意点 0.8

2. 水害後の復旧までの作業の詳細 1.0

3. 復旧に当たっての注意点と推奨する施工方法 3.3

4. 応急修理から本格的な復旧に向けて 4.2

第3章 被災住宅の相談窓口業務

1. 相談内容の経過と分類 4.9

2. 台風豪雨災害における相談活動の状況 5.4

3. 相談員の心得 9.1

4. 相談事例集 9.2

5. 相談票の書式例と参考資料 9.3

第4章 被災住宅の応急復旧体制の提案

1. 応急復旧体制の概要 7.4

2. 応急復旧協会の役割 7.5

3. 応急復旧活動のフローと内容 7.8

4. 応急復旧協会の参考資料 9.2

5. 応急復旧工事の概算費用 9.2

6. 復旧工事概算費用算出シート 9.2

具体的な
相談事例を
Q&Aで掲載

相談が一番多い
「業者選定」と
「概算工事費」について
対応可能な体制構築
を提案



応急処置と応急復旧工事

- * 解体か？応急処置か？？トライアージが必要
- * 応急処置といえど、将来のリフォーム等を考慮する
- * なるべく合理的かつ柔軟な対策を施す
- * カビ発生防止対策や躯体構造の補強も大事

第2章 被災住宅の応急処置と応急復旧工事

1. 水害後の復旧までの流れと注意点

水害の中でも、「浸水被害」における発災直後から復旧までの一般的な作業の流れを示します。応急修理までの作業を示し、その後の本格復旧に関しては本マニュアルでは触れません。

対応すべき事項	注意すべき事項
① 水が引くまで待つ	<ul style="list-style-type: none"> ・水流が激しい場所や浸水している時間が長いと床や壁、設備等への影響が拡大して、復旧が困難となる。 ・建物周囲全ての面と浸水した各部屋の被災状況をできる限り多く撮影する。 ・水は何が混じっているかわからない「汚水」であることを認識し、作業は衛生管理に注意する。
② 被災状況写真撮影	
③ 排水	
④ 家財の撤出・移動	<ul style="list-style-type: none"> ※ここからの作業は被災状況から「解体」と判断した場合は、家財の整理等の必要な作業のみ行うことも検討する。 ※ここからの作業は被災状況から「解体」と判断した場合は、家財の整理等の必要な作業のみ行うことも検討する。 ④～⑨は状況に応じて同時に行う項目がある。
⑤ 床仕上材等の撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・泥出し、応急修理や復旧に不可欠な作業である。 ・合板使用の家具は一般的には使用不可と判断する。 ・「生活ごみ」と「災害廃棄物」は区分し、アスベストに注意する。
⑥ 泥(堆積物)の除去	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ材の材質と被害状況や基礎の高さ(人が入れるか否か)によって撤去するか否かを判断する。 ・基礎形式(べた基礎か布基礎等)で対応が異なる。必要により床材を剥ぎ、水洗いを同時に行う。 ・布基礎のときは元の土をできる限り残して除去する。
⑦ 壁仕上材等の撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・内壁と外壁、また仕上げ材料によって撤去方法が異なる。 ・グラスウール等は乾かず、カビ発生の要因となるため撤去する。
⑧ 設備の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・“使えそう”の判断はやめ、実際に使っても危険性があるため専門業者に点検を依頼する。
⑨ 設備機器の撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水した配管類の保温材(グラスウール等)は撤去する。 ・グレードを上げると応急修理の対象外となることに注意する。
⑩ 消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・用途に合わせて薬剤を選ぶ。 ・カビ防止目的の水溶性薬剤は濡れた部分は効果が低い。
⑪ 乾燥	<ul style="list-style-type: none"> ・自然乾燥は2か月以上要する。床下などに扇風機等で送風する。 ・防犯上から締め切る場合は換気扇を動作させるなど工夫する。
応急修理の実施	

地盤改良杭が露出した住宅



基礎下部が流失した住宅



河川の流出土砂で埋まった住宅



原則解体

土石流の被害を受けた住宅



トライアージ

判断例を紹介

基礎や地盤が良好で建物の損傷も軽い場合



応急処置

お知らせ



多様な自然災害に見舞われるこの日本ですが、今、どのように備えたらいいのか、まず災害を知り、土地を知り、そして住まいというシェルターはどうあって欲しいのか、UIFA JAPON*会員にアンケートを行い、裏面の目次のようにまとめ、足掛け3年かけてこの3月に発刊しました。

この冊子は被災地支援に当たられている現地の方々の相談用に、各地で、住まいの新築・耐震診断・改築・リフォームを検討されている方、まだ予定はないが住まい方を見直してみたいという方々にご活用いただきたく、できるだけ分かりやすくなるよう、イラストも多く入れて作りました。ぜひ、手に取りページを開いてご覧下さい。

冊子をご希望される方は、UIFA JAPONホームページの「問い合わせ」アドレスにご連絡願います。部数が多い場合は、数に限りがありますのでご相談させてください。なお、送料につきましては、ご負担をお願いしておりますのでよろしくお願い致します。

また、UIFA JAPONホームページにアクセスいただきますと（左記QRコード）、閲覧も可能です。

*UIFA JAPON：国際女性建築家会議日本支部

本書は、公益財団法人 建築技術教育普及センターの「令和4年度調査研究助成」を受けて制作したものです。



UIFA JAPON トップページ

<https://uifa-japon.com/>



自然災害に備えて

住まいづくりの勘どころ

https://uifa-japon.com/pdf/UIFAJAPON_Preparing_for_Natural_Disasters_2023.pdf

A章

災害から学び、
防災、減災を考えるLearning from Disasters and Thinking
about Disaster Prevention and Mitigation

1. 災害は住まいの色々なところに p6
2. 地震災害 p8
- (1) 住まいへの影響
- (2) 住まいを耐震化
- (3) 他にすべきこと p10
3. 水害(水災)・土砂災害
- (1) 水害(水災)の視点から
- (2) 水害(水災)への予防策
- (3) 先人からの知恵を伝えて
- (4) 土砂災害の視点から p12
4. 風災害
- (1) 風と家の向き
- (2) 風対策 p13
5. 雪災害
- (1) 雪災害のポイント
- (2) 雪対策 p14
6. 感染症
- (1) 新型コロナウイルス対策に学ぶ
- (2) 予防策を考える
- (3) 在宅勤務への対策
- (4) 自宅療養隔離への対策 p14
7. 地域特性のある災害
- (1) 火山災害
- (2) 高温・多湿・陽射し対策
- (3) 海沿いの地域では塩害に注意

B章

敷地を知る

Knowing the Site of Your Housing

1. 敷地の情報収集 p16
- (1) 情報知識の活用
- (2) ハザードマップを見て
- (3) 土地の歴史からの情報収集 p18
2. 敷地を確認
- (1) 河川氾濫の恐れ
- (2) 活断層の有無とゆれやすさ
- (3) 高潮・津波の恐れ
- (4) 急傾斜地の近くでは?
- (5) 液状化の恐れ
- (6) 造成地では?
- (7) 災害の危険度(リスク)を確認 p20
3. 近隣・移動環境
- (1) 災害時の関連施設
- (2) 災害時必需品の入手
- (3) 避難の方法を確認
- (4) 地域のコミュニケーション
- (5) 危険箇所があるか p23
4. これから敷地を選ぶ場合
- (1) 敷地は多少不便でも
- (2) 地盤調査のすすめ

C章

災害に備えた
住まいづくりの勘どころKey Points for Preparing Your Housing
for Disasters

1. 家に長く住み続けるために p24
- (1) 基本的な考え方
- (2) 間取りについて p27
2. 災害に備えた住まいづくり
- (1) 玄関ポーチ
- (2) 玄関
- (3) 階段
- (4) トイレ・脱衣室・浴室
- (5) 居間・食堂
- (6) 台所
- (7) 個室・主寝室
- (8) ガレージ p34
3. 災害に備える設備
- (1) 熱源について
- (2) 電気について
- (3) 給排水設備について
- (4) 貯湯式の電気温水器や井戸
- (5) 通信手段 p37
4. 災害別の対策
- (1) 地震対策
- (2) 浸水想定区域での対策
- (3) 風対策
- (4) 感染症対策 p41
5. 集合住宅の注意点
- (1) ドアの対策
- (2) エレベーターは難題
- (3) バルコニーから隣戸(下階)へ避難
- (4) 自然換気
- (5) リフトーム
6. 災害に備えたリフォームの実例 p44

D章

防災の身近な備え

Disaster Preparation

- 発災 p46
- (1) 怪我をしないために
- (2) 正確な情報を得るために
- (3) 家から安全に出るために
- (4) 防災グッズ p48
- 安否確認と被災後の生活
- (1) 何はともあれ、連絡をしたい
- (2) 停電に備えよう p50
- 復旧までの期間
- (1) 飲料水の確保
- (2) 生活用水の確保
- (3) 簡易トイレは必需品
- (4) ガソリン、灯油の確保
- (5) 備蓄食品を準備しよう p52
- 被災を乗り越える
- (1) 自然と暮らす生活スタイル
- (2) 貴重品、書類の保管、管理
- (3) 我が家の整備点検を普段から
- (4) 一緒に育む生き抜く力

1 2 協賛団体・企業

協賛団体・企業

(順不同)

豊でおもてなしプロジェクト実行委員会
一般社団法人 石川県建設業協会
一般社団法人 石川県建築士事務所協会
一般財団法人 石川県建築住宅センター
NPO法人バリアフリー総合研究所
株式会社 建築資料研究社 日建学院
株式会社 総合資格
エーアンドエー株式会社
福井コンピュータアーキテクト株式会社
みづほ工業株式会社
兼六建設株式会社
株式会社 中東
株式会社 トーケン
菱機工業株式会社
株式会社 金太
株式会社 五井建築研究所
第一電機工業株式会社
米沢電気工事株式会社
グラフィソフトジャパン株式会社
橘建設株式会社
株式会社 ディオス金沢
株式会社 豊蔵組
白山建設株式会社
株式会社 別川製作所

建築士会東海北陸ブロック会
建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会
石川県建築士会金沢支部
石川県建築士会富来支部

他、会員有志からご協賛いただきました。

* 令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会開催にご協力・ご協賛いただき感謝申し上げます。

受講生ファーストの 日建学院

日建のここが
すごい

POINT 5

POINT
01

1993年～2022年の
1級建築士合格実績

この30年間に誕生した1級建築士の
半数以上が
日建学院の
受講生です!

1級建築士 合格実績

No.1

日建学院

1993年～2022年の合格実績

1級建築士 (全国累計146,291人[※])

76,529人

当学院の1級建築士
合格者占有率 **52.3%**

この30年間に誕生した1級建築士の
半数以上が日建学院の受講生です!

※上記全国累計は(公・財)建築技術教育普及センター発表試験結果
(1993～2022年)のデータです。



日建学院は
建設キャリアアップシステム(CCUS)の
登録技能者を応援しています!

スキルアップ講座の無料受講
特別割引での各種講座受講など

詳しくは、日建学院ホームページでご確認ください。

あなたの夢、応援します。

日建学院

POINT
02

おかげさまで10冠達成! 外部調査機関調べ

総合満足度
顧客満足度

建築士講座



No.1



- リポート満足度
- 使用教材の満足度
- カリキュラム充実度
- 価格の満足度
- 設備体制学習環境の充実度
- 職員の対応サポート力
- 担当者の最適なコース提案力
- 感染対策の満足度

日本マーケティングリサーチ機構 調査概要:2021年9月期_顧客満足度調査

POINT
03

私も日建学院で 1級建築士を 取得しました!



代表取締役 馬場 栄一

だからこそできる
受講生ファースト!
コンプライアンスを
重視し、
徹底的にサポート!

1992年 3月 早稲田大学
理工学部建築学科卒業
1992年 3月 大成建設株東京支店入社
※在職中に1級建築士/
1級建築施工管理技士
取得(日建学院 通学)

POINT
04

大学生の 1級建築士合格者の 多くが日建学院生です!

九州工業大学 70.0%	大阪市立大学 66.7%
日本女子大学 64.3%	関東学院大学 58.3%
名古屋大学 57.1%	滋賀県立大学 57.1%
大分大学 55.6%	大阪大学 55.2%
東京大学 54.5%	日本工業大学 52.6%

※上記数値に無料の役務提供者及び、模擬試験だけの受講生は含まれておりません。
※2023年1月末日の当社独自調べによる速報値です。(2022年度合格者占有率)

POINT
05

建築士法改正後、 1級建築士 全国最年少合格者(20歳)も 日建学院から輩出しました!



最短ストリート
合格者続々!

1級建築士合格/
甲斐 碧さん

1級建築士合格/
小林 身衣さん

各種資料請求
お問合せは

日建学院コールセンター

フリーコール 0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1
受付/10:00~17:00(年末年始12/28~1/5、土・日・祝日を除く)



他の追随を許さない唯一無二の「講習システム」と「合格実績」

令和4年度 1級建築士 学科・設計製図試験

[令和4年度 学科+設計製図]
全国ストレート
合格者占有率

No.1 57.9%



全国ストレート合格者 1,468名中 / 当学院当年度受講生 850名

令和4年度 1級建築士 設計製図試験 卒業学校別実績(合格者数上位10校)

右記学校卒業生
当学院占有率

58.1%

右記学校出身合格者 807名中/
当学院当年度受講生 469名

学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院占有率	学校名	卒業合格者数	当学院受講者数	当学院占有率
1 日本大学	149	91	61.1%	6 工学院大学	63	48	76.2%
2 東京理科大学	123	67	54.5%	7 明治大学	60	34	56.7%
3 芝浦工業大学	96	62	64.6%	8 法政大学	56	33	58.9%
4 早稲田大学	79	36	45.6%	9 神戸大学	55	28	50.9%
5 近畿大学	74	46	62.2%	10 千葉大学	52	24	46.2%

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会[No.1表示に関する実態調査報告書]に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数・卒業学校別合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和4年度1級建築士学科試験に合格し、令和4年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※卒業学校別実績について総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。(令和4年12月26日現在)

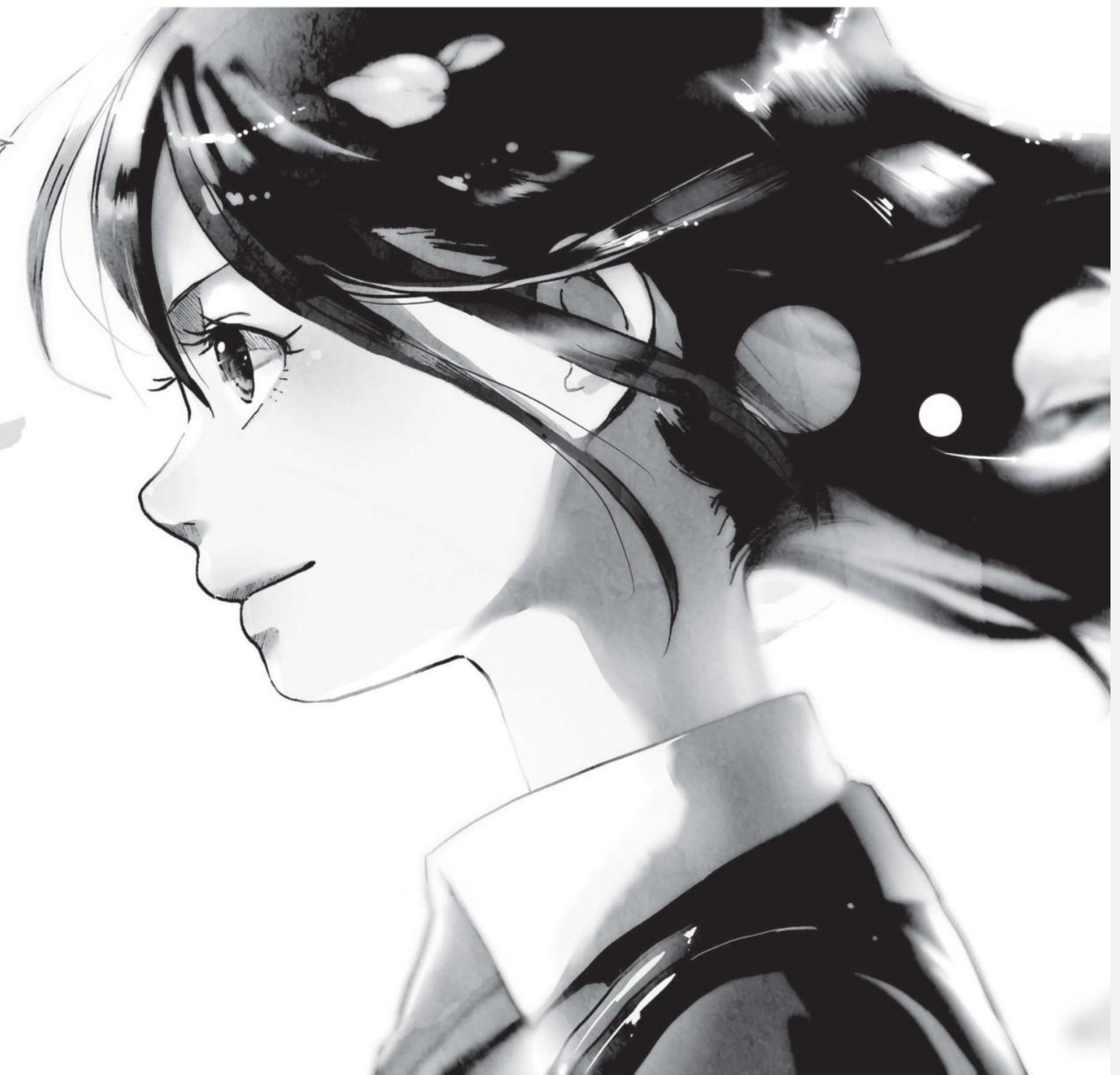


総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル22階
TEL.03-3340-2810



スクールサイト
www.shikaku.co.jp 総合資格 検索
コーポレートサイト
www.sogoshikaku.co.jp



＼あなたの周りの建築士受験生にも是非ご紹介ください！



1級・2級建築士試験の
解答・解説書や 模擬テスト など 無料 でご用意!!



学生/元受講生/提携企業社員/他講習生対象
受験生応援キャンペーンがスタート



合格実績No.1の総合資格学院が
受講料を大幅に割引きます



キャンペーン期限: 令和5年10月31日まで



Twitter ⇒「@shikaku_sogo」
LINE ⇒「総合資格学院」で検索!

開講講座 | 1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理/構造設計1級建築士/設備設計1級
建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士/賃貸不動産経営管理士
法定講習 | 一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/第一種電気工事士定期講習/
監理技術者講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習

SUPERCHARGE YOUR WORKFLOW

先進的な BIM・インテリア支援機能を搭載した、建築・内装業界向け製品

01 ダイレクトモデリング

ドアや窓を直感的にダイレクトに作成・編集できる機能を搭載し、設計プロセスをスムーズにしました。

02 レベル基準線

立断面図に必要なレベル基準線もビューポート内で指定するだけで作成でき、設計図書の作成効率が向上しました。

03 造形図形の改善

地形モデルにおける造成図形が強化され、さらに現実に近い土地形状計画を可能にしました。



VECTORWORKS®
ARCHITECT

Vectorworks Architect 2023 スタンドアロン版
標準価格: 490,600円(税込)

Vectorworks Architect 2023 スタンドアロン版
(Vectorworks Service Select/バンドル)
標準価格: 524,700円(税込)



測定基準:

<ストーリー>

スラブ天端

床仕上げ

スラブ下端

スラブ天端

22500mm

床仕上げ

18900mm

床仕上げ

15300mm

床仕上げ

11700mm

厚さ: 500 mm

マテリアルごとの内包CO₂



アルミニウム
3603 kgco₂



コンクリート
2504 kgco₂



ガラス
1147 kgco₂



木材
3228 kgco₂

デッキ

コンクリートスラブ

OAフロア

断熱アルミパネル

木柱

カーテンウォール

CLT梁

BIMをもっと身近に

エーアンドエー株式会社とフローワークス合同会社が業務提携。フローワークス合同会社がBIM効果を最大限に発揮することのできる Vectorworks Architect のテンプレートを開発し提供。ダウンロードはこちらから。

<https://flowworks.jp/bimstarterpac/>



A&A エーアンドエー株式会社

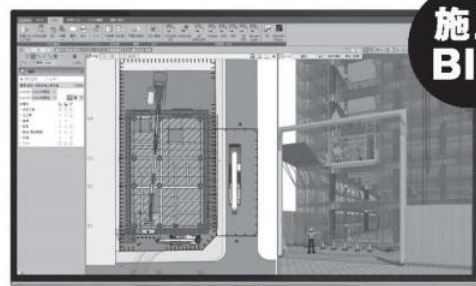
普段使いのBIMを目指して
 国産BIMが繋ぐ“建築現場のデジタルツイン”

GLOBE 2023
 Architect / Construction

点群アシスト機能追加!



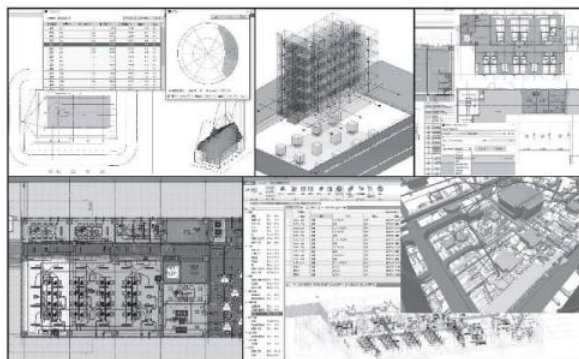
設計
 BIM



施工
 BIM

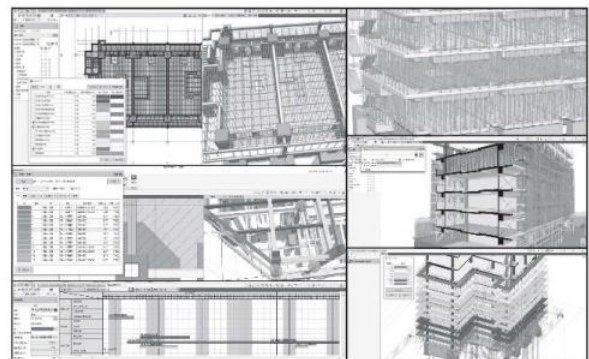
GLOBE BIM建築設計システム
 Architect

自由度の高いデザイン機能、基本設計を元にした実施設計、建築基準法に沿った法規チェック等、日本の設計に最適化された機能を内包し設計業務の生産性向上に貢献します。



GLOBE BIM施工支援システム
 Construction

2D施工図と3D施工モデルを徹底追及。施工フェーズの見える化と建築生産業務の効率化を支援。デジタルツインの実現と建築現場の生産性向上に貢献します。



GLOBE Architect / GLOBE Construction
30日間無料体験版公開中!

- 体験版ダウンロード
- 製品詳細
- イベント情報
- お問合せは
- WEBでお気軽に!
- GLOBE



建設業の思いを創る。
INNOVATION for ALL.

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社 / 〒910-297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6
 札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

【福井コンピュータグループ総合案内】

0570-039-291

<https://archi.fukuicompu.co.jp>

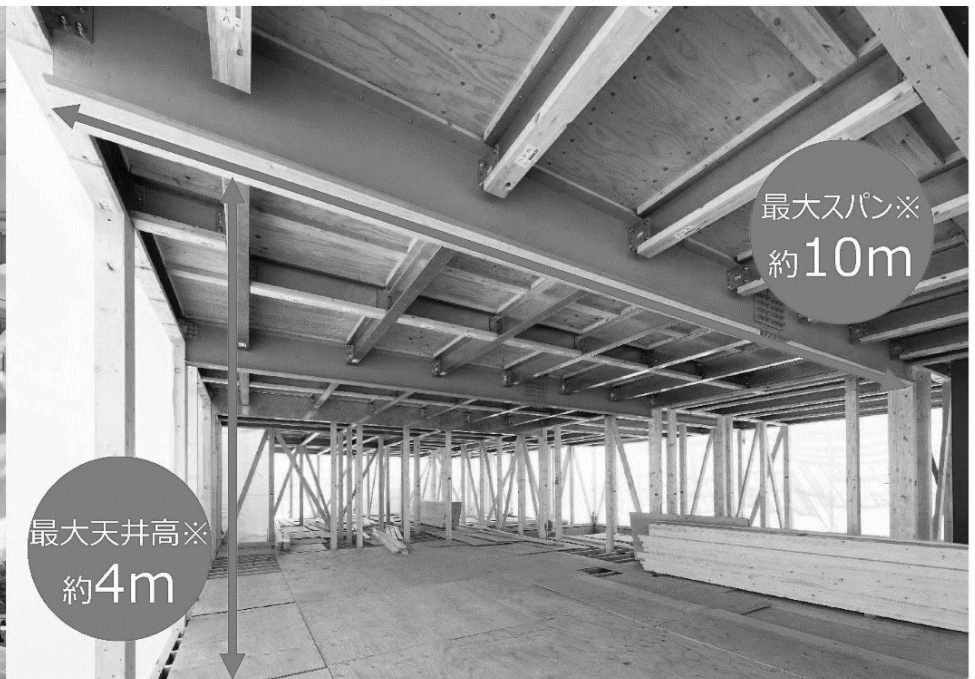
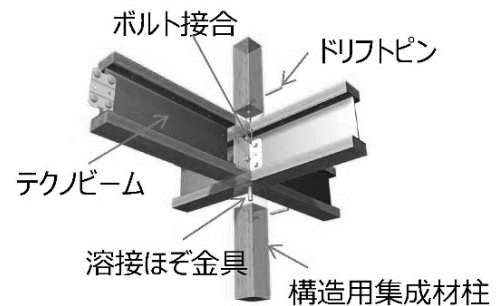
中大規模建築物の新しい選択肢

私たち、みづほ工業は
中大規模建築物の木造化に積極的に取り組み
地球環境に配慮した「住み続けられるまちづくり」に貢献します。

パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

こんな計画にお勧めです

- ◆コスト削減に苦慮している鉄骨造
- ◆大空間が取れずに困っている木造
- ◆部材調達と納期が厳しい、急ぎの計画



動画でチェック

テクノストラクチャーで実現する木造大規模建築



新しい建設サービス業の展開

MIZUHO

みづほ工業株式会社

〒921-8064 石川県金沢市八日市5丁目562番地
TEL 076-240-7010 FAX 076-240-6620
ホームページ <https://www.mizuho-co.com/>





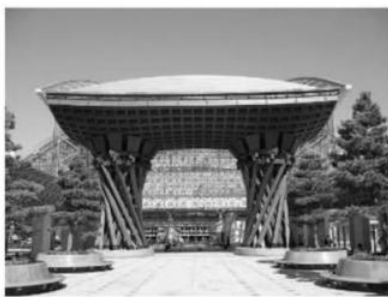
歡びの空間を創造する…

総合建設業

兼六建設株式会社

代表取締役社長 橋本 和宏

〒920-0364 石川県金沢市松島2丁目20番地
TEL (076) 249-2211(代) FAX (076) 249-2212



**CLT
GLULAM**



株式会社 中東

石川県能美市岩内町ヤ1-9

tel 0761-58-0100

fax 0761-58-0210



トークンはダイバーシティ経営を目指します
キーワードは「人を大切にする」



障がい者
就労支援事業

Buddy
パティ

植彩インテリアBuddy(パティ)は、障がい者が活躍する地域共生社会の実現を願い、社会福祉法人南陽園とトークンが「相棒」となって手作りしています。

地域共生社会の実現に貢献します

建設総合サービス業

- 建設事業 ●不動産開発事業 ●環境関連事業
- 賃貸マンション事業 ●高齢者介護施設紹介事業

TO 建設総合サービス業
株式会社 トークン

サイテキな環境。

サイテキなビジネスを。

RYOKI 空気調和・給排水設備工事・設計施工

菱機工業株式会社

取締役社長 北川 雅一郎

〈金沢本社〉金沢市御影町10番7号
TEL:076-241-1141
<https://www.ryokikogyo.co.jp/>

東京本社 東京都豊島区西池袋5丁目1番3号 メトロシティ西池袋ビル
金沢支店 金沢市御影町10番7号
新潟支店 新潟市中央区笹口3丁目7番地15
富山支店 富山市黒瀬北町2丁目17番地6

仙台支店 仙台市宮城野区扇町5丁目9番13号
福井支店 福井市開発4丁目119番地
長岡支店 長岡市川崎町2279番地27
長野支店 長野市大字石渡21番地5

会社名	所在地	TEL・FAX	HP QRコード
グラフィソフトジャパン 株式会社	〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12 赤坂ノアビル4階	TEL 03-4570-1234 FAX -	
株式会社五井建築研究所	〒920-0061 石川県金沢市問屋町 2丁目1番地	TEL 076-237-8441 FAX 076-238-9094	
橘建設株式会社	〒921-8151 石川県金沢市窪 7丁目273番地	TEL 076-243-8111 FAX 076-243-8110	
第一電機工業株式会社	〒921-8536 石川県金沢市森戸 1丁目166番地	TEL 076-249-6221 FAX 076-249-4293	
株式会社ディオス金沢	〒921-8116 石川県金沢市泉野出町 3丁目9番16号	TEL 076-241-7105 FAX 076-241-7275	
株式会社豊蔵組	〒920-0867 石川県金沢市長土堀 3丁目13番8号	TEL 076-263-2231 FAX 076-261-0464	
白山建設株式会社	〒924-0815 石川県白山市三浦町 174番地	TEL 076-276-6141 FAX 076-276-6953	
NPO法人 バリアフリー総合研究所	〒924-0023 石川県白山市成町 712番地3	TEL 076-275-7494 FAX 076-275-7404	
株式会社別川製作所	〒924-8560 石川県白山市漆島町 1136番地	TEL 076-277-6700 FAX 076-277-6731	
米沢電気工事株式会社	〒921-8588 石川県金沢市進和町 32番地	TEL 076-291-5200 FAX 076-291-0305	

主催

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会（令和4-5年度）

淡路 孝次 副会長	・秋田県建築士会（女性委員会担当）
本間 恵美 委員長	・北海道建築士会
石貫 方子 副委員長	・大阪府建築士会
筒井 裕子 副委員長	・愛知建築士会
小林 淑子 副委員長	・宮城県建築士会
齊藤 裕美 委員	・北海道建築士会（北海道ブロック）
鈴木 深雪 委員	・福島県建築士会（東北ブロック）
小貫 弘巳 委員	・茨城県建築士会（関東甲信越ブロック）
矢尾 志津江 委員	・石川県建築士会（東海北陸ブロック）
山本 規子 委員	・奈良県建築士会（近畿ブロック）
高源 真由美 委員	・徳島県建築士会（中国四国ブロック）
高橋 由美 委員	・大分県建築士会（九州ブロック）

主管

一般社団法人 石川県建築士会

女性委員会 青年委員会 会員有志

サポートスタッフ

建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）要旨集

「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」～伝統工芸と建築～

2023年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行 公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061

無断転載、複製を禁じます。

©2023 Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations

魅力ある和の空間ガイドブックWEB版 ご案内

人々のライフスタイルが変化する中で、地域の環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続けています。なかでも日本の住まいの中で培われた和室や縁側といった和の空間がなくなりつつあることが危惧されています。このような状況をふまえ、女性委員会では2016年より「和の空間」をテーマに活動してきました。そして、「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築を紹介するガイドブック」を制作しました。

このガイドブックは、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から、「魅力的なもの、これからの居住環境への示唆に富んでいるもの」を、都道府県ごとに数点ずつ選んで紹介しています。和の空間をあらためて捉え直し、今後の設計活動、居住環境づくりに活かしていくこと、多くの方々に全国各地に現存する貴重な建築の魅力を広めることを目的としています。ぜひご利用ください。

金沢城公園玉泉院丸庭園 玉泉庵

かなざわじょうこうえん ぎょくせんいんまるていせん ぎょくせんあん

石川県金沢市





庭を眺めることに配慮された開口部の設え

上：建具を開け庭を望む
下：貫戸を通して見る庭

見どころ

金沢城公園玉泉院丸庭園は、加賀前田家三代当主の前田利常により寛永11(1634)年に作庭が始められた池泉回遊式の大名庭園を再現整備したものである。

当時、幕府役所(庭園を管理する役所)が置かれていた場所に、休憩施設として新たに整備されたのが「玉泉庵」。

屋根は柿(こけら)葺き、外壁は土壁塗りとなっており、庭園内に存在感を持ちながらも調和して佇んでいる。

内部は、建物からの庭園の眺めに配慮し、庭側の建具は全開放できるように作られている。

気軽に立ち寄ることができる休憩室と和室があって、和室では呈茶サービス(有料)が行われており、ゆっくりと庭園を眺めながら抹茶とオリジナル生菓子を楽しむことができる。

照明器具やふすまの引手には、前田家の家紋「梅鉢紋」があらわれていたり、障子には金沢の二俣和紙が用いられているなど、金沢らしさを感じる素材やデザインが随所に用いられている。

また量は、井草産地の北限とされる小松産の井草を用いた貴重な小松葉(こまつおもて)を用いており、京間守法で本格的な茶会にも利用できるようになっている。




庭園と一体となった玉泉庵

【梅鉢】
前田家の家紋
梅鉢をモチーフとした意匠
左：天井照明
右：横引手

【玄関】
木、石、土壁で構成された玄関。華美な意匠はないが、落ち着いた空間で迎えてくれる。式台のクヤキ板、寄付のヒノキの床板は城内の材料が使用されている。



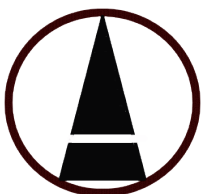

石川県産の杉や能登ひば、能登地方ゆかりの珪藻土、城内の戸窓石など地元の素材がふんだんに使用されている。こちらも庭を眺めることにこだわり建具の納まりなどが工夫されている。

建物名称	金沢城公園玉泉院丸庭園 玉泉庵
建築年	2014(平成26)年9月
構造・様式	木造 平屋建て
所在地	石川県金沢市丸の内1-1 金沢城公園内
電話	076-221-5008(玉泉庵) 076-234-3800(管理事務所)
H P	http://www.pref.shikawa.jp/siro-niwa/kanazawajou/
開館時間	開館から閉園まで (茶室は9:00~16:30 最終受付16:00)
アクセス	金沢駅から 路線バス、周遊バス/タクシー10分など 呈茶サービスあり(有料)
備考	夜間ライトアップあり

おすすめの和の空間を紹介
 全国各都道府県の女性建築士が解説します

編著 日本建築士会連合会女性委員会 都道府県建築士会女性委員会 (女性部会)
 日本建築士会連合会 女性委員会 魅力ある和の空間ガイドブックHP
<https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>





2023年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行者 **公益社団法人 日本建築士会連合会**

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061